

1980～1982年度栗東町埋蔵文化財 発掘調査 資料集



1999. 3.

栗東町教育委員会
(財)栗東町文化体育振興事業団

1980～1982年度栗東町埋蔵文化財
発掘調査 資料集

1999. 3

栗 東 町 教 育 委 員 会
(財)栗東町文化体育振興事業団

例 言

1. 本書は、1980～1982年度に栗東町教育委員会・財団法人栗東町文化体育振興事業団・栗東町埋蔵文化財調査団が実施した埋蔵文化財発掘調査について、1997年度に実施した整理調査の成果を報告するものである。

2. 現地調査は滋賀県教育委員会の指導・助言を得て、栗東町教育委員会を主体として財団法人栗東町文化体育振興事業団・栗東町埋蔵文化財調査団が実施した。尚国庫補助事業および町事業の調査は栗東町教育委員会が実施した。整理事業は栗東町教育委員会の委託を受け、財団法人栗東町文化体育振興事業団が実施した。

3. 整理調査の体制は以下の通りである。

栗東町教育委員会	社会教育課	課 長	乾 澤 亮
	文化財保護係	係 長	奥 村 泰 祥
		主 査	清 水 好 洋
		主 事	福 田 茂 幸
財団法人栗東町文化体育振興事業団			
	埋蔵文化財調査課	課 長	奥 村 明
	調査係	係 長	大 崎 隆 志
		技 師	雨 森 智 美

4. 本書の執筆・編集は調査担当者の意向のもと雨森が行った。

5. 調査内容中の調査地位置図の縮尺は、特に指定しているもの以外は全て5千分の1である。

6. 調査内容中の表にある文献の内容は本書末尾に記載した。

7. 整理作業参加者

調査員 森 智 美

整理員 奥村美枝子 岩 根 隆 子 木村 三津子 矢 戸 貴 子 宮嶋 八重美



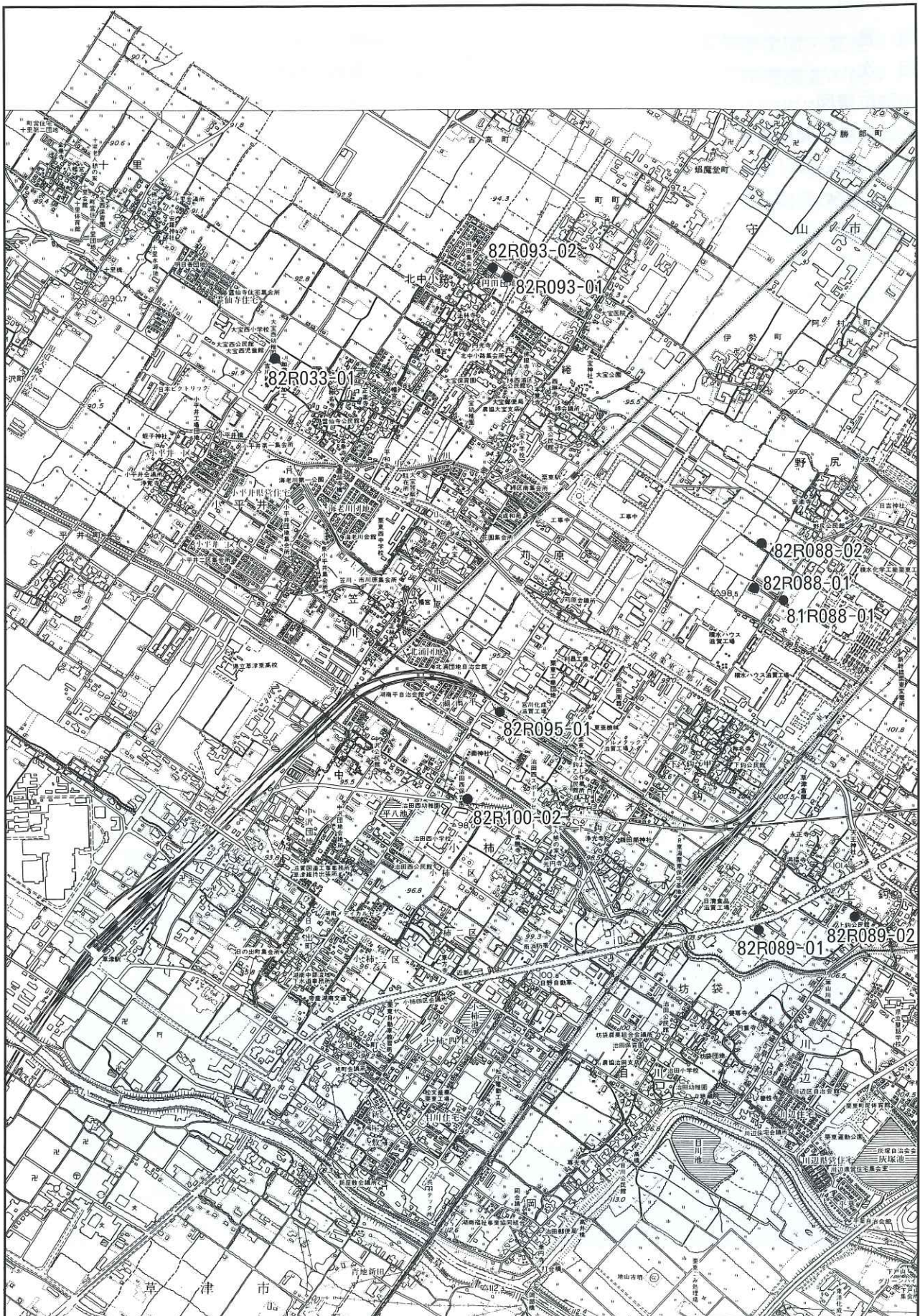
表紙の写真：手原遺跡（82R025-01）の
総柱建物群

目 次

例 言	1	辻 遺跡 (82 R 003-01)	28
目 次	2	霊仙寺遺跡 (82 R 033-01)	29
遺跡位置図	3	中沢遺跡 (82 R 034-01)	31
1980年度の発掘調査	6	小柿遺跡 (82 R 100-02)	33
椿山古墳 (80 R 039-01)	7	小柿遺跡 (82 R 100-01)	35
1981年度の発掘調査	8	椿山遺跡 (82 R 039-01)	36
手原遺跡 (81 R 025-03)	9	中村遺跡 (82 R 057-01)	37
手原遺跡 (81 R 025-02)	11	上鉤遺跡 (82 R 089-01)	39
手原遺跡 (81 R 025-04)	13	上鉤遺跡 (82 R 089-02)	41
手原遺跡 (81 R 025-01)	17	野尻遺跡 (82 R 088-02)	44
野尻遺跡 (81 R 088-01)	18	野尻遺跡 (82 R 088-01)	45
林大塚遺跡 (81 R 009-01)	19	綾 遺跡 (82 R 093-01)	47
1982年度の発掘調査	20	綾 遺跡 (82 R 093-02)	48
手原遺跡 (82 R 025-01)	21	下鉤遺跡 (82 R 095-01)	49
手原遺跡 (82 R 025-03)	23	辻越B遺跡 (82 R 096-01)	51
手原遺跡 (82 R 025-02)	25	高野遺跡 (82 R 092-01)	55
手原遺跡 (82 R 025-04)	26	文献目録	65
手原遺跡 (82 R 025-05)	27		

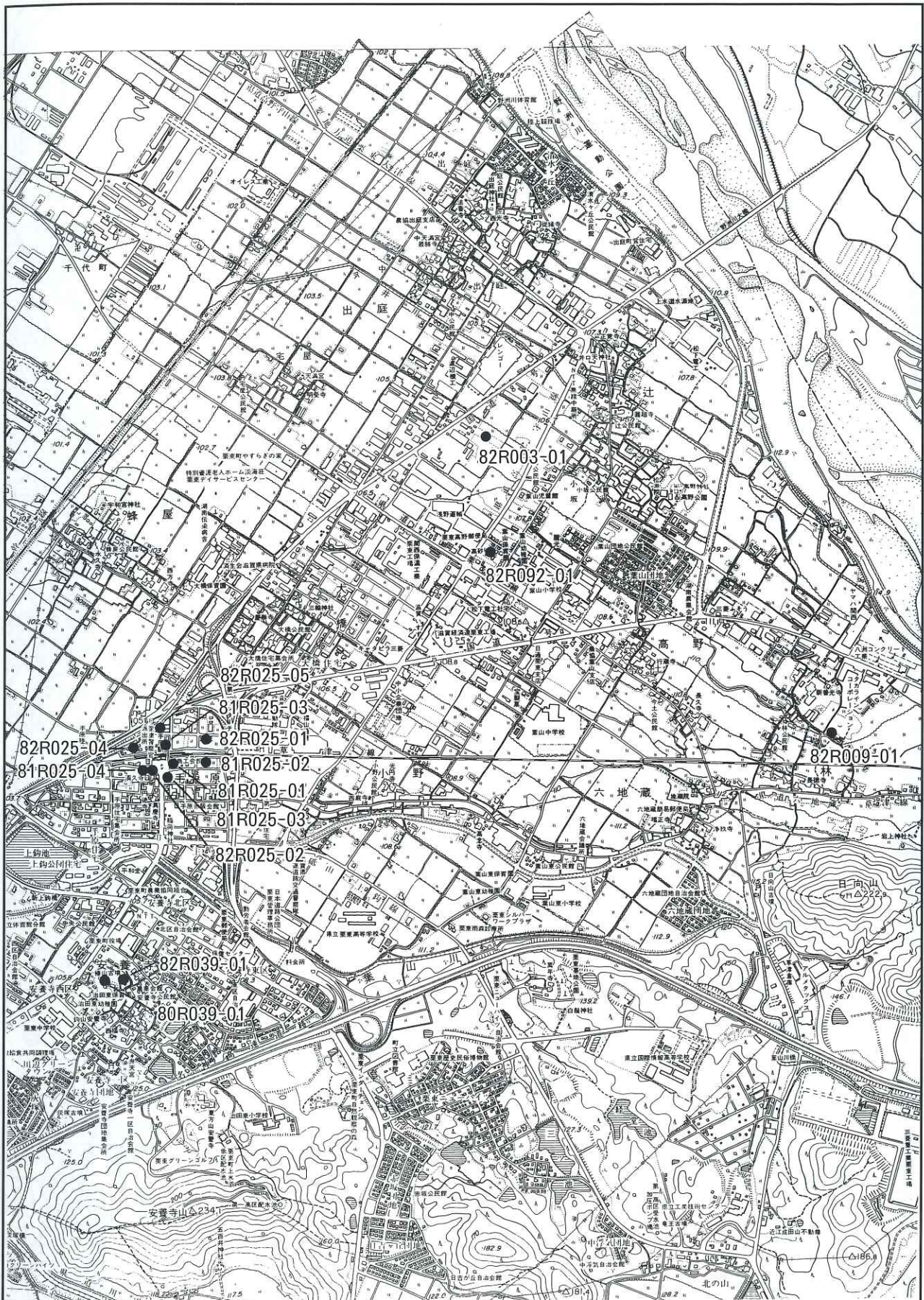


遺跡位置図 (1)



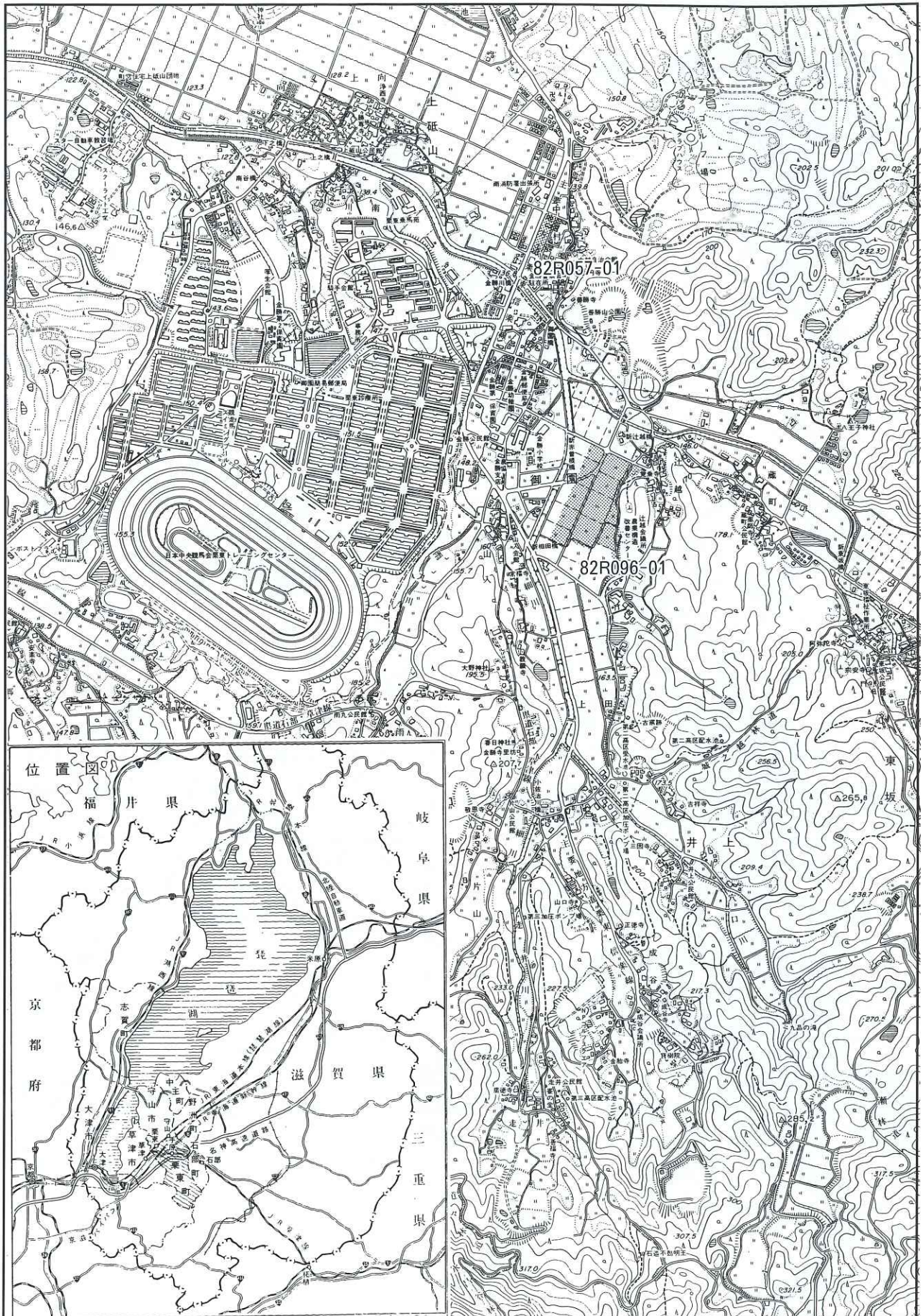
(1 : 20000)

遺跡位置図 (2)



(1 : 20000)

遺跡位置図 (3)



(1 : 20000)

1980年度

1980年度調査一覧表

	遺 跡	調査略号	所 在 地	原 因	調 査 機 関	頁
1	椿山古墳	80R039-01	安養寺	範囲確認	栗東町埋蔵文化財調査団	7

Tsubakiyama

椿山古墳

(80R039-01)

所在地	栗東町安養寺
	北緯 35° 01' 02"
	東経 136° 00' 00"
コード	321-039
調査期間	1981.3.10~1981.3.27
調査面積	
調査原因	範囲確認
調査担当	大橋 信 弥
調査機関	栗東町埋蔵文化財調査団
種 別	墓
主な時代	古墳時代、近世
主な遺構	帆立貝式古墳
主な遺物	近世陶器
文 献	③④⑥



椿山古墳（調査当時）



測量風景

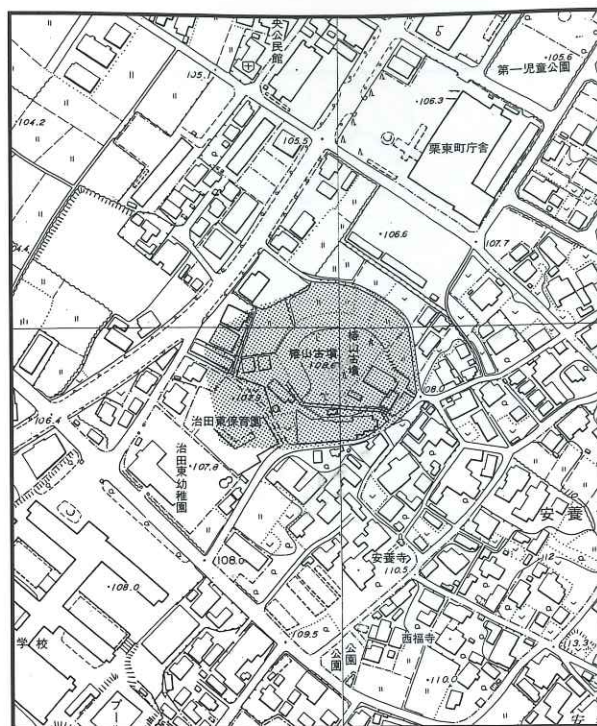


図1 調査地位置図

椿山古墳は安養寺山西側から続く丘陵の端部にある帆立貝式古墳である。測量調査の実施により、本古墳が墳長約99m、後円部径約70m、前方部幅約40m、前方部長約25mであることが明らかになった。これは帆立貝式古墳としては県下最大の規模である。後円部は二段築成と推定されている。

なお、測量調査時に須恵器片と近世陶器片が表採されている。

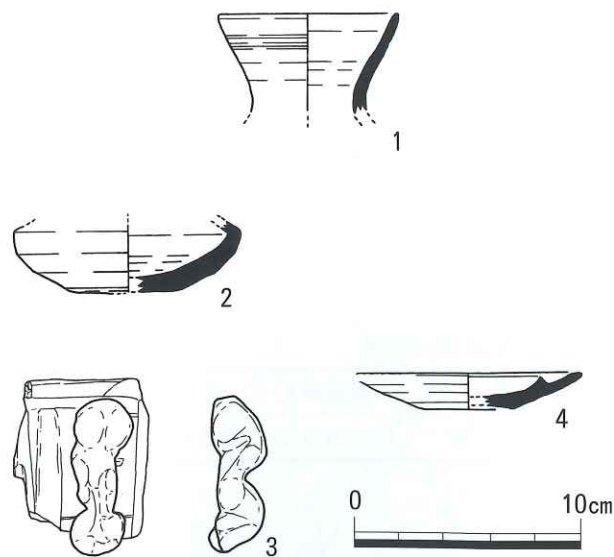


図3 表採遺物実測図

1981年度

1981年度調査一覧表

	遺 跡	調査略号	所 在 地	原 因	調 査 機 関	頁
1	手原遺跡	81 R 025-03	手原字3街区-5区画地	国鉄人道橋	栗東町教育委員会	9、10
2	手原遺跡	81 R 025-02	手原字松黒1236-1	木材倉庫建築	栗東町教育委員会	11、12
3	手原遺跡	81 R 025-04	手原4丁目2-28	個人用店舗	栗東町教育委員会	13～16
4	手原遺跡	81 R 025-01	手原字竹の花151-2ほか	商工会館建設	栗東町教育委員会・栗東町埋蔵文化財調査団	17、
5	野尻遺跡	81 R 088-01	野尻字君ヶ上238-1	個人住宅	栗東町教育委員会	18、
6	林大塚遺跡	81 R 009-01	林字大塚186-2	個人住宅	栗東町教育委員会	19、

Tehara

手原遺跡

(81R025-03)

所在地	栗東町手原3街区-5区画地
	北緯 35° 01' 28"
	東経 136° 00' 08"
コード	321-025
調査期間	1981.7～8
調査面積	355.07m ²
調査原因	国鉄人道橋
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	寺院・官衙・集落
主な時代	飛鳥時代～平安時代
主な遺構	掘立柱建物
主な遺物	須恵器、土師器、黒色土器 丸瓦
文献	



調査区南半部



調査区北半部

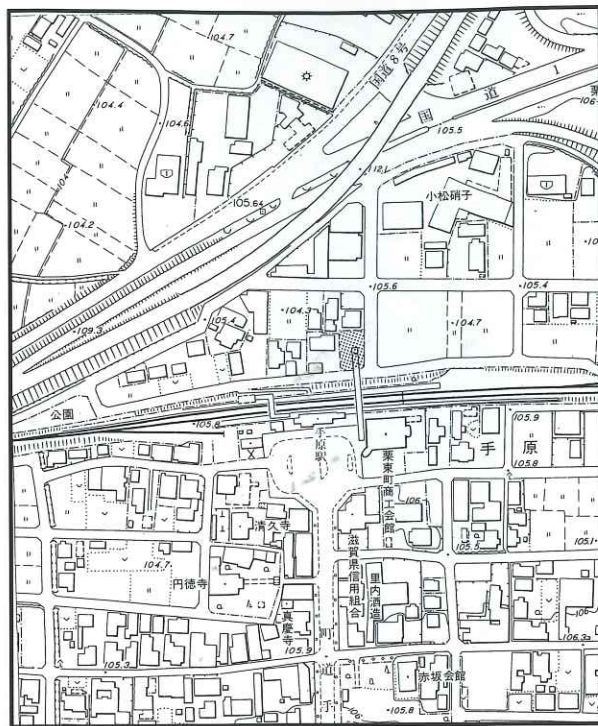


図1 調査地位置図

手原遺跡では周辺に正南北方向の地割りが残り、また白鳳時代の瓦が表採されていたことから、古代寺院跡が推定されていた遺跡である。本調査区は字竹ノ花地区にあたり、J R（当時国鉄）草津線手原駅東側の陸橋設置に伴い調査が行われた。

調査地からは奈良時代から中世の掘立柱建物8棟、溝が発見された。このうち、SB-1、2は柱掘方の規模が大きく、柱筋をそろえるなどの規画性もみられる。SB-2は2間×2間程度の総柱建物と考えられる。

SB-7、8はほかの建物に比べて軸方位をやや東に振るもので、柱穴から扁平なタイプの土師皿や青磁片が出土していることから、12世紀代の掘立柱建物と考えられる。

P-310はSD-6の埋没後に掘削されているピットで、須恵器長頸瓶が出土している。

ほかに本調査区からは輻線文縁単弁蓮華文軒丸瓦が出土している。

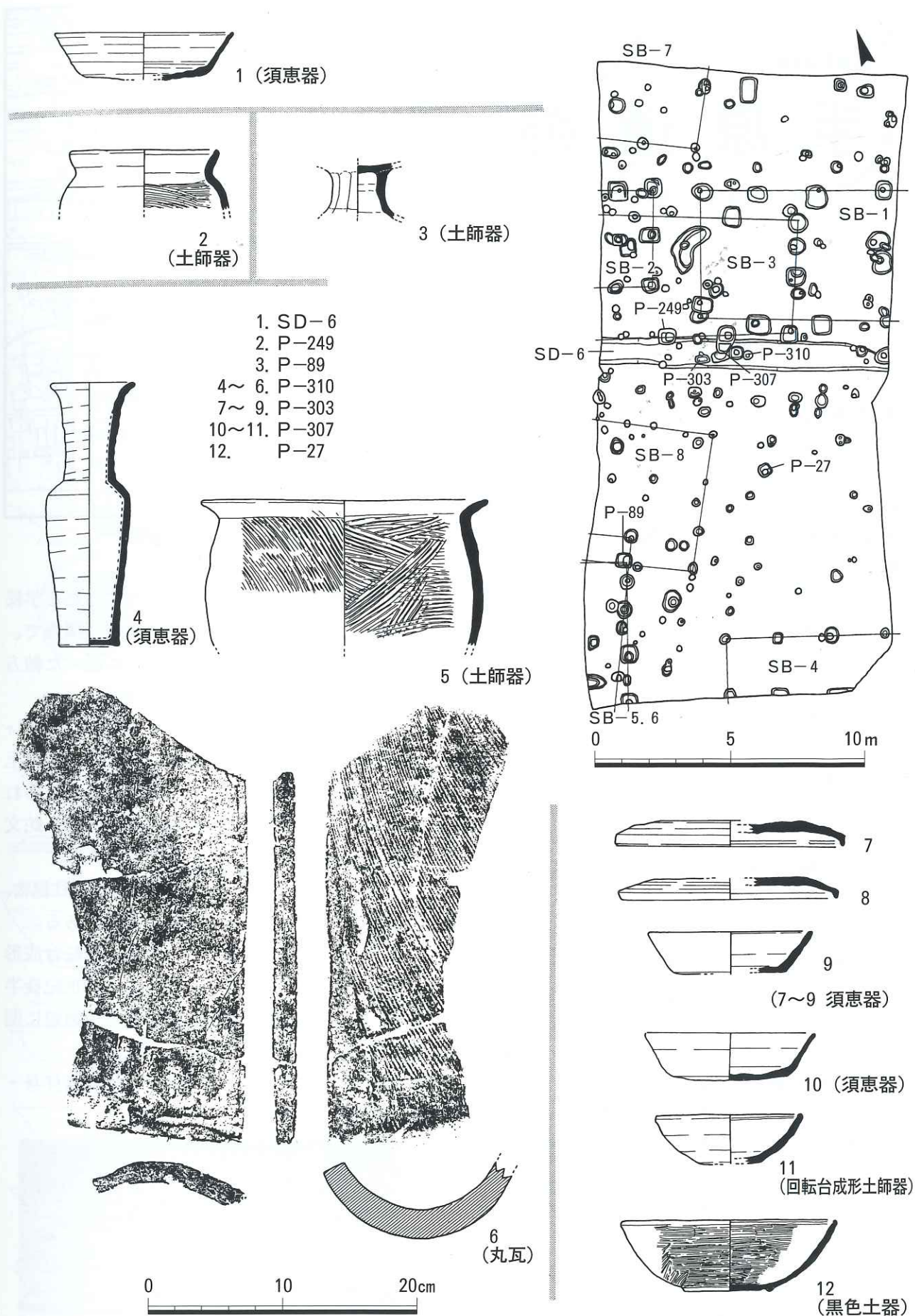


図2 出土遺物および遺構実測図

Tehara

手原遺跡

(81R025-02)

所在地	栗東町手原字松黒1236-1
	北緯 36° 00' 26"
	東経 136° 00' 13"
コード	321-025
調査期間	1981.8～10
調査面積	355.07㎡
調査原因	木材倉庫建築
調査担当	清水 好 洋
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	寺院・官衙・集落
主な時代	平安時代
主な遺構	掘立柱建物、ピット
主な遺物	須恵器、土師器、黒色土器 緑釉陶器、石帯巡方
文 献	

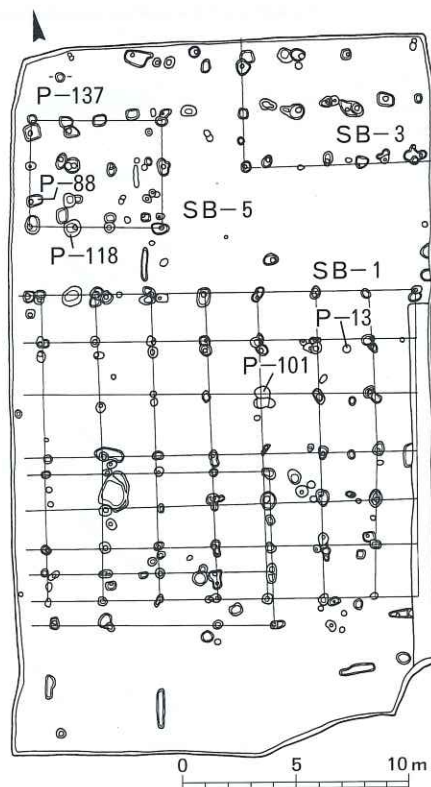


図2 遺構図

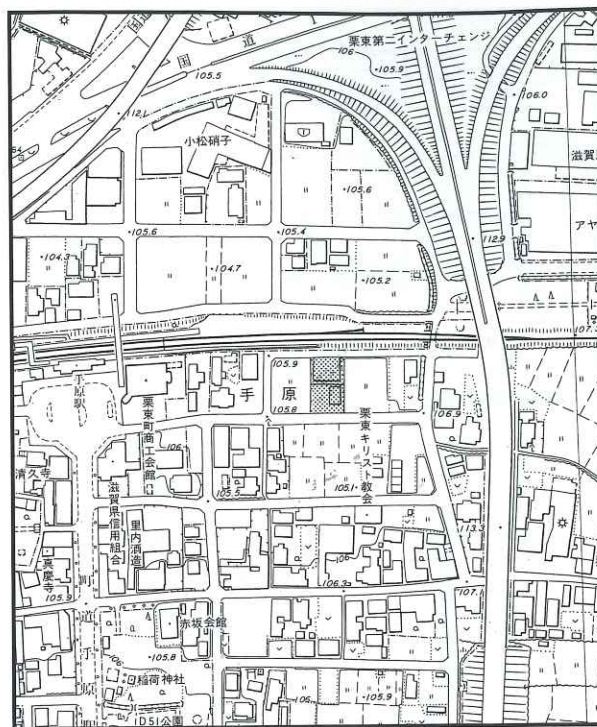


図1 調査地位置図

本調査区は手原遺跡でも東半部に当たる字松黒地区に所在する。倉庫建設に先立つ調査で、周囲に広がる正南北方向の地割りに沿った軸方位を持つ掘立柱建物が検出された。

SB-1は7間×6間の掘立柱建物で、P-101からは黒色土器、土師皿がまとめて出土している。11世紀前半代の一括遺物と考えられる。ほかに柱穴内から、緑釉陶器・瓦器碗・蛇文岩製の石帯（巡方）などが出土した。

SB-3は3間以上×2間以上の掘立柱建物、SB-5は3間×2間の掘立柱建物である。

また、建物外であるがP-137から回転台成形土師器がまとめて出土している。10世紀後半のものと考えられ、建物建築に先立つ地鎮に関連するピットの可能性がある。

ほかに包含層からではあるが、須恵器杯身・蓋が出土している。



調査区全景

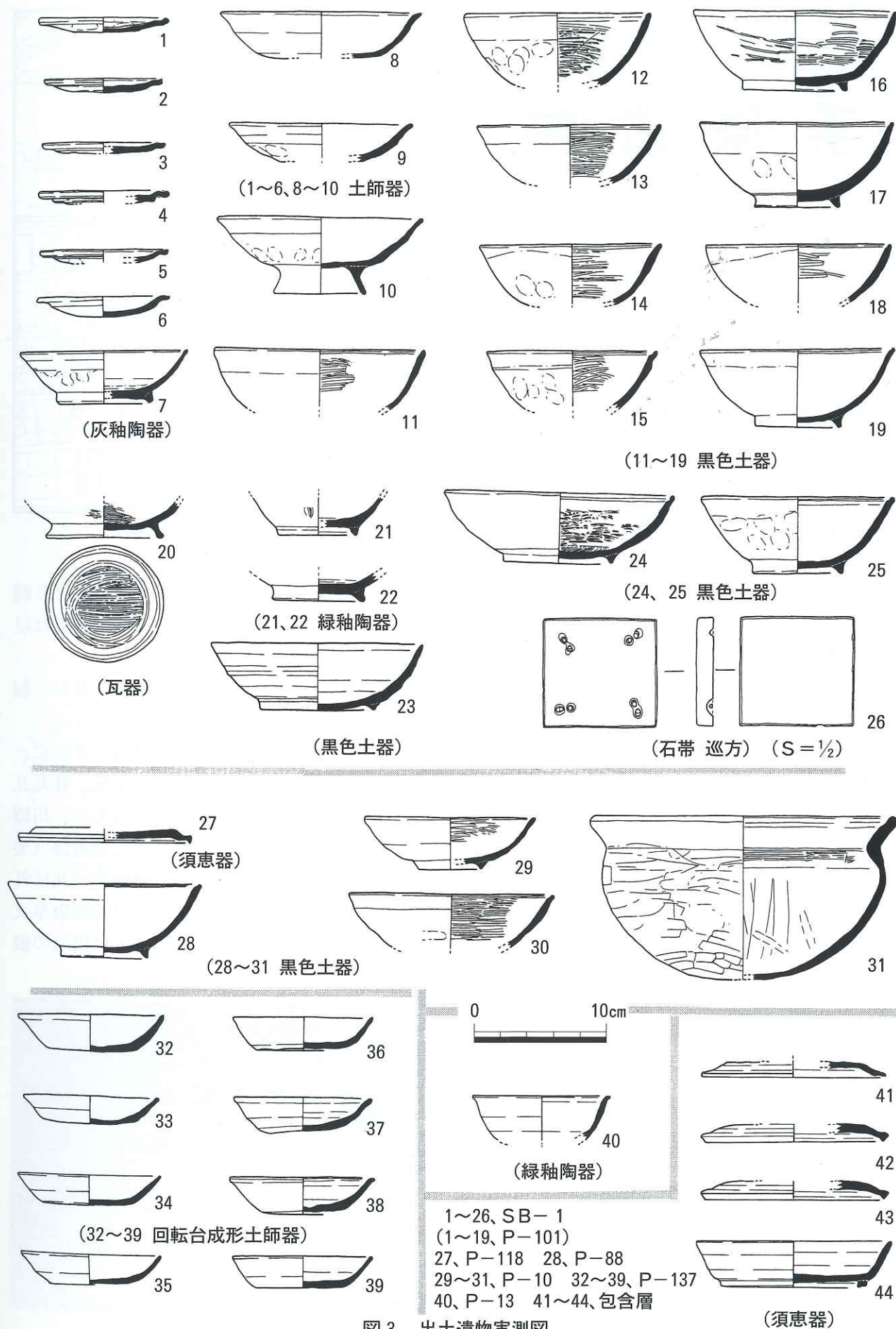


図3 出土遺物実測図

Tehara

手原遺跡

(81R025-04)

所在地	栗東町手原 4 丁目 2-28 北緯 35° 01' 26" 東経 136° 00' 05"
コード	321-025
調査期間	1982.1.10~1982.2.15
調査面積	290.692m ²
調査原因	個人用店舗
調査担当	清水 好 洋
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	寺院・官衙・集落
主な時代	白鳳時代、中世
主な遺構	溝、ピット
主な遺物	瓦
文 献	⑤⑦

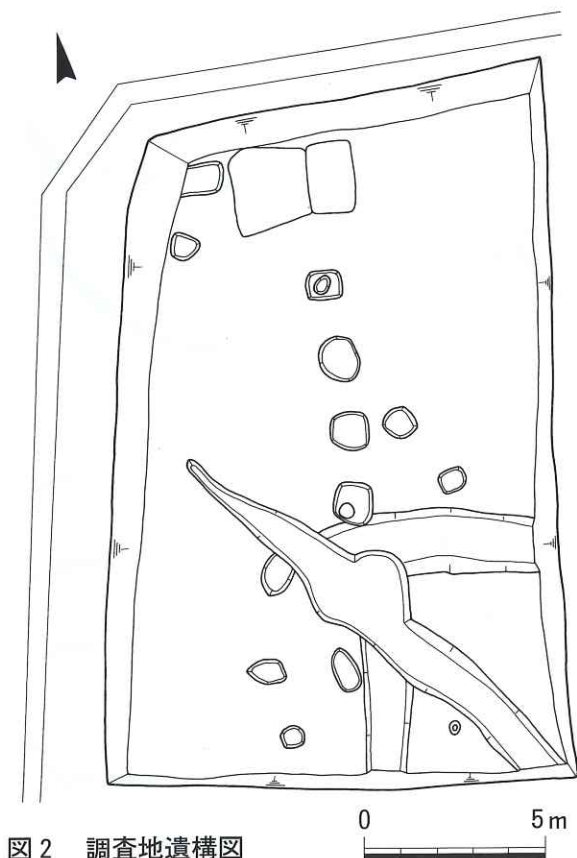


図2 調査地遺構図

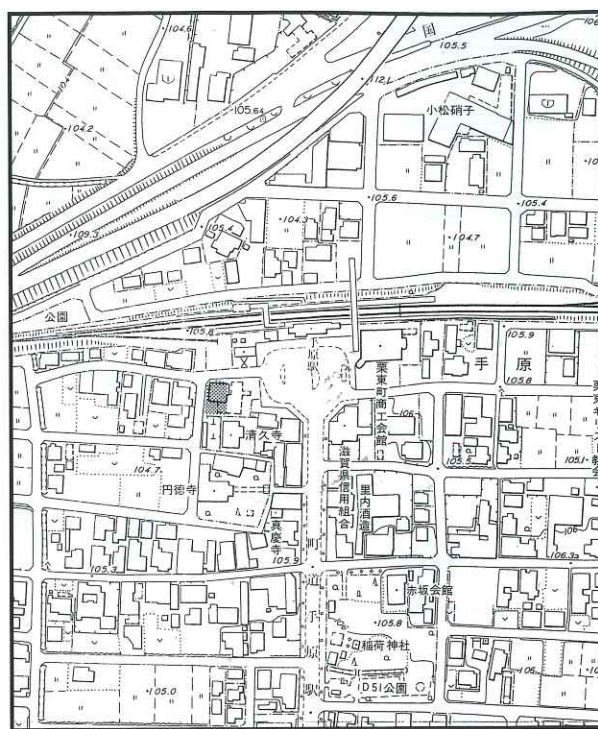


図1 調査地位置図

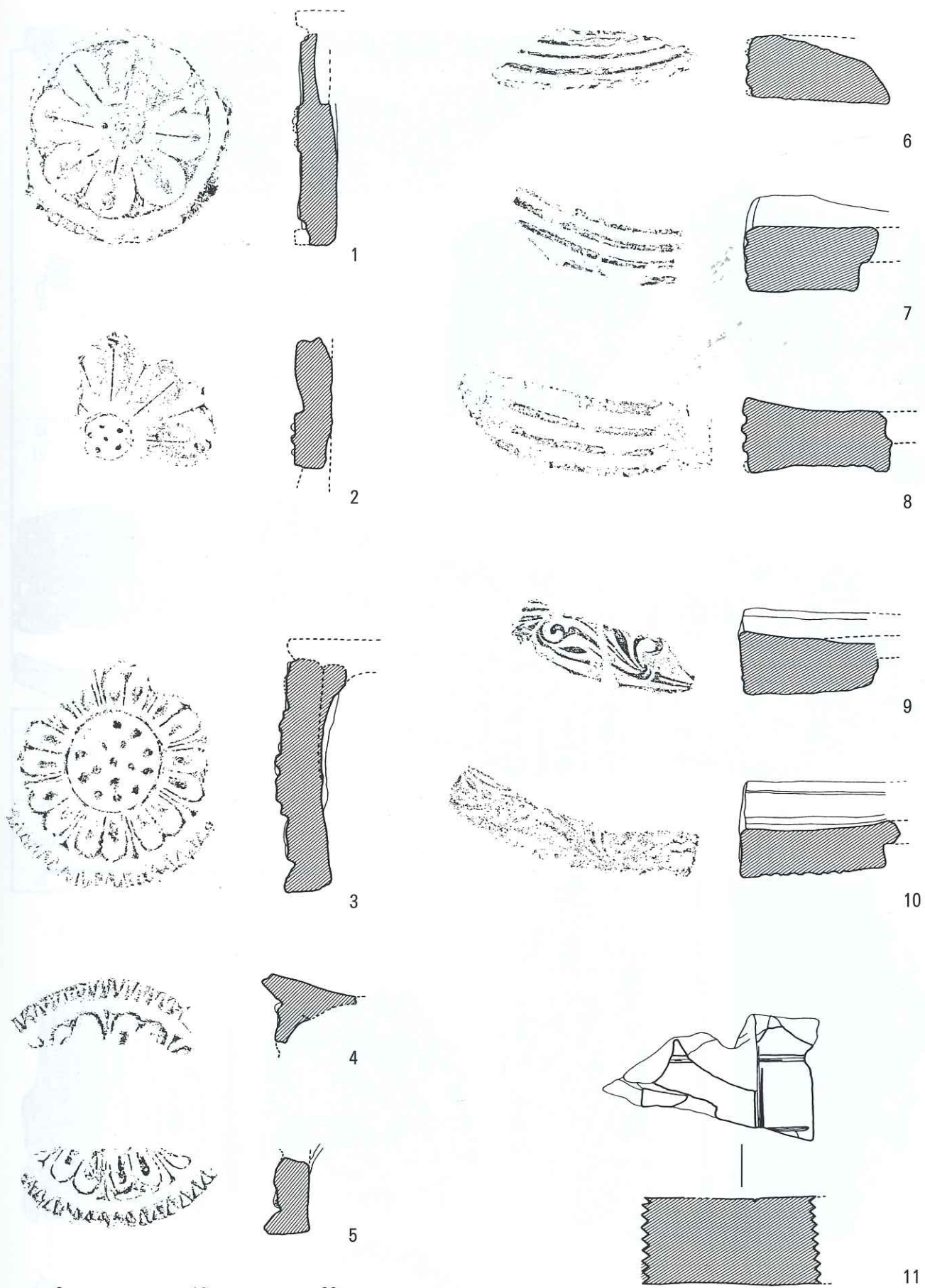
JR手原駅南西側の字坊屋敷地区における調査である。坊屋敷地区に所在する清久寺では以前から軒丸瓦が採集されていた。

調査では溝・ピットが発見されているが、掘立柱建物には復元し得なかった。

包含層および溝からは中世の遺物とともに、コンテナ30箱におよぶ古瓦が出土した。軒丸瓦のうち複弁系のものは法隆寺式系のもの、川原寺式系のもので、86年に調査された岡遺跡（栗太郡衙）に同範のものがある。単弁系の瓦は外縁が輻線文のものである。平瓦には均整唐草文軒平瓦、重弧文軒平瓦がある。ほかに鴟尾の破片も出土している。



調査区南半分



0 10 20cm

图3 軒丸瓦、軒平瓦、鷗尾

(鷗尾)

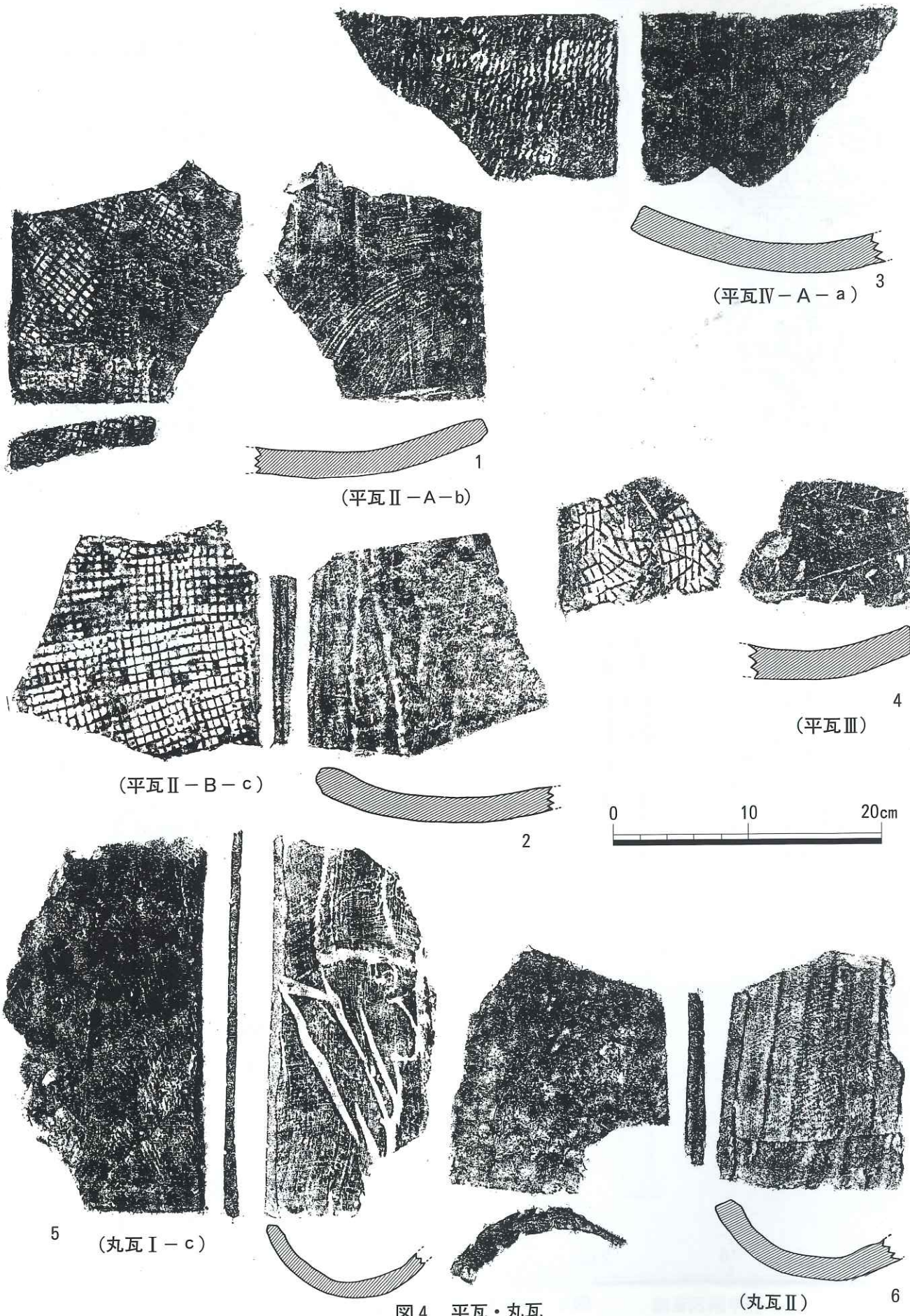


图4 平瓦·丸瓦

平瓦の分類

凸面一次調整		凸面二次調整		凹面調整	
I	斜格子	A	叩きを部分的に消す	a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま
		B	叩きを消さない	a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま
		C	斜格子叩きの後縄目叩き	a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま
II	正格子	A	叩きを部分的に消す	a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま
		B	叩きを消さない	a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま
III	変形格子				
IV	縄目	A	叩きを部分的に消す	a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま
		B	叩きを消さない	a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま
V	平行叩き				
VI	叩き目を完全に消す			a	全面なで消す
				b	部分なで
				c	布目のまま

丸瓦の分類

凸面調整		凹面調整	
I	縄目	a	全面なで消す
		b	部分なで
		c	布目のまま
II	叩き目を完全に消す	a	全面なで消す
		b	部分なで
		c	布目のまま
III	正格子		

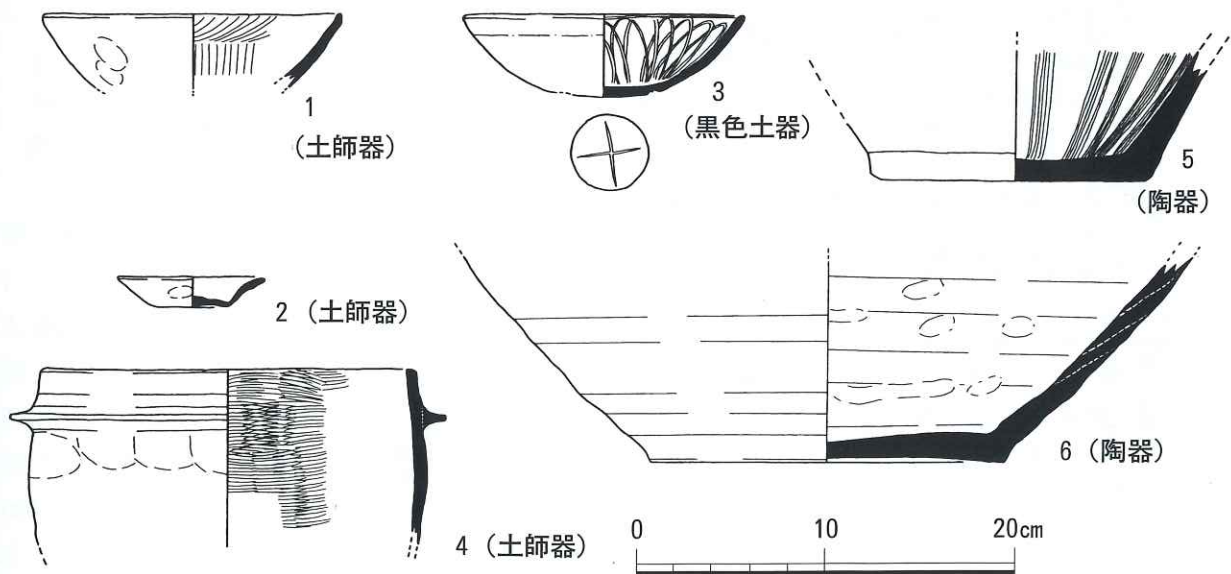


図5 出土遺物実測図

Tehara

手原遺跡

(81R025-01)

所在地	栗東町手原竹ノ花151-2、153-1 北緯 36° 01' 26" 東経 136° 60' 09"
コード	321-025
調査期間	1981.4.13～1981.7.14
調査面積	700㎡
調査原因	商工会館建設
調査担当	大橋信弥・大崎隆志
調査機関	栗東町教育委員会、栗東町埋蔵文化財調査団
種別	寺院・官衙・集落
主な時代	奈良時代～中世
主な遺構	掘立柱建物、溝
主な遺物	須恵器、土師器、黒色土器、瓦 土馬、土錘、鉄釘
文献	①

本調査は手原遺跡でははじめて本格的に実施された発掘調査で、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物が多数発見されている。

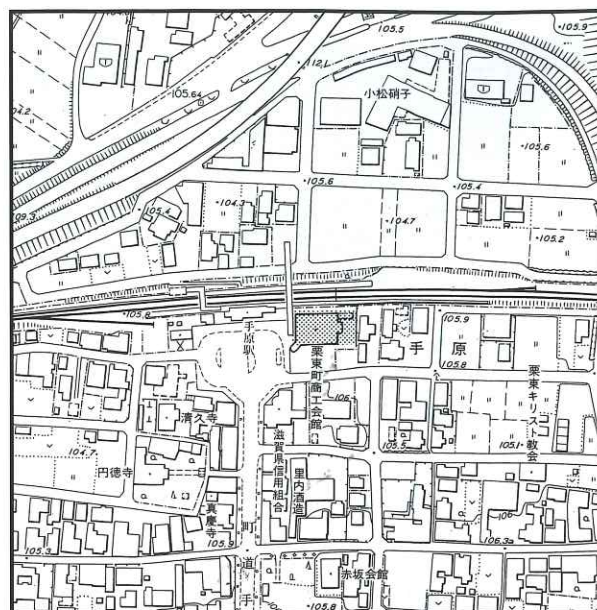


図1 調査地位置図

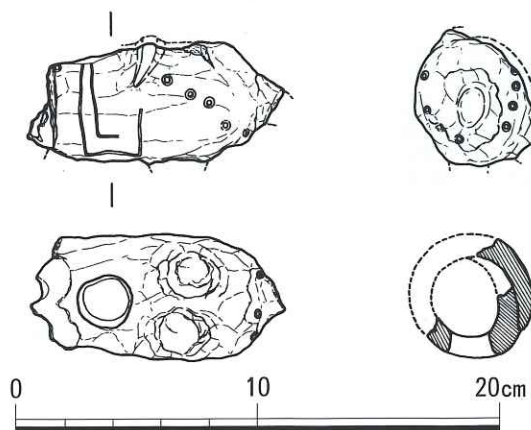


図2 SD-4 出土土馬

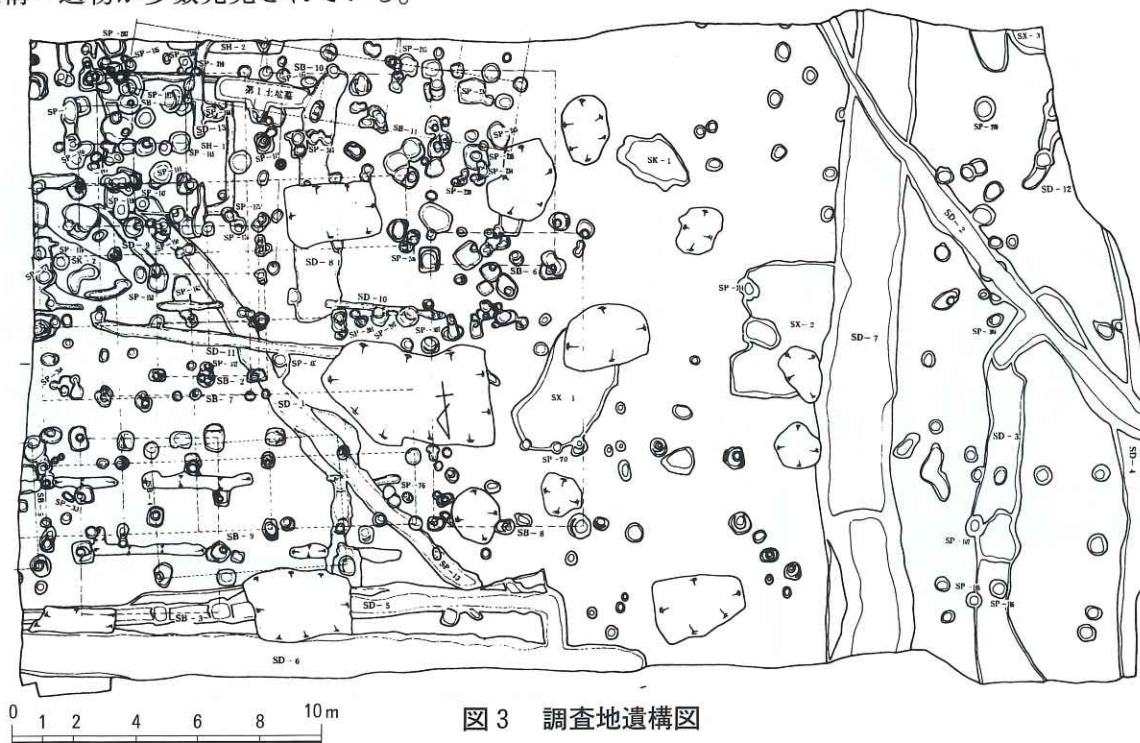


図3 調査地遺構図

Nojiri

野尻遺跡

(81R088-01)

所在地	栗東町野尻字君ヶ上238-1 北緯 36° 01' 51" 東経 135° 59' 23"
コード	321-088
調査期間	1981.11.18~1981.12.20
調査面積	534m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落・墓
主な時代	古墳～中世
主な遺構	溝、方形周溝墓
主な遺物	土師器、黑色土器
文献	

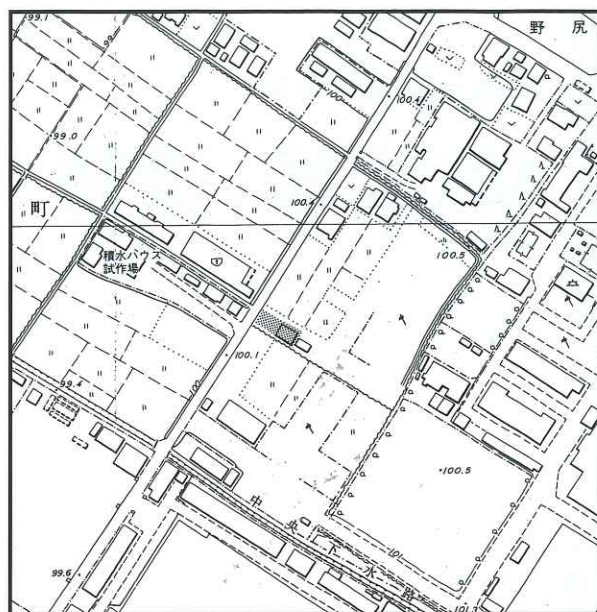


図1 調査地位置図

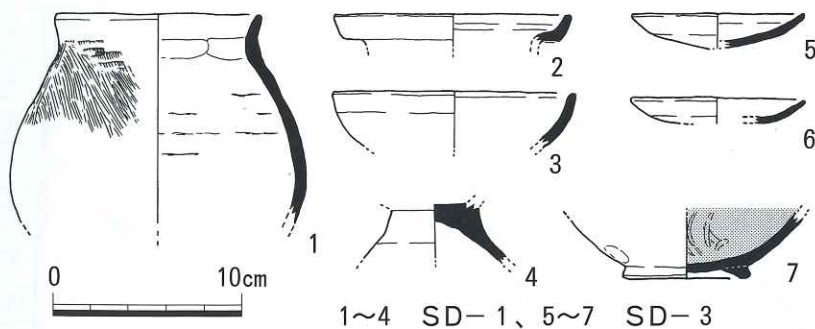


図2 出土遺物実測図

野尻遺跡は葉山川中流域の右岸に立地する、縄文時代から中世にいたる複合遺跡である。

本調査では南北方向に流れる溝（SD-1）、条里方向に沿った溝（SD-3）、方形周溝墓が発見された。SD-1は、幅約2.5m、検出面からの深さは約1mを測る溝で、古墳時代前半期の遺物（壺・甕・高坏など）が出土している。またSD-3は幅約1.4m、検出面からの深さは約0.45mの溝で12世紀の黑色土器碗・土師器皿が出土している。方形周溝墓はSD-1に先行するもので1辺約4m程度のものである。

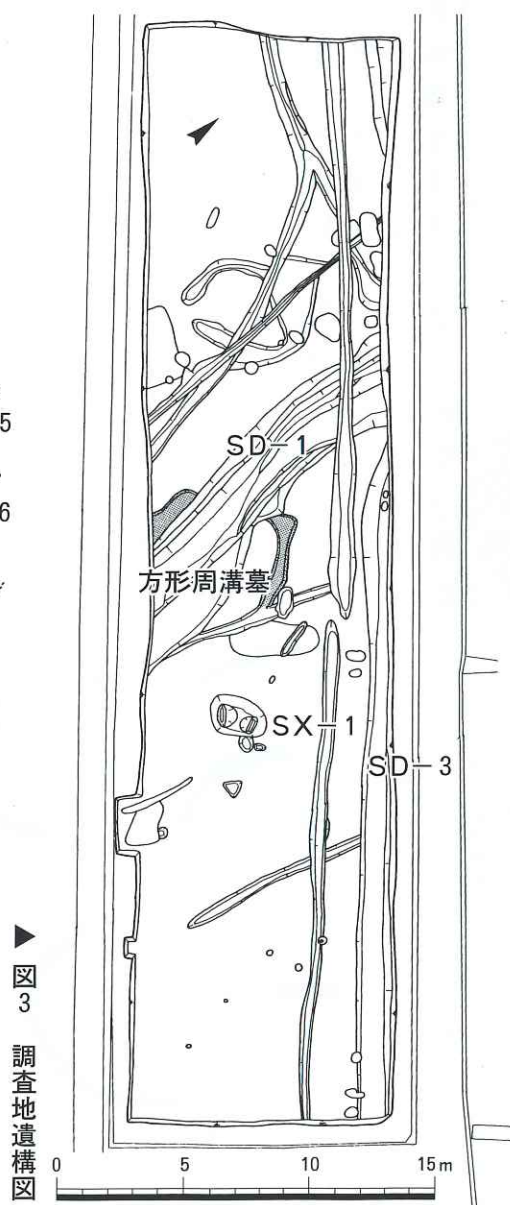


図3 調査地遺構図

林(大塚)遺跡

所在地	栗東町林字大塚186-2
	北緯 35° 01' 26"
	東経 136° 01' 38"
コード	321-009
調査期間	1981.5.4～1981.5.20
調査面積	680㎡
調査原因	個人用住宅
調査担当	大崎隆志
調査機関	栗東町埋蔵文化財調査団
種別	集落・墓
主な時代	古墳時代
主な遺構	溝、掘立柱建物
主な遺物	須恵器
文献	

0 5 m

図3 調査地遺構図

1982年度

1982年度調査一覧

	遺 跡	調査略号	所 在 地	原 因	調 査 機 関	頁
1	手原遺跡	82 R 025-01	手原字西天神828-1.2	個人住宅	栗東町教育委員会	21、22
2	手原遺跡	82 R 025-03	手原字里ノ内910-1ほか	ホテル建設	栗東町文化体育振興事業団	23、24
3	手原遺跡	82 R 025-02	手原3丁目2-29	自転車駐輪場	栗東町教育委員会	25、
4	手原遺跡	82 R 025-04	手原字北原263-1	分譲住宅	栗東町文化体育振興事業団	26、
5	手原遺跡	82 R 025-05	手原字寅丸803	ホテル建設	栗東町文化体育振興事業団	27、
6	辻遺跡	82 R 003-01	辻字ミノリ586、587	駐車場造成	栗東町文化体育振興事業団	28、
7	霊仙寺遺跡	82 R 033-01	霊仙寺字大溝150-1、151-1	幼稚園建設	栗東町文化体育振興事業団	29、30
8	中沢遺跡	82 R 034-01	中沢字ヘラ田107	個人住宅	栗東町教育委員会	31、32
9	小柿遺跡	82 R 100-02	小柿字鉤代317-3、317-4	造成工事	栗東町文化体育振興事業団	33、34
10	小柿遺跡	82 R 100-01	小柿字小殿405-4	個人住宅	栗東町教育委員会	35、
11	椿山遺跡	82 R 039-01	安養寺字木戸569-1	分譲住宅	栗東町文化体育振興事業団	36、
12	中村遺跡	82 R 057-01	御園字出口	区画整理	栗東町文化体育振興事業団	37、38
13	上鉤遺跡	82 R 089-01	上鉤字口井関335-1ほか	造成工事	栗東町文化体育振興事業団	39、40
14	上鉤遺跡	82 R 089-02	上鉤字上南平399	アパート建設	栗東町文化体育振興事業団	41、42、43
15	野尻遺跡	82 R 088-02	野尻字鑑田426-2	個人住宅	栗東町教育委員会	44、
16	野尻遺跡	82 R 088-01	野尻字水戸56-2	ハウス試作場	栗東町文化体育振興事業団	45、46
17	縄遺跡	82 R 093-01	縄字南星塚765	個人住宅	栗東町教育委員会	47、
18	縄遺跡	82 R 093-02	縄字円田772-4	個人住宅	栗東町教育委員会	48、
19	下鉤遺跡	82 R 095-01	下鉤字宮の北浦1177	マンション建設	栗東町文化体育振興事業団	49、50
20	辻越B遺跡	82 R 096-01	御園字釜8-1ほか	圃場整備事業	栗東町文化体育振興事業団	51～54
21	高野遺跡	82 R 092-01	高野字五反田	宅地造成	栗東町文化体育振興事業団	55～64

Tehara

手原遺跡

(82R025-01)

所在地	栗東町手原字松黒828-1、2
	北緯 35° 01' 29"
	東経 136° 00' 13"
コード	321-025
調査期間	1982.4～9
調査面積	1000m ²
調査原因	個人用住宅
調査担当	平井 寿一
調査機関	(財)栗東町文化体育振興事業団
種別	官衙・寺院・集落
主な時代	奈良時代～平安時代
主な遺構	掘立柱建物、井戸、土壌、溝
主な遺物	須恵器、土師器、灰釉陶器、 緑釉陶器、瓦
文献	③

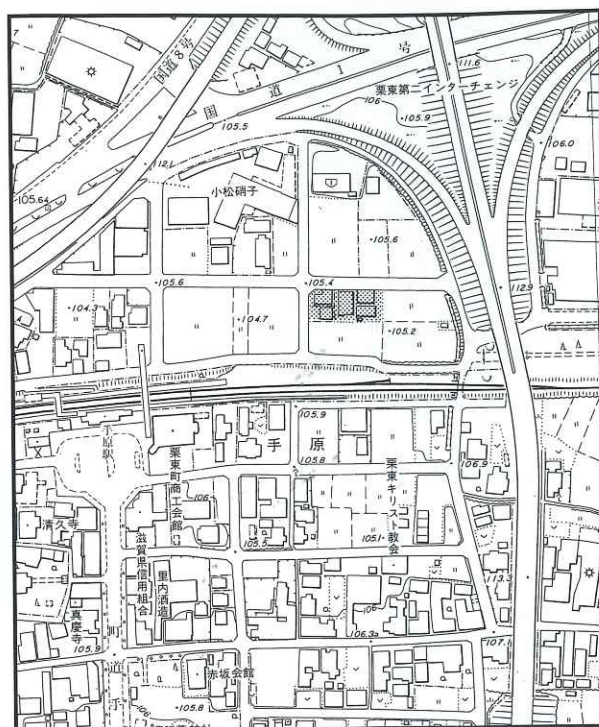


図1 調査地位置図

本調査区は、81年度の調査で瓦が多量に出土した地点の北東側に位置する。調査では奈良時代中頃以降～平安時代にいたる時期の総柱建物9棟・側柱建物3棟、中世の掘立柱建物・井戸が検出された。

特に奈良時代中頃以降出現する総柱建物群は、柱筋をそろえた計画的な配置をとっていることや、SB-1などは床面積が約40m²で柱掘方も一辺1.3mを測る規模が大きな建物であることから、一般的な集落に伴う倉庫とは考えられず、これまで廃寺跡と位置づけられていた手原遺跡に新たに官衙的な性格が考慮されることとなった。

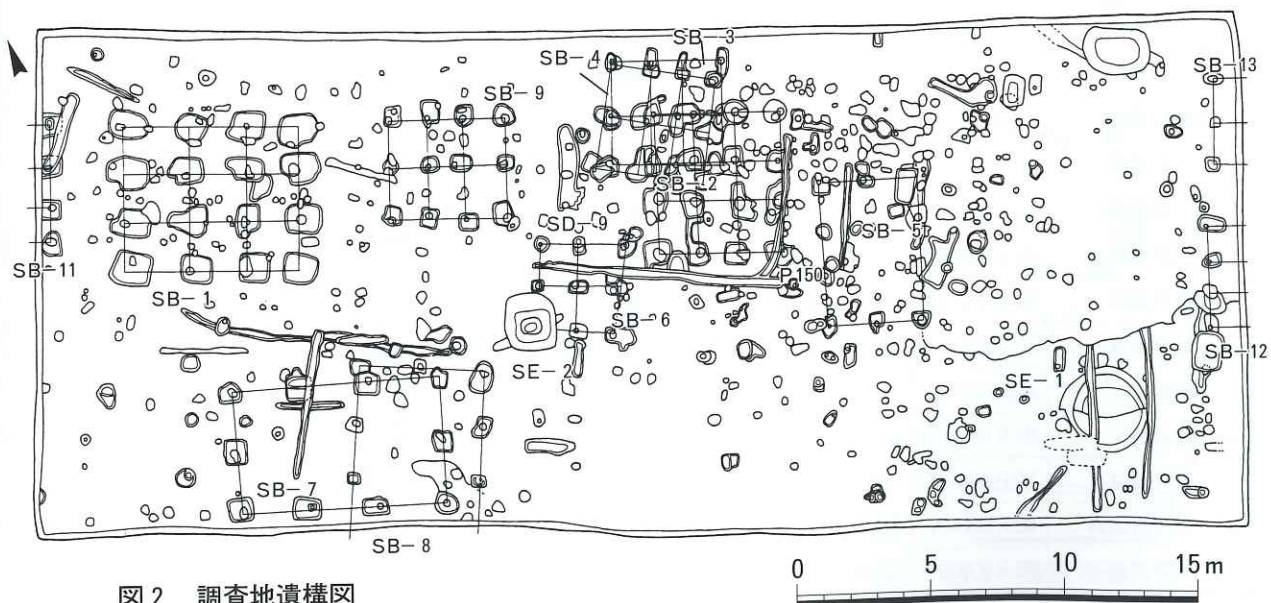


図2 調査地遺構図

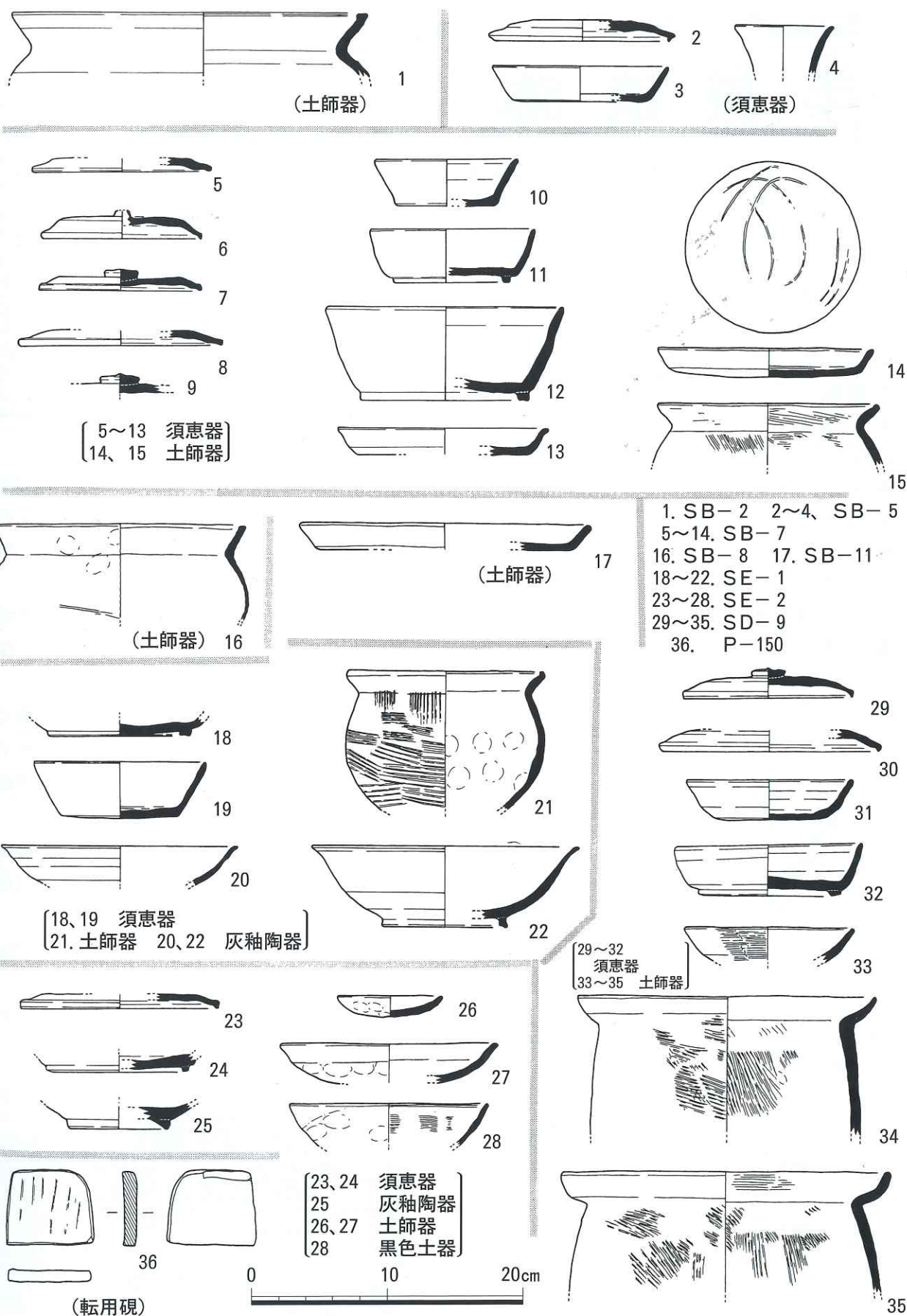


図3 出土遺物実測図

Tehara

手原遺跡

(82R025-03)

所在地	栗東町手原字里ノ内910-1他 北緯 35° 01' 25" 東経 136° 00' 08"
コード	321-025
調査期間	1983.1.5~2.26
調査面積	975.21㎡
調査原因	ホテル建設
調査担当	平井 寿一
調査機関	㈱栗東町文化体育振興事業団
種別	寺院・官衙・集落
主な時代	白鳳時代~中世
主な遺構	溝・土壇・ピット
主な遺物	須恵器、土師器、白磁 青磁、瓦
文献	

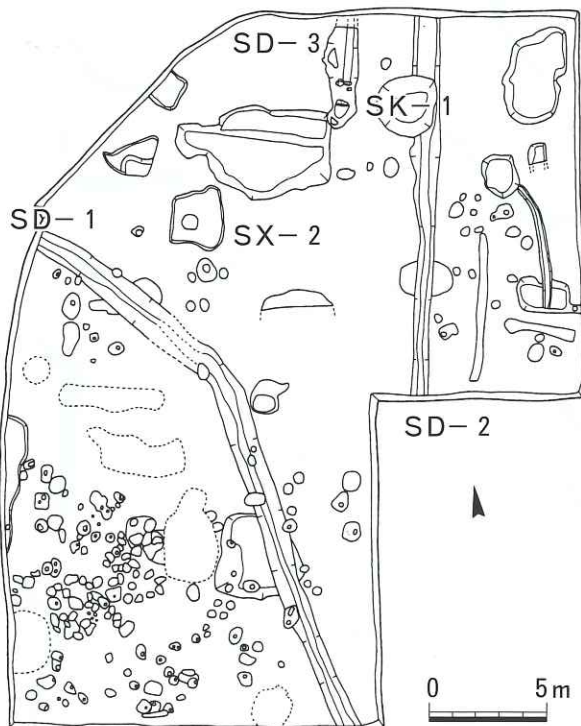


図2 調査地遺構図

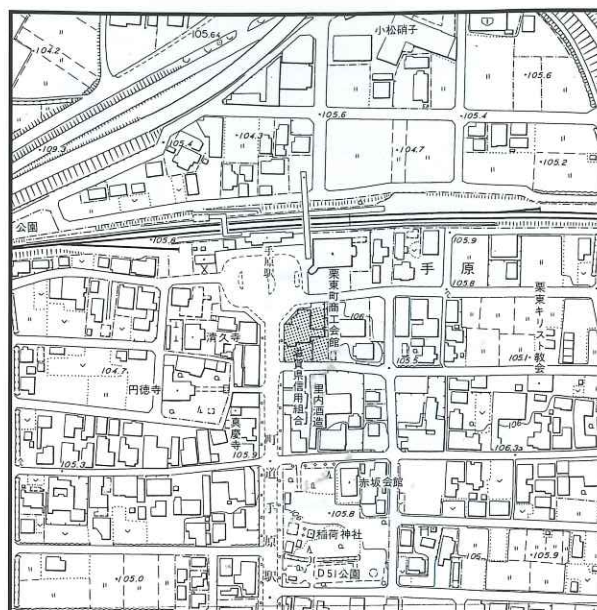


図1 調査地位置図

本調査区は字里ノ内地区に所在し、1981年度の調査で多量の瓦が出土した字坊屋敷地区の東隣に位置する。調査では、溝・ピット・土坑が出土している。

溝(SD-1)は北をやや西に振る溝で途中から更に西に屈曲している。幅は1.2m、深さ0.6mを測る、断面がV字状の溝である。

溝(SD-2)は正南北方向に延びる溝で、幅0.8~1.2m、深さ0.2~0.5mを測る。埋土からは須恵器杯身・信楽焼甕・瓦質火舎・青磁盤が出土している。

溝(SD-3)は深さ1.3mのもので断面がV字形を呈する。埋土から檜垣文を持つ信楽焼壺が出土している。

これらの溝から出土する遺物は概ね7世紀初頭から近世にいたる時期のものである。

ほかに調査区からは不整形の土坑が検出されている。



調査地全景

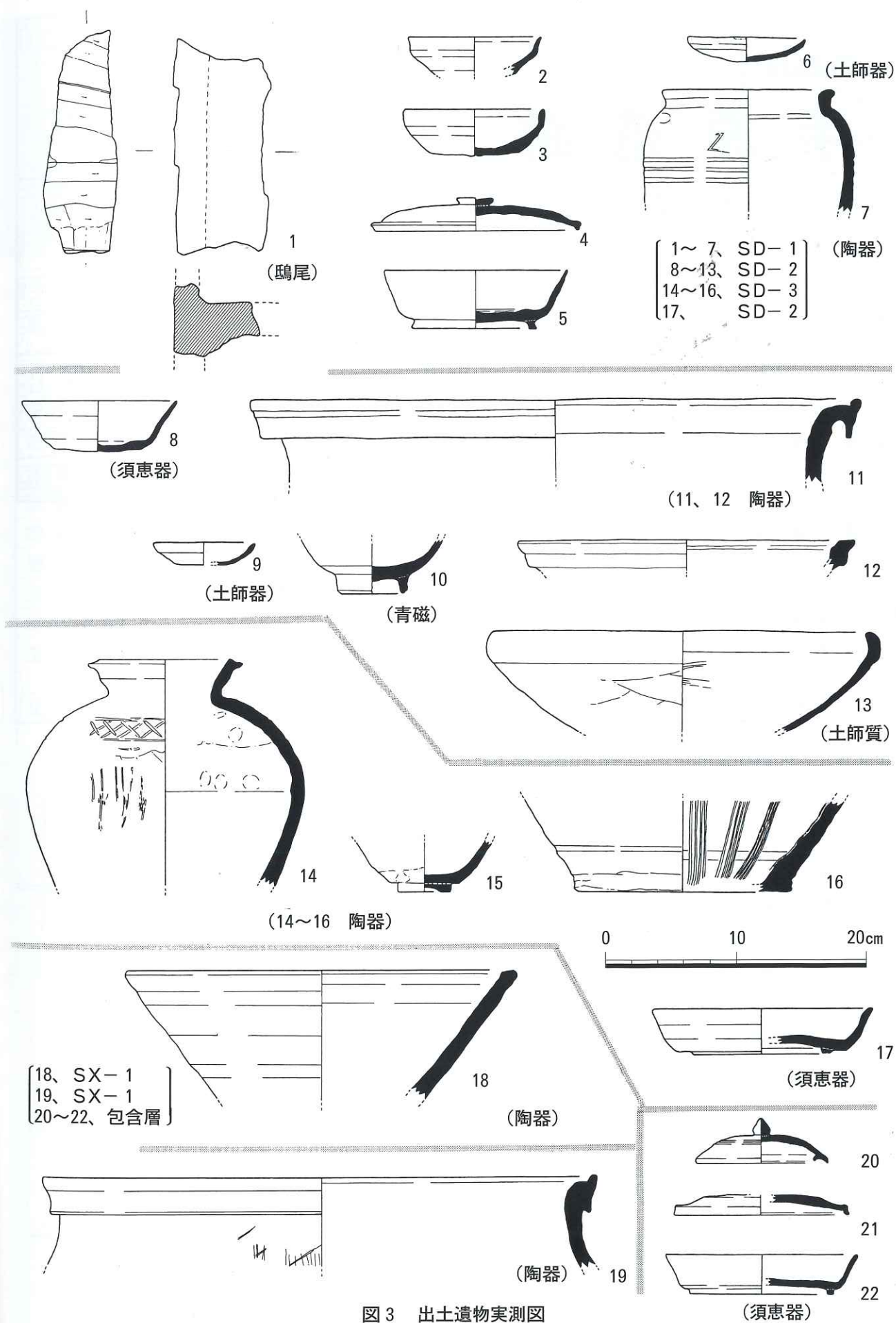


図3 出土遺物実測図

Tehara

手原遺跡

(82R025-02)

所在地	栗東町手原 3 丁目2-29 北緯 35° 01' 25" 東経 136° 00' 06"
コード	321-025
調査期間	1982.8.20~9.10
調査面積	378.05㎡
調査原因	自転車駐輪場
調査担当	清水 好 洋
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	寺院・官衙・集落
主な時代	白鳳時代、中世
主な遺構	土壇
主な遺物	瓦
文 献	

本調査区は坊屋敷地区にあたり、1981年度調査において多量に瓦が出土した地点の東側に隣接する。南側のトレンチでは表土下2.5mで土坑状の落ち込みが検出されている。北側トレンチでは攪乱が著しく、顕著な遺構は認められなかった。

遺物には白鳳～奈良時代の瓦のほか陶器、土師器などの小片が出土している。

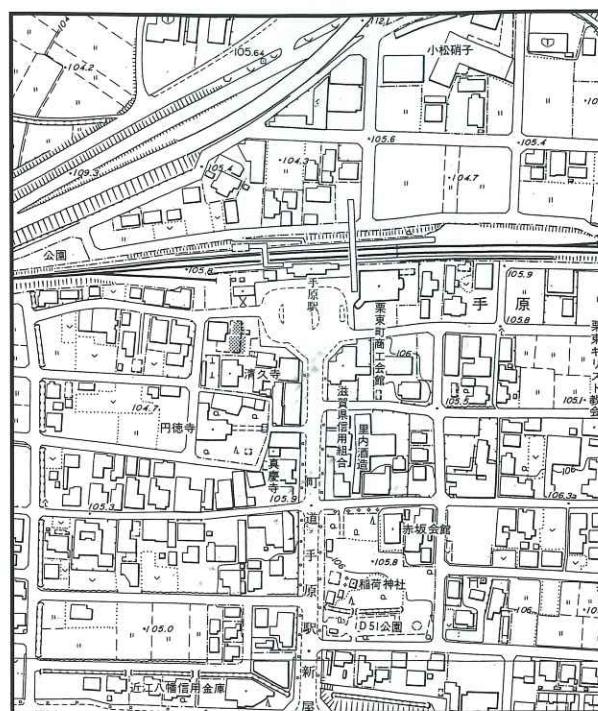


図1 調査地位置図

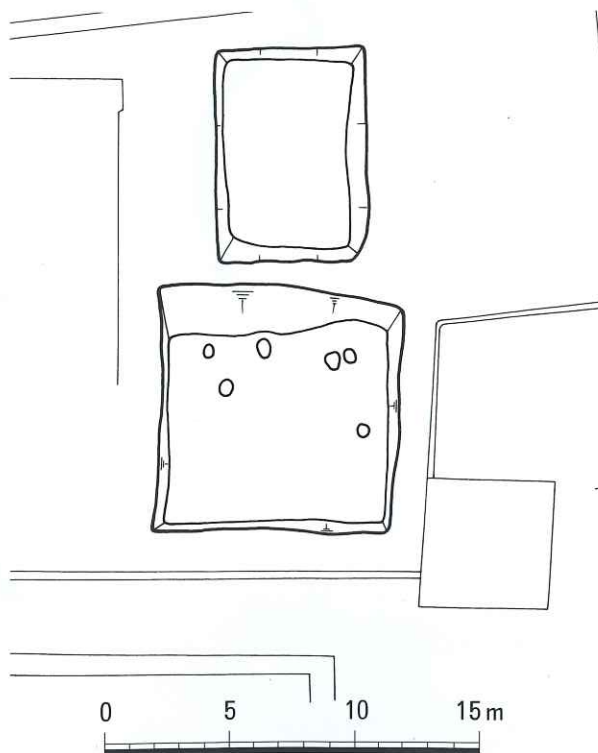


図2 調査地遺構図

Tehara

手原遺跡

(82R025-04)

所在地	栗東町手原字北原263-1
	北緯 35° 00' 28"
	東経 136° 00' 04"
コード	321-025
調査期間	1983.2.1~13
調査面積	398.79㎡
調査原因	分譲住宅
調査担当	平井寿一
調査機関	（財）栗東町文化体育振興事業団
種別	官衙・寺院・集落
主な時代	白鳳時代～中世
主な遺構	土壇、溝、ピット
主な遺物	瓦、土師器、緑釉陶器 黑色土器
文献	

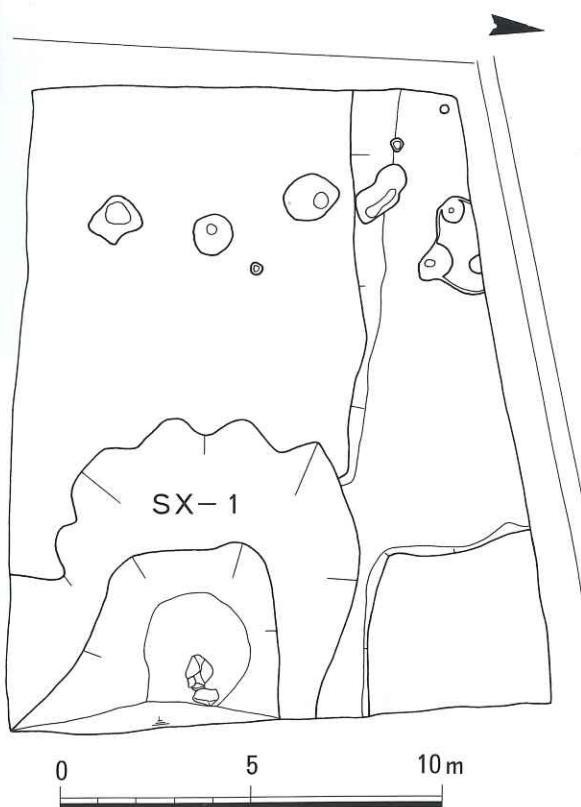


図2 調査地遺構図

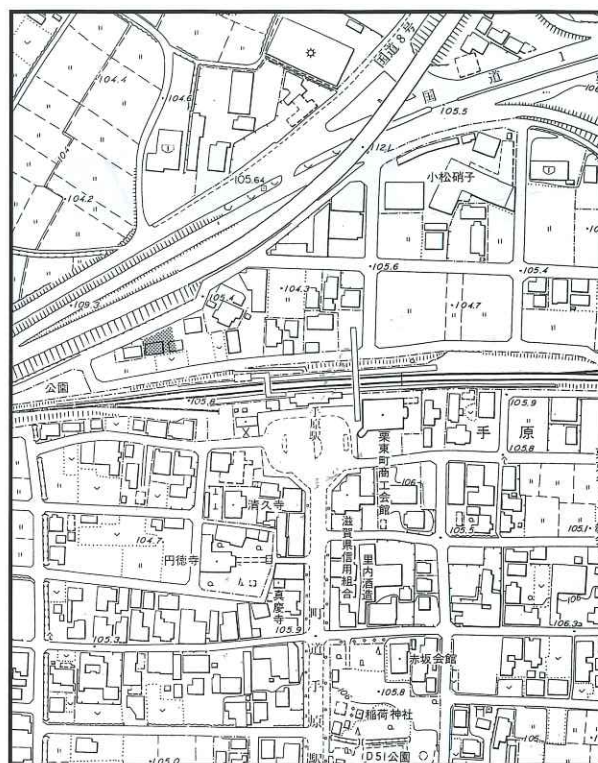


図1 調査地位置図

本調査区は字北原地区にあたり、瓦が集中してみられる地区の北側にあたる。調査では土坑、溝が検出された。

SX-1は巨大な土坑で、直径7m、深さは3.6mにおよび、調査区外にも延びている。この土坑からは軒平瓦を含む多量の瓦に加えて、13世紀代の黑色土器碗・白磁・青磁・瓦器碗等が出土している。このことから手原遺跡の瓦が多量に投棄された年代を13世紀代に求めることができる。

このほかの遺構にはSX-1から続く浅い溝状の落ち込みがあり、土師器片・スラッグなどが出土している。

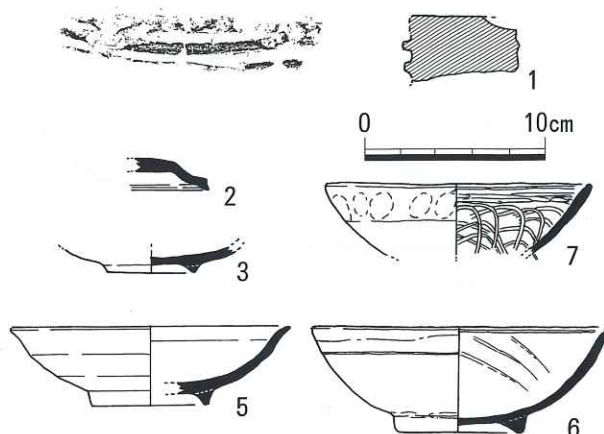


図3 出土遺物実測図

Tehara

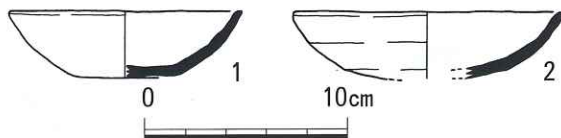
手原遺跡

(82R025-05)

所在地	栗東町手原803番地 北緯 35° 01' 30" 東経 136° 00' 07"
コード	321-025
調査期間	1982.11.25.~1982.11.30
調査面積	330m ²
調査原因	ホテル建設工事
調査担当	清水好洋
調査機関	（財）栗東町文化体育振興事業団
種別	官衙・寺院・集落
主な時代	平安時代
主な遺構	ピット
主な遺物	須恵器、土師器 黒色土器
文献	

本調査区は字寅丸地区にあたり、トレンチ北端部で土坑・ピットが発見された。P-1～3は掘立柱建物を構成するものと考えられる円形のピットで、北側の調査区外に延びる建物である可能性がある。柱穴は黒灰褐色土を埋土とし、土師器が出土している。

土坑は不整長方形で、長辺が3m、短辺が2.5mである。南、西側ではレキ層となっており、遺構は発見されていない。



1. P-1 (柱穴) 2. P-3
図2 出土遺物実測図

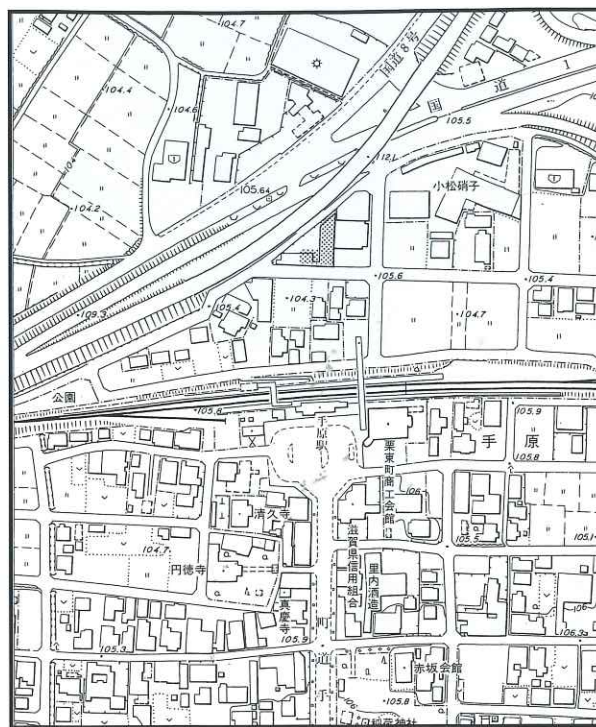


図1 調査地位置図

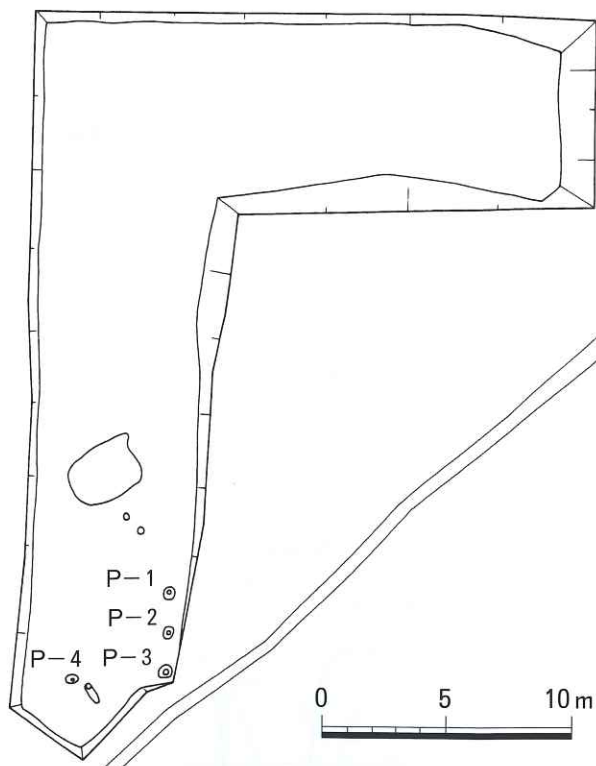


図3 調査地遺構図

Tsuji

辻 遺 跡

(82R003-01)

所在地	栗東町辻字ミノリ586、587 北緯 35° 02' 02" 東経 136° 00' 45"
コード	321-025
調査期間	1983.1.20.～1983.1.28
調査面積	2000m ²
調査原因	駐車場造成工事
調査担当	清水 好 洋
調査機関	㈱栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主な時代	平安時代
主な遺構	掘立柱建物、ピット
主な遺物	黒色土器
文 献	



遺構検出状況

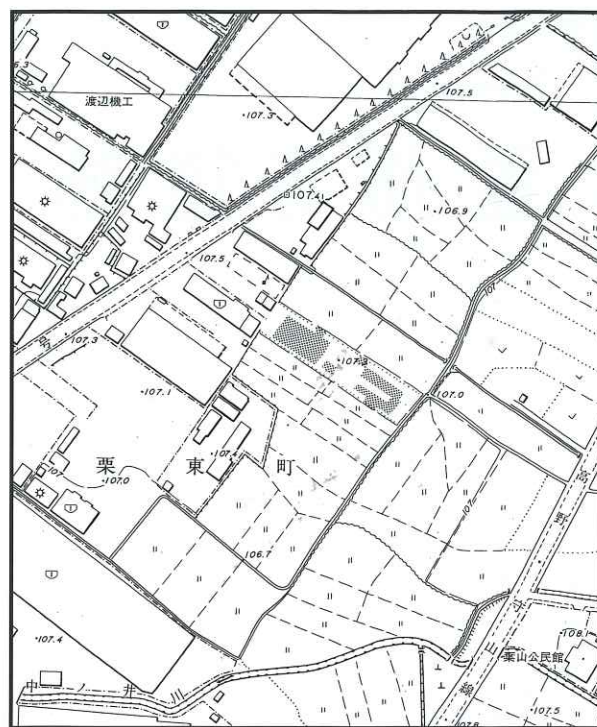


図1 調査地位置図

辻遺跡は野洲川左岸自然堤防状微高地上に所在する縄文時代～近世にいたる複合遺跡である。本調査は駐車場造成に先立つ確認調査で、遺構の掘り込みは行われていない。

T-1では条里方向にそう溝(SD-1)、南北方向の溝、ピットが確認され、SD-1からは黒色土器碗が出土した。

T-3からは8間以上×2間の掘立柱建物が検出された。またT-4からは6間以上のピット列が検出された。これは東側に広がる溝もしくは柵列であると考えられる。

T-2、5では大部分が攪乱されており、遺構は明らかにならなかった。

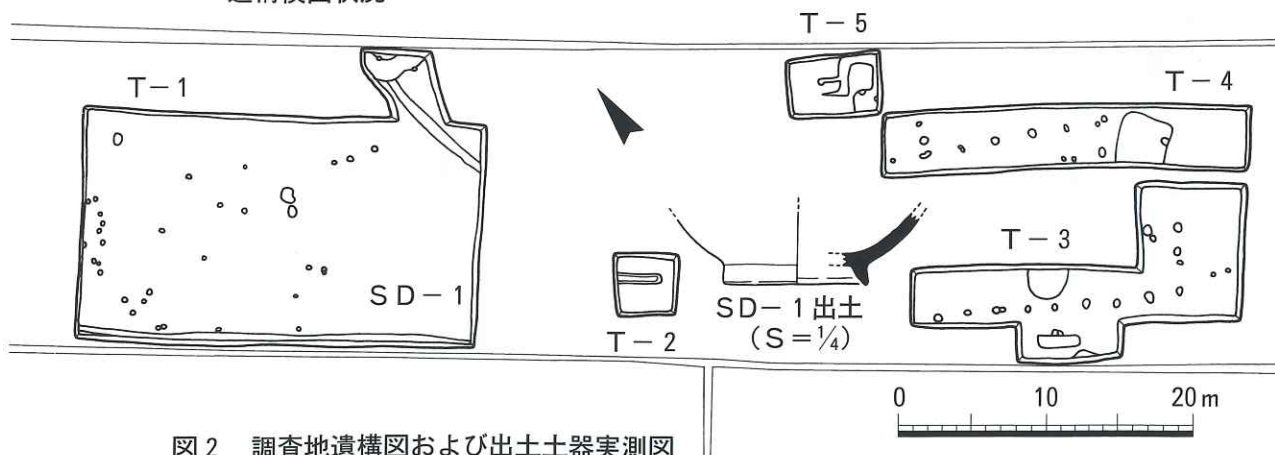


図2 調査地遺構図および出土土器実測図

Ryosenji

靈仙寺遺跡

(82R033-01)

所在地	栗東町靈仙寺字大溝150-1、151-1
	北緯 35° 58' 18"
	東経 135° 02' 16"
コード	321-033
調査期間	1982.6.30~8.27
調査面積	1000m ²
調査原因	幼稚園建設
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町文化体育振興事業団
種別	墓
主な時代	弥生時代
主な遺構	方形周溝墓、土壇墓
主な遺物	弥生土器
文献	③

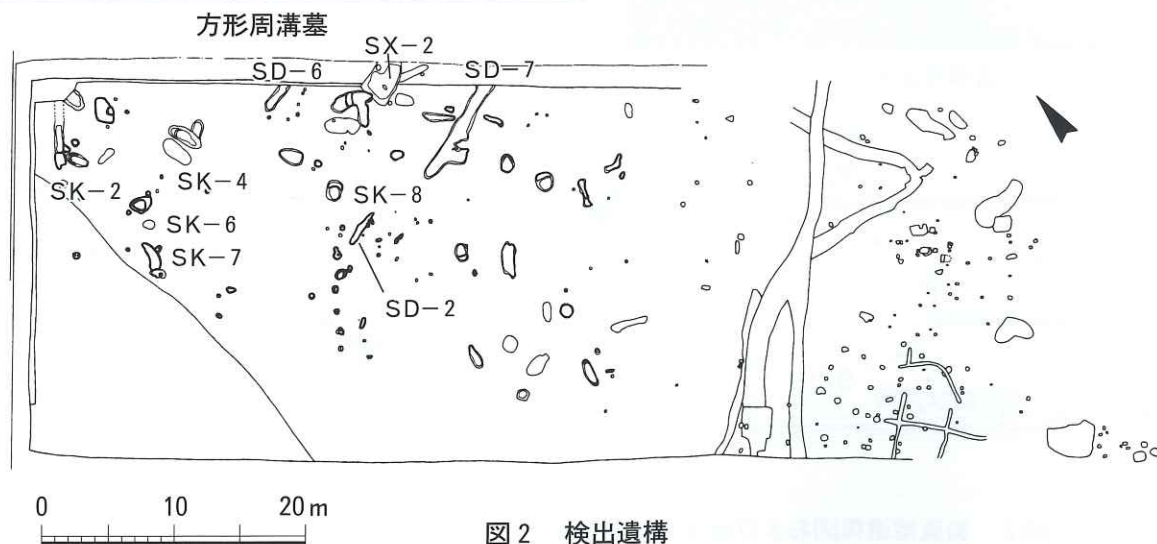


図2 検出遺構

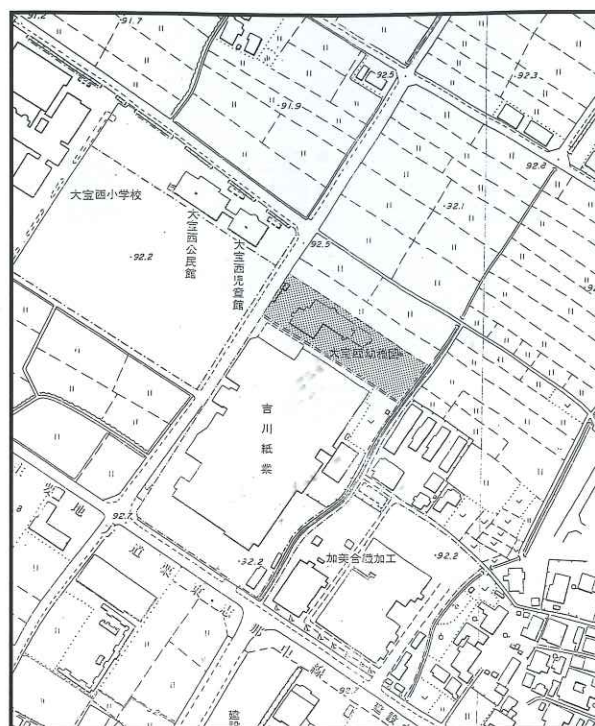
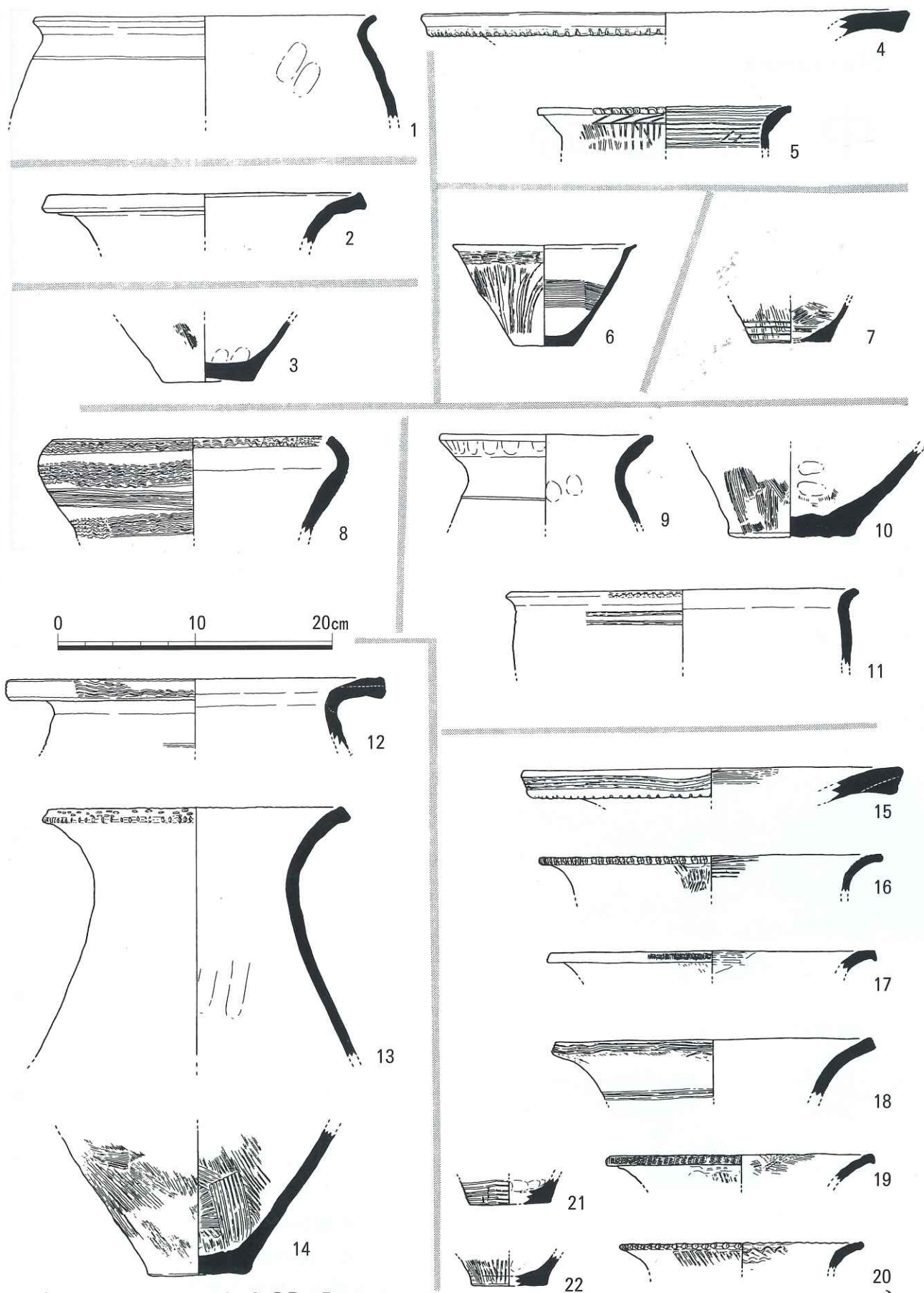


図1 調査地位置図

靈仙寺遺跡は野洲川が形成する扇状地上に位置し、縄文時代以降の遺物・遺構が数多く発見される遺跡である。本調査区では方形周溝墓1基、土壇墓20基、柵列が発見された。方形周溝墓は1辺約5mの陸橋部を持つもので、中央には東西2.1m×南北2.3mの主体部と考えられる土壇(SX-2)がみられる。土壇墓は方形周溝墓の周辺に集中してみられ、1~1.5mの長楕円形呈するものが主である。本調査区を構成する墓地は弥生時代前期後半から中期中頃まで存続をしたものと考えられる。



[1. SD-3 2. SD-6 3. SD-7
 4. ~5. SK-2 6. SK-4 7. SK-6 8. SK-8 9~11. SK-7 12~14. SX-2 15~22. 包含層]

图3 出土遺物実測図

Nakazawa

中 沢 遺 跡

(82R034-01)

所 在 地	栗東町中沢字ヘラ田107 北緯 35° 01' 27" 東経 135° 58' 45"
コ ー ド	321-034
調 査 期 間	1982.4.22~5.28 11.11~11.17
調 査 面 積	560㎡
調 査 原 因	個人用住宅
調 査 担 当	平 井 寿 一
調 査 機 関	栗東町教育委員会
種 別	集落跡
主 な 時 代	古墳時代、中世
主 な 遺 構	旧河道、溝、井戸、ピット
主 な 遺 物	須恵器、土師器、黒色土器
文 献	②



作業風景 (SD-1)

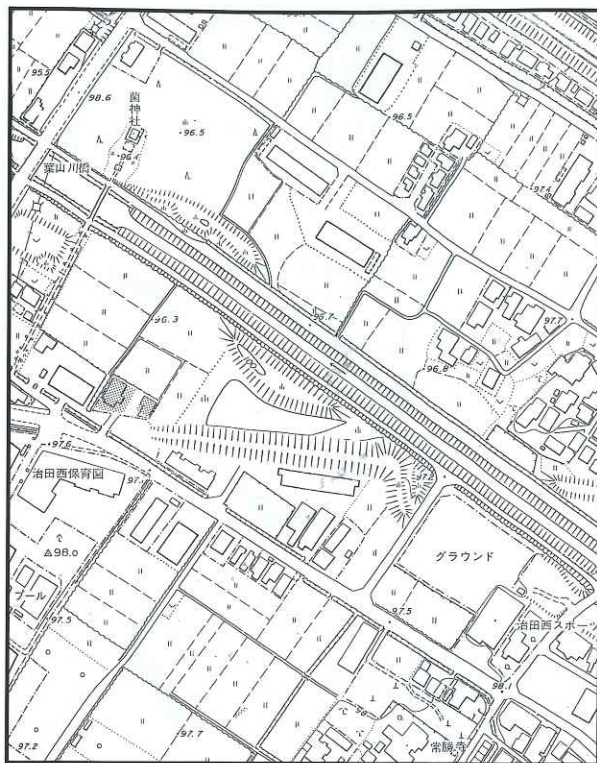


図 1 調査地位置図

本遺跡は野洲川が形成する扇状地上に位置し、北側には栗山川が西に向けて流れている。

遺跡は栗東町中沢及び草津市渋川2丁目・西渋川1丁目に広がる。本調査区はその東の端にあたり、弥生～古墳時代の遺構・遺物が発見される小柿遺跡に接する地点である。

T-1、T-2の北辺には旧河道が東に流れている。T-1では旧河道に南北方向に流れ込む溝があり、その幅は約2.5～3.7m、深さは0.5～0.7mを測る。溝の南端には直径2.5m、深さ1.4mの素掘りの井戸が掘られており、SD-1とともに旧河道に流入する古墳時代前期の湧水施設の可能性があると考えられている。また両遺構の西側には小規模なピットが2個と焼土面が確認されている。SD-1からは中世の遺物も出土しているが、後述するSD-2とは方向が異なるので、流路が埋没してから時間を経て混入したものと考えられる。

T-2東端からは条里方向に沿った溝が検出されている。溝の幅は2m以上で、深さは0.14～0.7mを測る。黒色土器及び土師器皿が出土しており、12世紀の区画溝と考えられる。

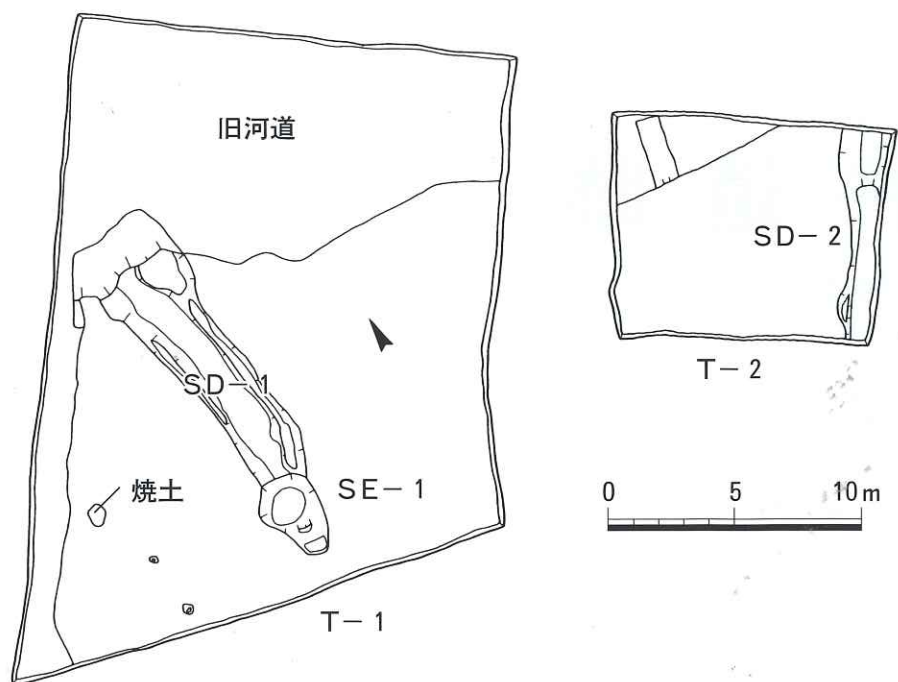


図2 遺構全体図

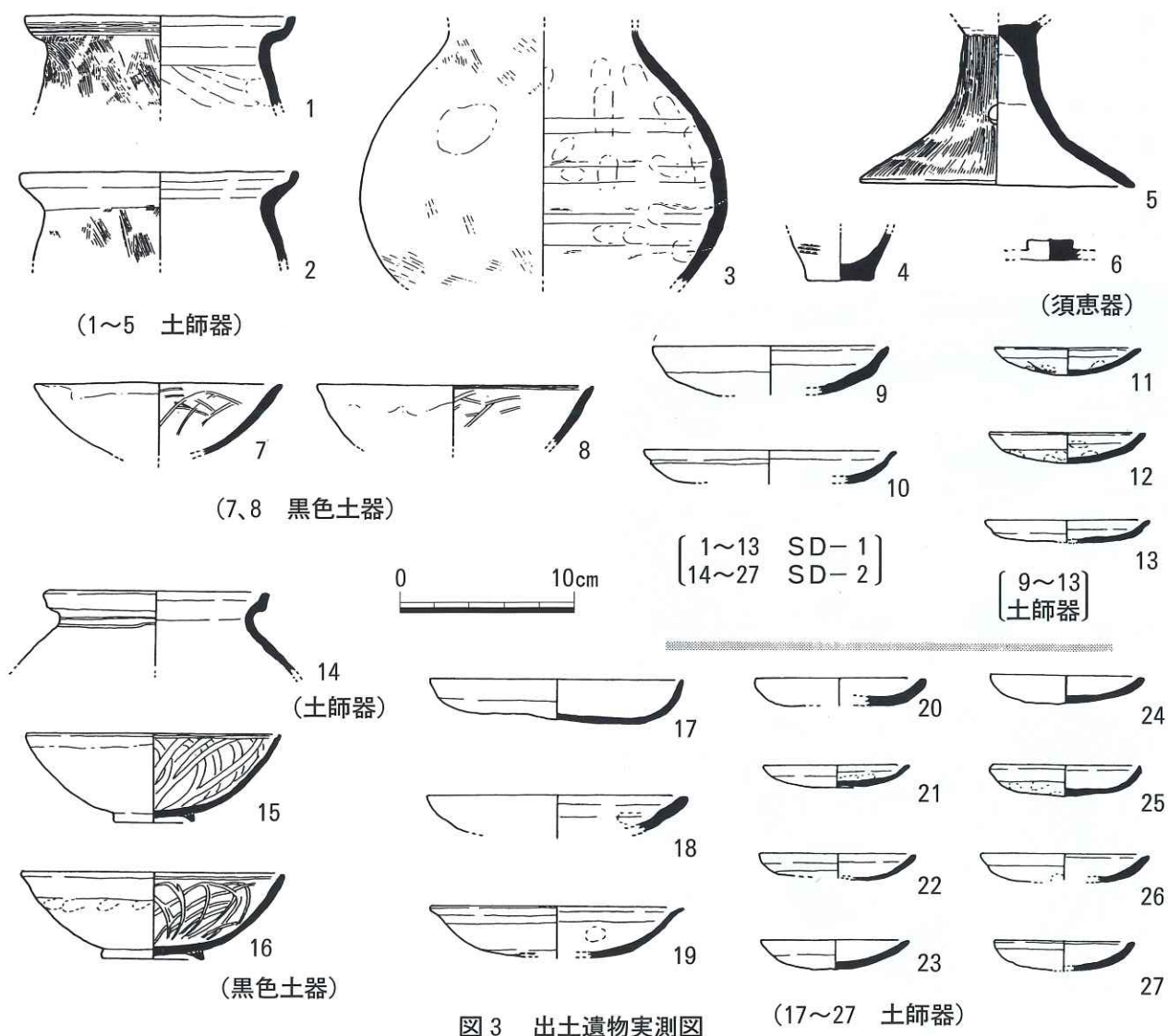


図3 出土遺物実測図

Ogaki

小柿遺跡

(82R100-02)

所在地	栗東町小柿字鉤代317-3、317-4
	北緯 35° 01' 17"
	東経 135° 58' 43"
コード	321-100
調査期間	1982.1.28~1982.2.17
調査面積	500m ²
調査原因	造成工事
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落・墓
主な時代	縄文時代～中世
主な遺構	古墳、掘立柱建物
主な遺物	弥生土器、土師器、須恵器 埴輪、黒色土器
文献	⑤



円墳出土状況



方墳出土状況

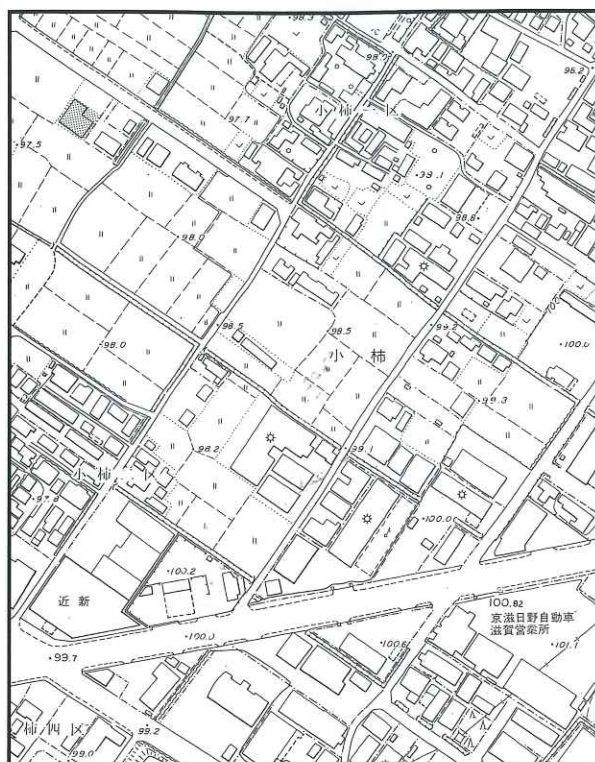


図1 調査地位置図

小柿遺跡は野洲川が形成する扇状地上に所在し、葉山川の左岸に位置する。遺跡内には小槻古墳群があり、江戸時代に刀剣類が掘りだされたと伝えられている。

本調査区からは古墳が3基、及び掘立柱建物が検出された。SX-1は方墳で1辺7.7m、周溝は幅1.2～0.7m、深さは0.2mで、コーナー部分で浅くなっている。SX-2は円墳で直径は約7.0mである。周溝の幅は0.6～2.1m、深さは0.1～0.3mで、南側で深く、北側で浅くなっている。SX-1、2は布留式併行期のものである。

SX-3は方墳で、1辺が約13mである。周溝の幅は0.9～0.4m、深さは0.02～0.55mでコーナー部分で浅くなっている。南辺部で円筒埴輪が出土しており、古墳時代後期の古墳と考えられる。

SD-4はSX-2、3の埋没後の窪みを利用して掘られた溝で、幅0.4～0.7m、深さは0.8～0.55mである。布留式併行期の土器のほか、須恵器甕・蓋形埴輪、朝顔形埴輪が出土している。

また調査区全面からピットが検出されており、掘立柱建物2棟が復元される。ほかに包含層などから縄文土器片が出土している。

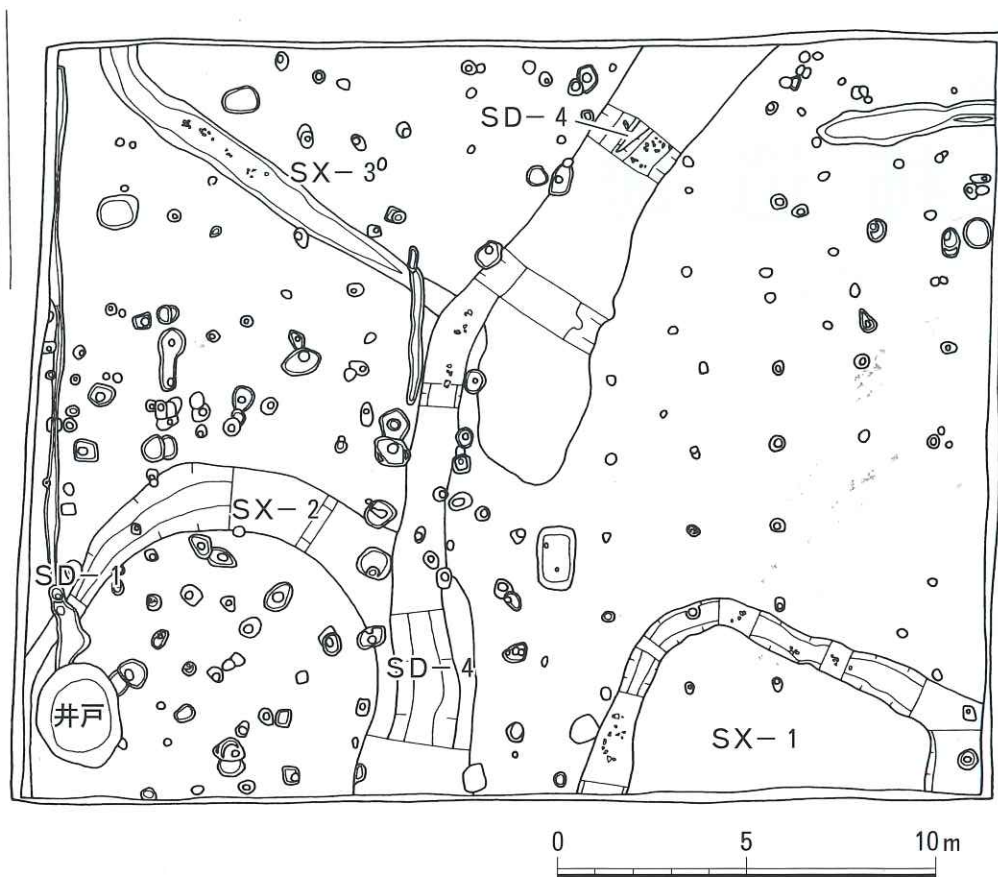


図2 遺構全体図

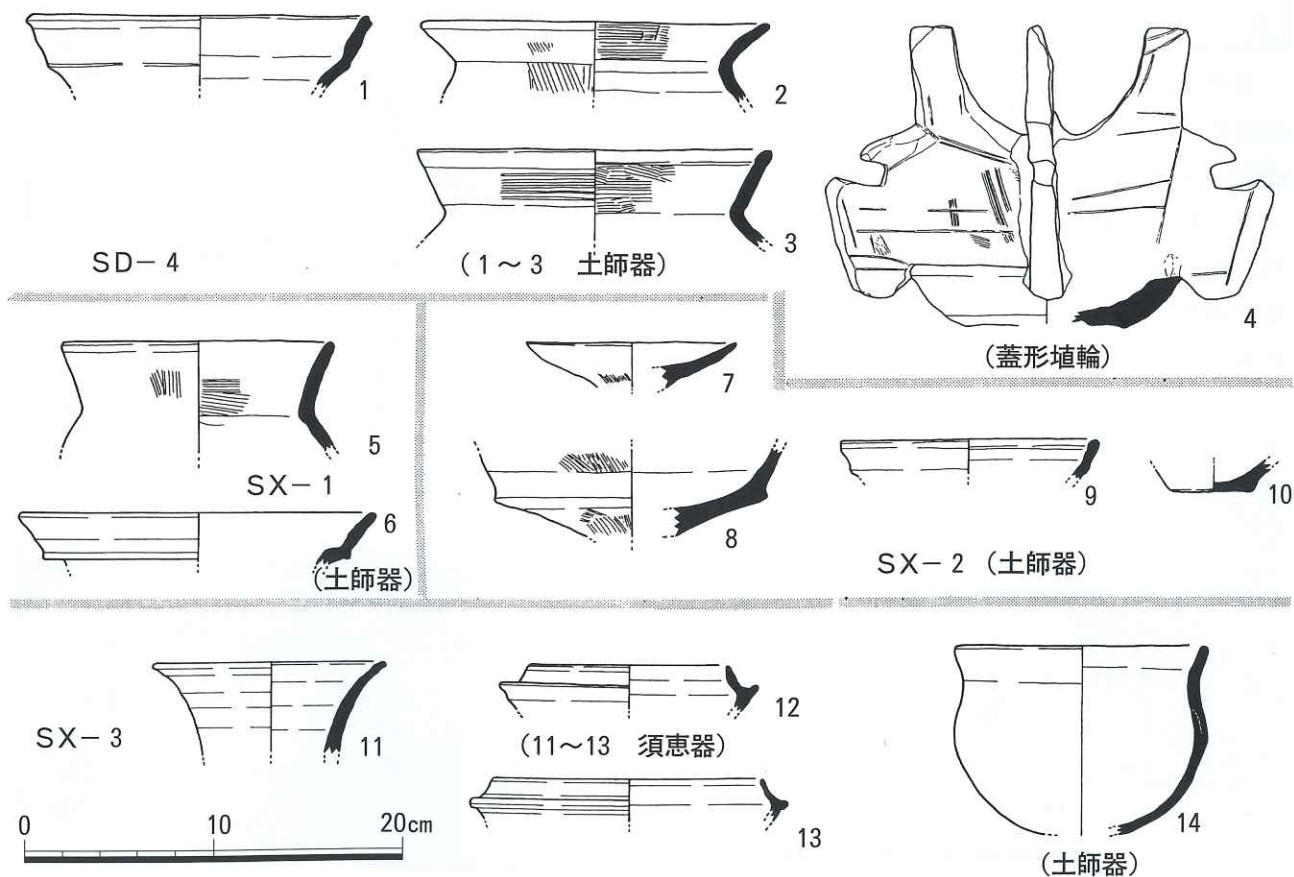


図3 出土遺物実測図

Ogaki

小柿遺跡

(82R100-01)

所在地	栗東町小柿字小殿405-4
	北緯 35° 01' 21"
	東経 135° 58' 34"
コード	321-100
調査期間	1982.5
調査面積	218.59m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町教育委員会
種別	集落・墓
主な時代	縄文～中世
主な遺構	古墳
主な遺物	埴輪、須恵器、土師器
文献	

本調査区は、小柿遺跡の北西端にあたり、近接した地点に刀剣類の出土が伝えられる小槻古墳群が所在する。

T-1では幅1.9m、深さ0.6mの溝が検出され、須恵器とともに家形埴輪片が出土している。この家形埴輪片は屋根の部分で、赤彩がみられる。

T-2では南端がマウンド状になり北側が深さ0.8mの溝状に落ち込んでいる。帆立貝式古墳の一部ではないかと考えられる。

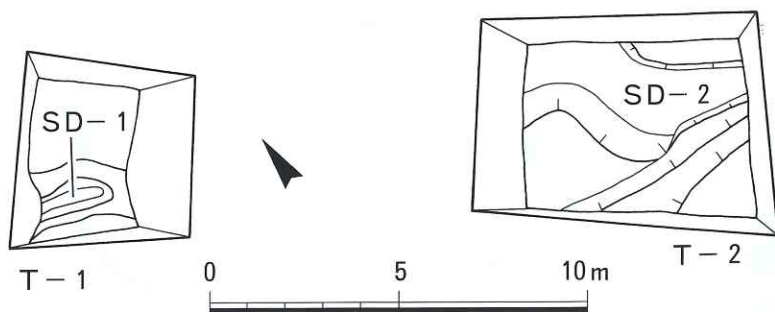


図2 調査地遺構図

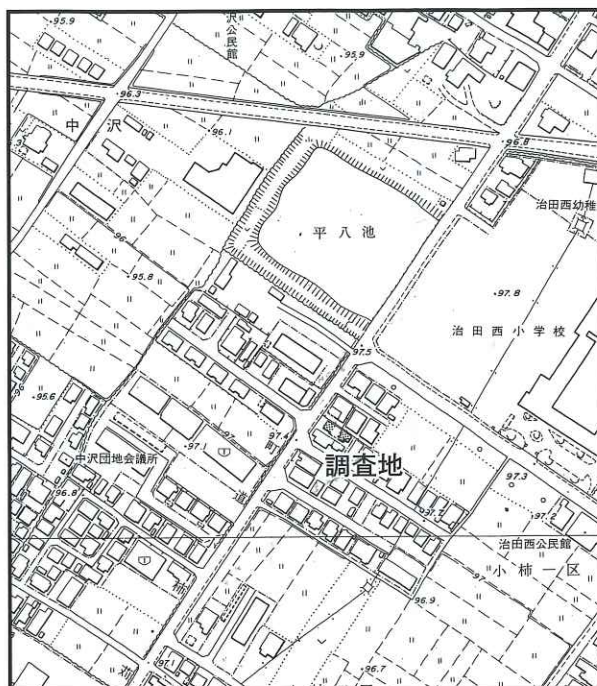


図1 調査地位置図

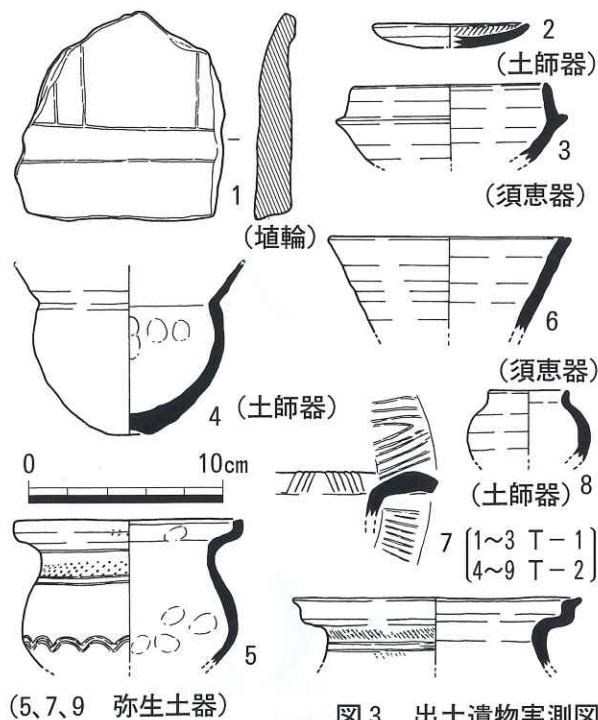
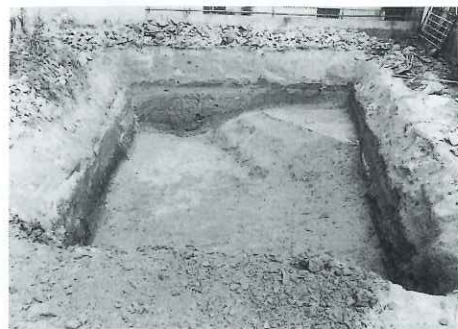


図3 出土遺物実測図



T-2 全景

Tsubakiyama

椿山遺跡

(82R039-01)

所在地	栗東町安養寺字木戸569-1 北緯 35° 01' 02" 東経 136° 00' 02"
コード	321-039
調査期間	1982.5.6～1982.6.5
調査面積	556.74㎡
調査原因	分譲住宅
調査担当	清水好洋
調査機関	(財)栗東町文化体育振興事業団
種別	墓
主な時代	古墳時代、奈良時代、中世
主な遺構	周溝
主な遺物	須恵器、土師器、黒色土器
文献	

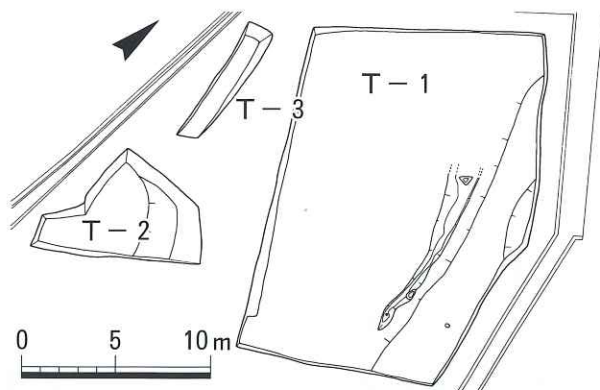


図2 調査地遺構図

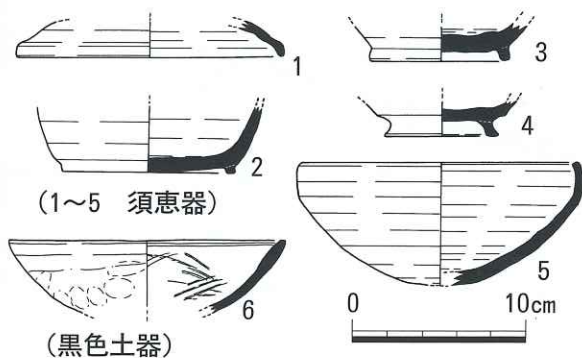


図3 出土遺物実測図

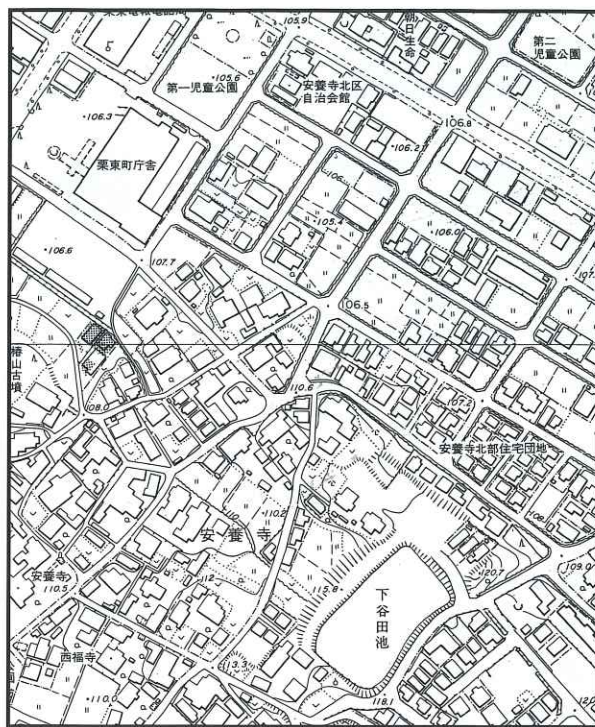


図1 調査地位置図

椿山古墳には地形などから幅約18mの周濠の
が想定されているが、本調査区は後円部周濠の
外側に隣接する地点である。

T-1の東端部では耕土下約0.3mの深さで
遺構面に達し、椿山古墳方向に大きく落ち込ん
でいる状況が確認された。深さは最大で約2.5
mを測る。T-2では落ち込みの椿山古墳側の
肩部が見つかり、その幅は約14mに及ぶことが
確認された。落ち込みの上層もしくは肩部から
は奈良時代～中世の遺物が出土した。

本調査区の落ち込みの状況からは、椿山古墳
の外側にもう1条周溝があった可能性が考えら
れる。



作業風景

Nakamura

中村遺跡

(82R057-01)

所在地	栗東町御園字出口 北緯 35° 00' 00" 東経 136° 01' 40"
コード	321-057
調査期間	1982.12.11～1983.4.30
調査面積	40,000㎡
調査原因	区画整理
調査担当	清水好洋
調査機関	(財)栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代～鎌倉時代
主な遺構	掘立柱建物、土壇、溝
主な遺物	土師器、須恵器、白磁瓦器
文献	



図1 調査地位置図

中村遺跡は金勝川の右岸に大きく開けた谷底平野に立地する。近接する上砥山の丘陵部には古墳時代後期の龍王古墳があり、律令期には周辺の丘陵部で須恵器や瓦の窯が生産をおこなっている。

今回の調査区は中村遺跡でも東端の丘陵部寄りの地点にある。T-1では4棟以上の掘立柱建物が検出された。北側の建物は6間×2間で南側に

底がつくものである。このほか4間以上×4間、2間以上×2間、3間以上×3間等の建物がみられる。

各トレンチ包含層からは瓦器が多く出土しているが、栗東地域では当該期の供膳具に黑色土器を多用することと比べると特異である。

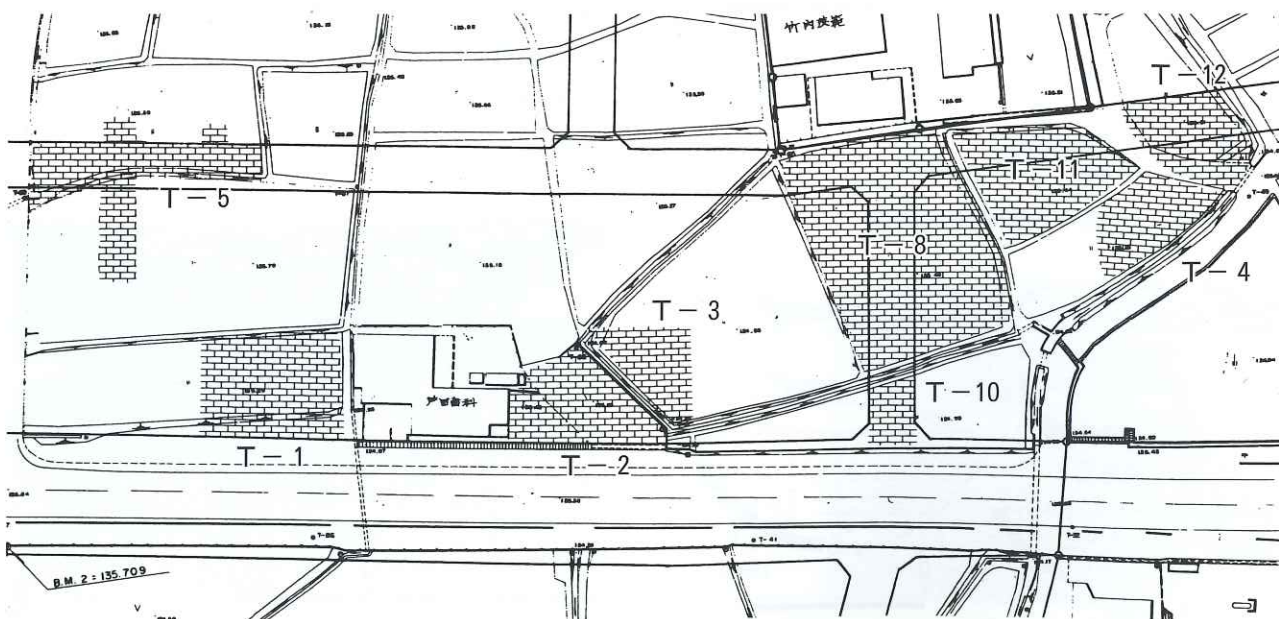
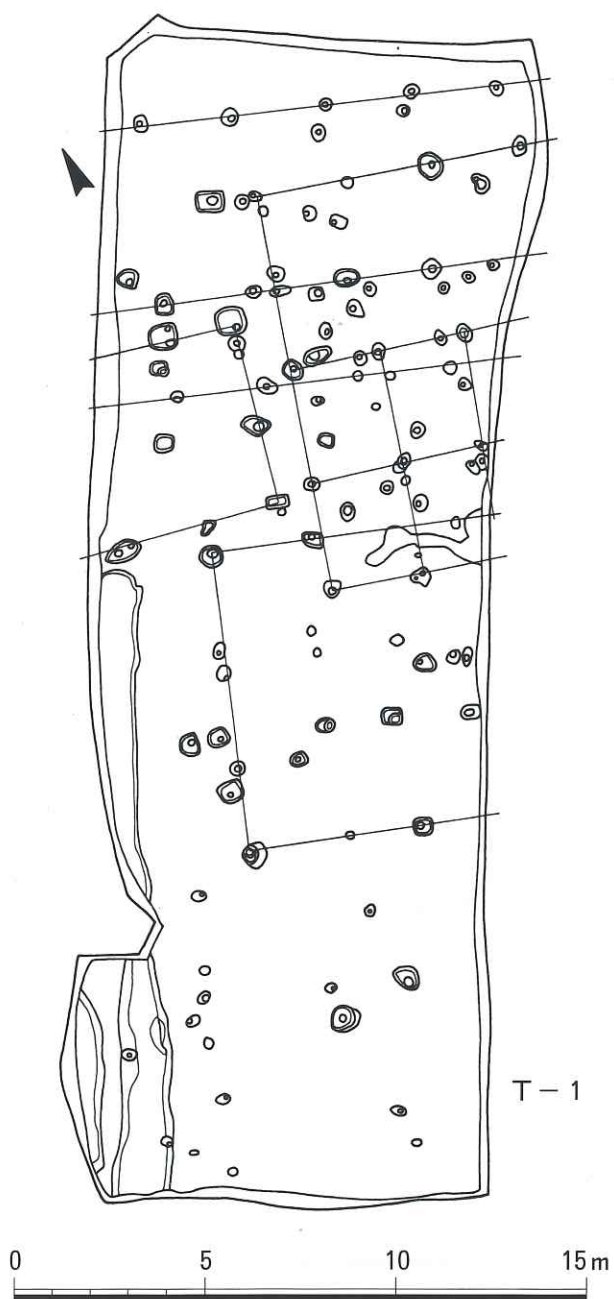


図2 トレンチ配置図 (S=1/1000)



T-1 全景

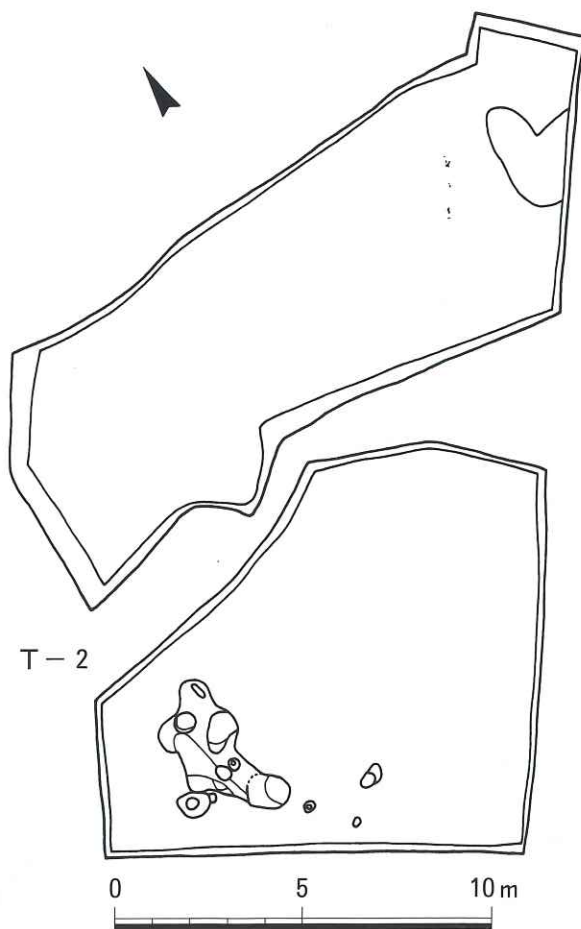
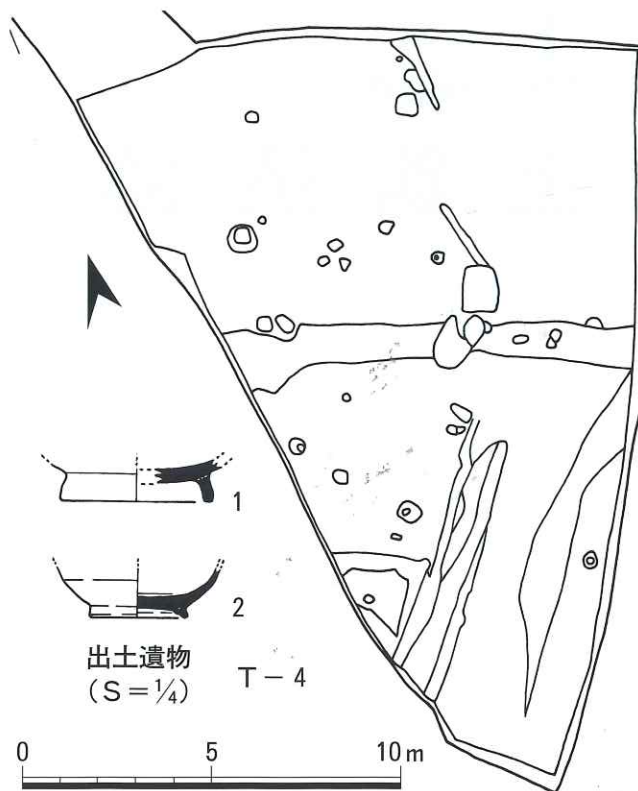


図3 調査区遺構図

Kamimagari

上 鈎 遺 跡

(82R089-01)

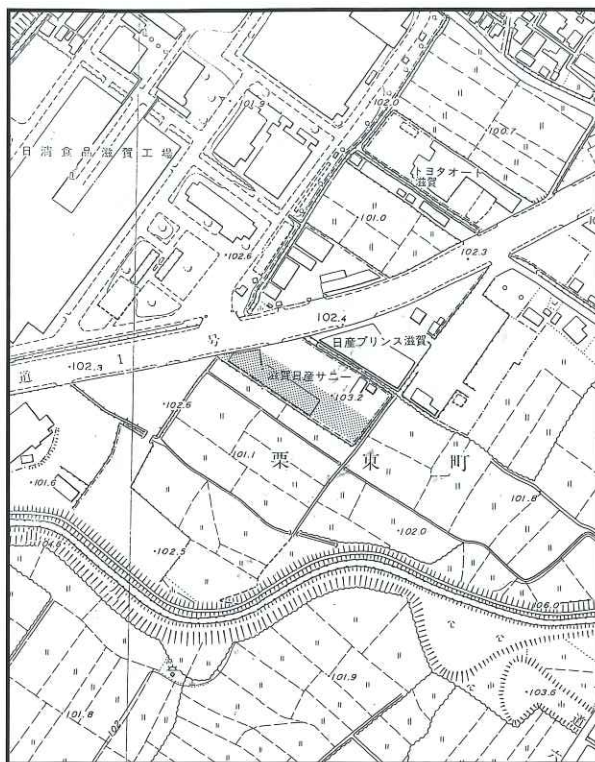
所 在 地	栗東町上鈎字口井関335-1、336
	北緯 35° 01' 11"
	東経 135° 59' 24"
コ ー ド	321-089
調 査 期 間	1982.3.23～1982.6.26
調 査 面 積	1,852.31m ²
調 査 原 因	造成工事
調 査 担 当	清 水 好 洋
調 査 機 関	(財)栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落、墓
主 な 時 代	弥生時代～中世
主 な 遺 構	土壇、掘立柱建物、溝
主 な 遺 物	弥生土器、須恵器、土師器 瓦器、黑色土器、石鏃
文 献	

上鈎遺跡は葉山川右岸に位置する弥生時代から中世の複合遺跡である。本調査区では3面にわたって遺構が確認された。

第1遺構面では条里方向に沿った小溝が検出されている。さらに約10cm下の第2遺構面ではT-1から周溝状遺構・土坑・掘立柱建物が検出された。周溝状遺構は1辺約10mの規模になるとみられ、その幅は0.07～1.7m、深さは0.2～0.3mでコーナー部分は浅くなっていたためか溝は途切れている。T-1北端部で検出された焼土壇は径約1.5mの円形で、弥生時代後期の土器が出土した。ほかに南西側では、3間×2間以上の条里方向に沿った掘立柱建物が検出された。T-2では東側から井戸が確認された。

第3遺構面は更に10cm下の層で、不整形を呈する土坑から石鏃が出土している。

遺構には伴っていないが、このほかにヘラ描きがみられる須恵器杯身、石鏃などが出土している。



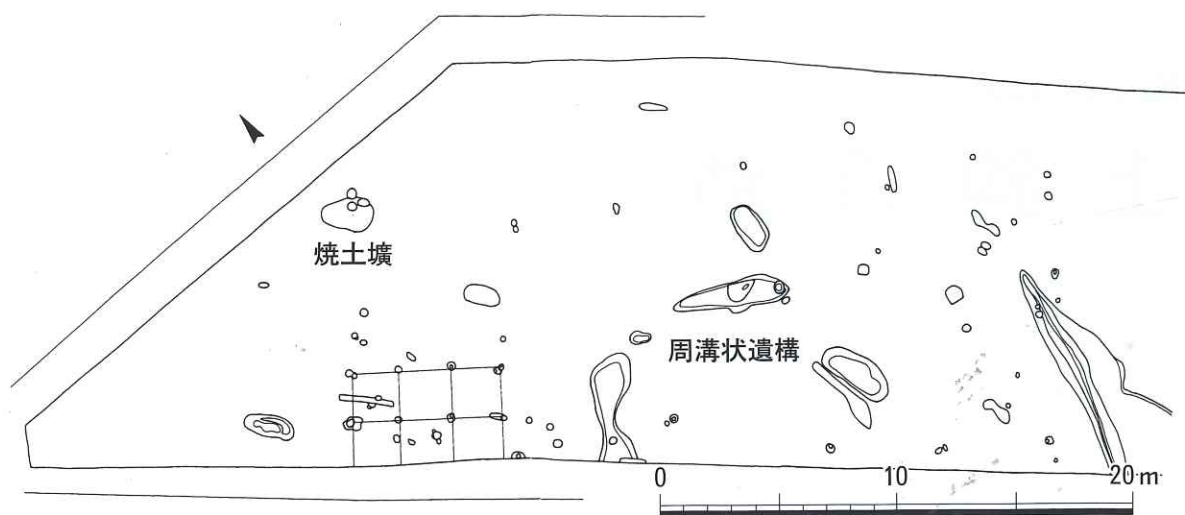


図3 T-1 遺構全体図

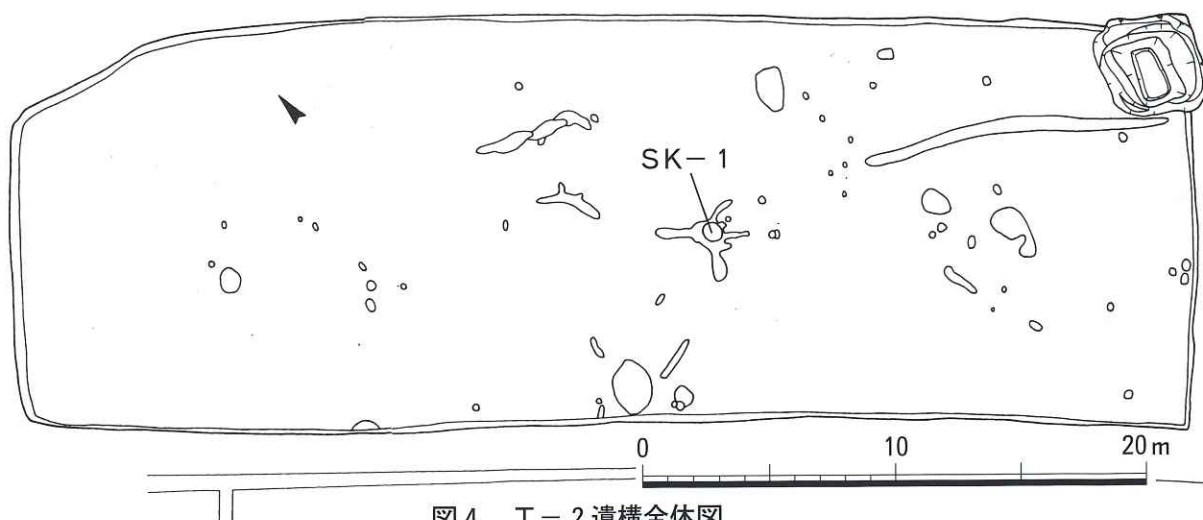


図4 T-2 遺構全体図

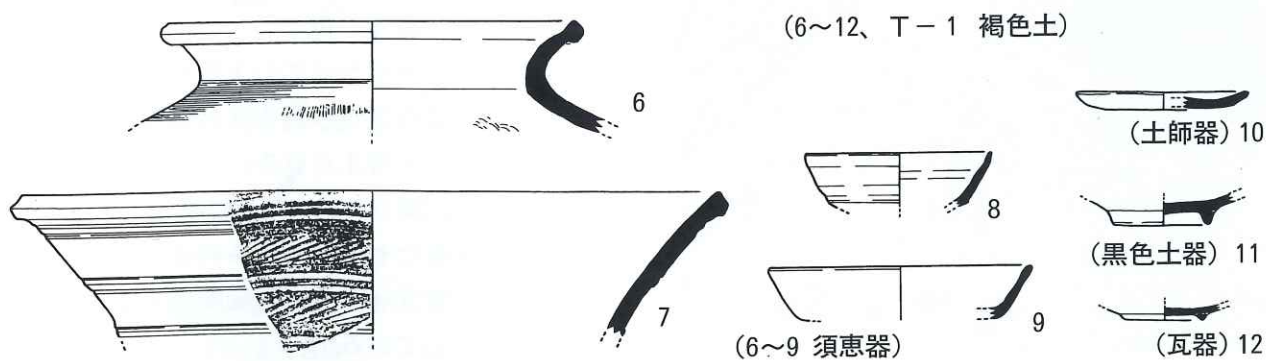
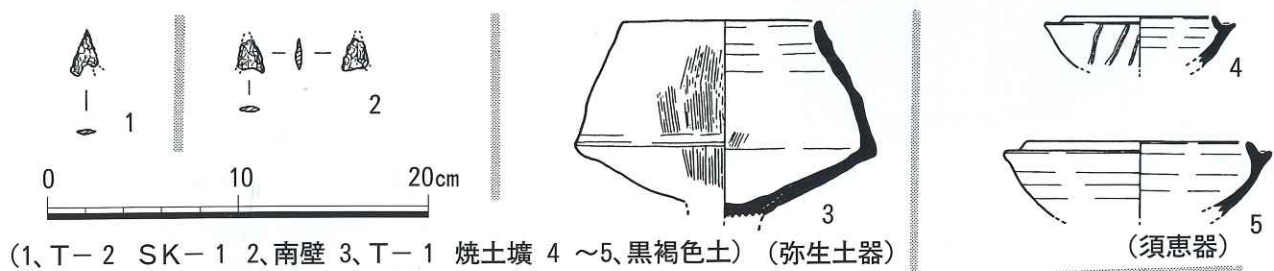


図5 出土遺物実測図

Kamimagari

上 鈎 遺 跡

(82R089-02)

所 在 地	栗東町上鈎字上南平399
	北緯 35° 01' 13"
	東経 135° 59' 38"
コ ー ド	321-089
調 査 期 間	1983.2.26~1983.3.31
調 査 面 積	893m ²
調 査 原 因	アパート建設
調 査 担 当	平 井 寿 一
調 査 機 関	(財)栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落、墓、道路
主 な 時 代	弥生~平安時代
主 な 遺 構	溝、土壇、ピット
主 な 遺 物	弥生土器、須恵器、土師器 黒色土器、灰釉陶器
文 献	



SK-1 遺物出土状況



調査地全景

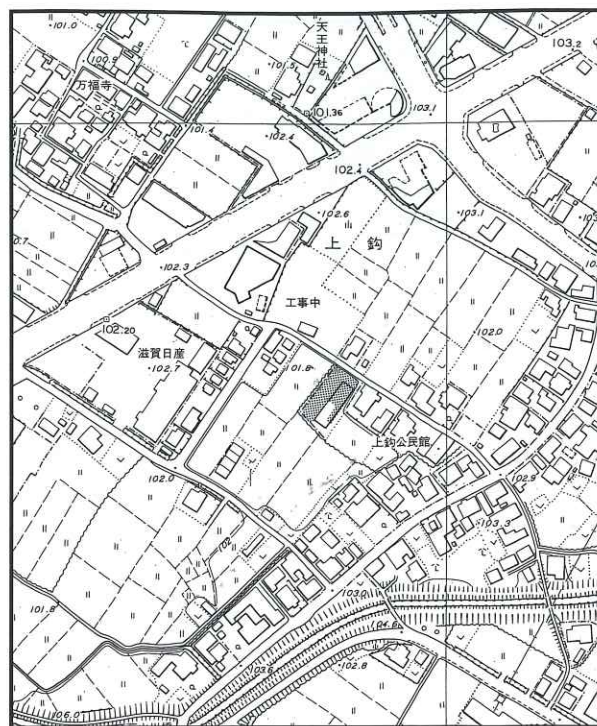


図1 調査地位置図

本調査区は上鈎遺跡のなかでも東端部にあたり、溝・土壇・掘立柱建物・旧河道が検出された。

土壇（SK-1）は不整長楕円形を呈し、長径1.25m、短径0.5m、深さ約0.35mを測る。SK-1からは弥生時代後期の受け口状口縁鉢が出土している。鉢は脚部がつくものであるが欠損している。

溝（SD-5）は磁北を51°東に振る方向に直線的に延びる溝で、トレンチ東寄りでは2条となっている。溝の幅は約1.0m、深さは約0.2mで、トレンチ東寄りで検出される溝のうち、南側の溝はやや深くなっており約0.3mである。弥生時代後期・古墳時代・奈良~平安時代の遺物が出土している。

溝の周辺からは多数の柱穴を検出しているが、掘立柱建物は復元し得ていない。柱穴からは古墳時代から中世にかけての土器が出土していることから当調査区及び調査区の周辺に各時期の集落があったと考えられる。

旧河道は、深さ0.3~0.5mで平安時代後期以降に形成されたものと考えられる。

ほかに、包含層からは灰釉陶器・須恵器・土師器が出土している。

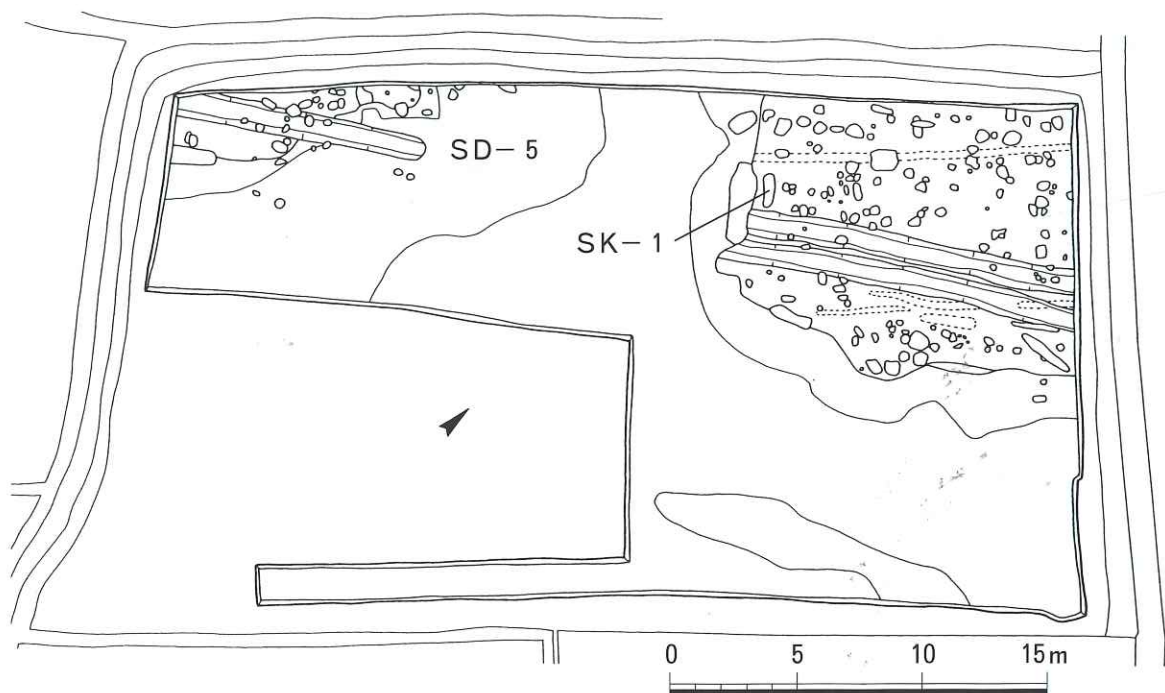
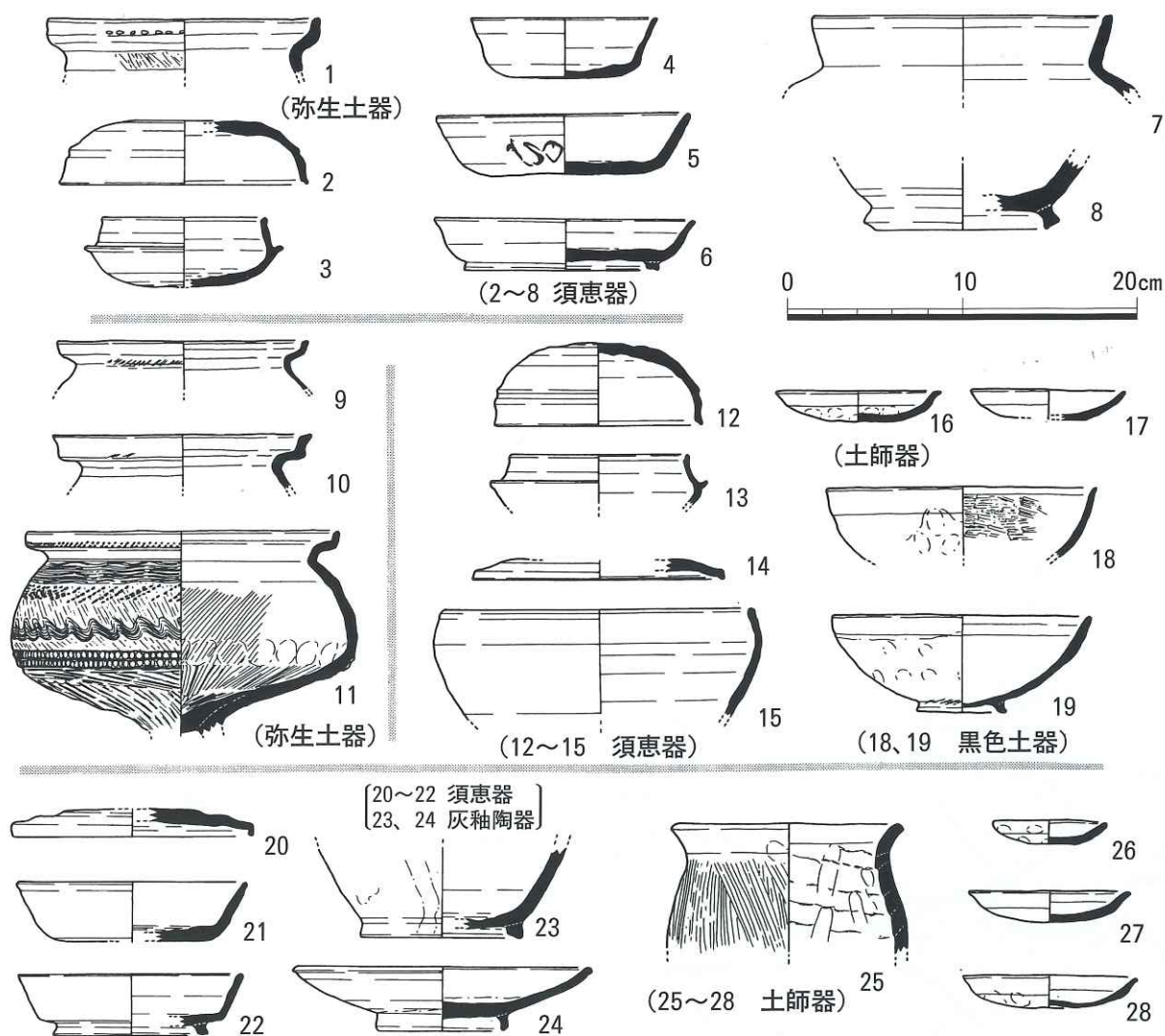


図2 遺構全体図



(1~8. SD-5、9~11. SK-1、12~19. ピット、20~28. 包含層)

図3 出土遺物実測図

上鉤遺跡で発見された溝跡について

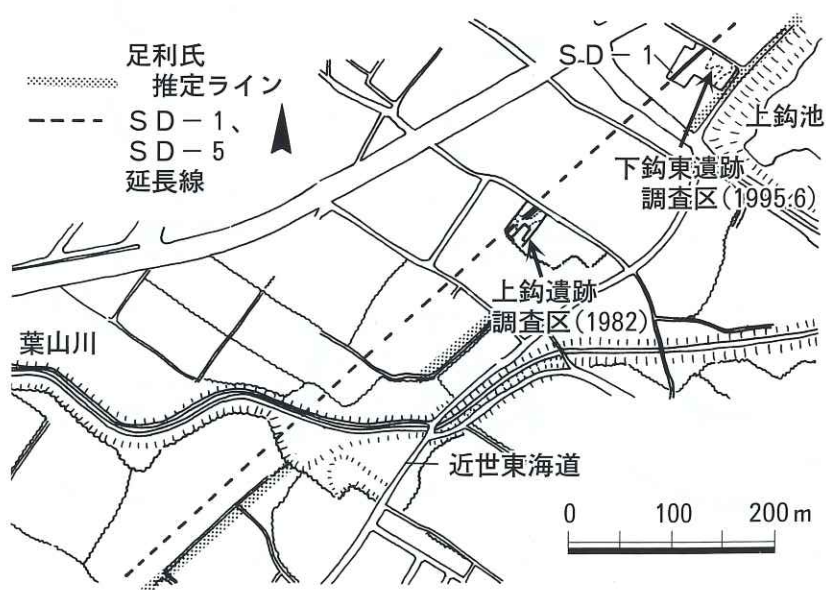
1982年に調査された上鉤遺跡(82R089-02)では、条里方向や正南北方向とは異なる方位をとる溝が発見された。溝(SD-5)は磁北を東に約51度振っており、幅は約1m、深さは0.2~0.3mを測る。溝からは弥生時代後期の遺物に加えて、奈良時代末~平安時代初頭の遺物が含まれている。

ところで1995.6年度に調査された下鉤東遺跡¹⁾は、上鉤遺跡の北東約150mのところにあるが、1982年度に調査されたSD-5の延長線上に同じ方位を持つ溝(SD-1)が発見されている。溝の幅は1.5m、深さは約0.5mで9世紀の須恵器が出土している。SD-1は正南北方向に並ぶ柵列とみられる柱穴列を切って掘削され、SD-1埋没後は掘立柱建物がつくられる。掘立柱建物はSB-3、SB-2、SB-1の順に建てられ、このうちSB-3からは9世紀の須恵器鉢が出土している。溝に先行していた柵列の正南北方向は、近接する手原遺跡や狐塚遺跡などで7世紀末を中心としてみられるもので、柵列の時期も遺物は出土していないものの同様の時期のものであると考えられる。即ち溝が機能していた時期は7世紀末から9世紀代のある時期と想定でき、上鉤遺跡の溝と重複する時期のものであった可能性が高い。また、SD-1の南東側10~20mの地点では溝に平行して6条のピット列が検出され、古代の道路状遺構に伴う「波板状凹凸面」と考えられている。このピット列は8世紀から12世紀の遺物を含む旧河道によって攪乱を受けている。

近江における古代東海道を推定した足利健亮氏によると、東海道は栗太郡内では栗東町目川から上鉤にかけて北東にルートを取り、手原付近で真東に折れて石部方向へ向かうと推定されている。²⁾ 本調査区および下鉤東遺跡は足利氏の推定したルート上にほぼ重なる位置であり、両遺跡で発見された溝の方向は、足利氏推定の根拠となった畦畔等に残る古地割の方向とほぼ一致している。官道としての東海道が当地域を通過するようになるのは、長岡京期以降のことであり、上鉤遺跡の溝が機能していた時期とも符合する。

付近には後に洪水との戦いによって形成される天井川の葉山川があり、両遺跡とも溝やピット列が流路に攪乱されている。川に直交するように設置されることを余儀なくされた古代道路もまた、河川の氾濫によって作りなおしを迫られたこともあったであろう。下鉤東遺跡では溝が早い段階で埋まって掘立柱建物が建てられていることやピット列と溝との間に20m程度の隔たりがあること、足利氏推定ルートと上鉤遺跡の調査でみられた溝には約20mとの隔たりがあること背景には、あるいはこうした道路のつくり替えによるものである可能性も考えられる。

(雨森智美)



註1) 藤岡英礼「下鉤東遺跡」『栗東町埋蔵文化財発掘調査1996年度年報』(財)栗東町文化体育振興事業団 栗東町教育委員会 1997

2) 足利健亮「近江の土地計画」『日本古代地理研究』1985

Nojiri

野尻遺跡

(82R088-02)

所在地	栗東町野尻字鎧田426-2
	北緯 35° 01' 56"
	東経 135° 59' 24"
コード	321-088
調査期間	1983.1.10~1983.1.19
調査面積	198m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	清水 好 洋
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集落
主な時代	平安時代
主な遺構	周溝状遺構、溝、土坑
主な遺物	須恵器、土師器
文 献	

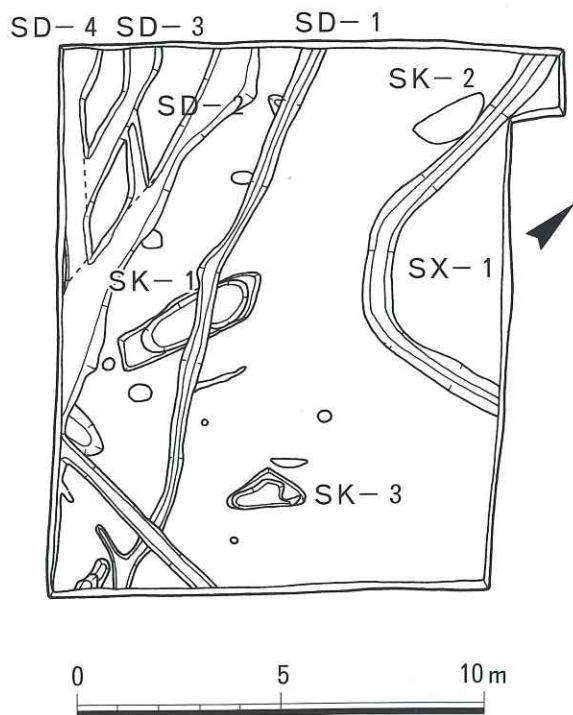


図2 遺構全体図

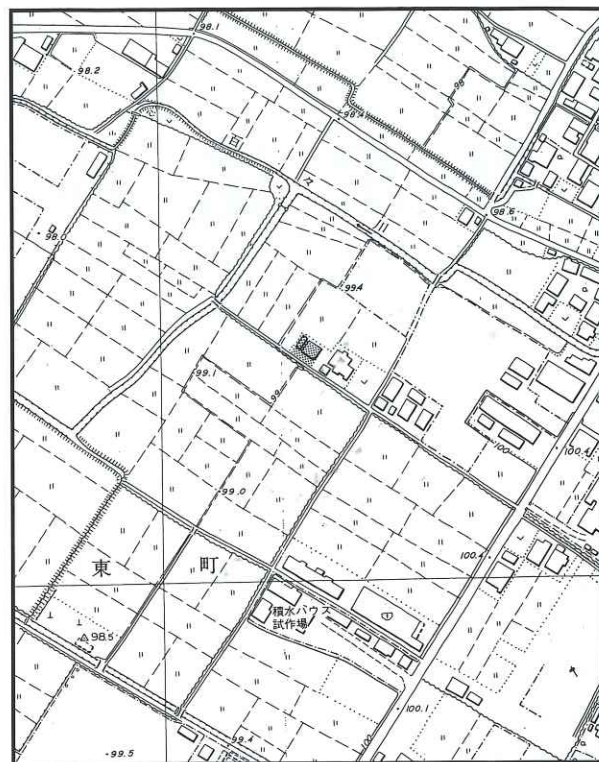


図1 調査地位置図

本調査区からは耕土下約0.3mで周溝状遺構・溝・土坑が検出されている。

周溝状遺構は全体の規模は明らかではないが、溝の幅は1.4~1.6m、深さは0.5~0.7mを測る。土坑には切られるが、遺物が出土していないため時期は不明である。

SD-1は北を27度西に振る溝で、幅は0.3~0.5mの浅い溝である。ほかの溝はSD-3→SD-4→SD-2の順で重複している。いずれも幅は概ね0.8m程度、深さは0.1~0.2mである。

遺物は須恵器・土師器・黒色土器が出土するがいずれも小片ばかりであった。



調査地全景

Nojiri

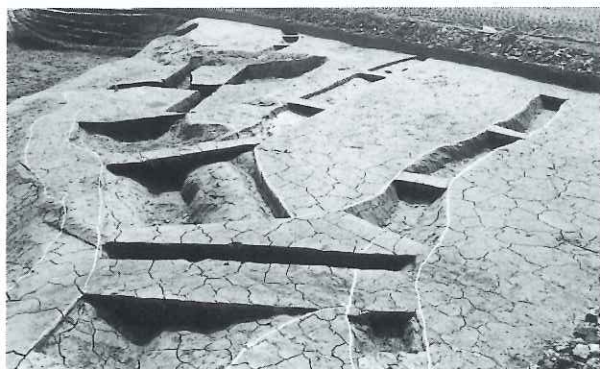
野尻遺跡

(82R088-01)

所在地	栗東町野尻字水戸56-2 北緯 35° 01' 51" 東経 135° 59' 23"
コード	321-088
調査期間	1982.9.2~1982.10.25
調査面積	1,153㎡
調査原因	ハウス試作場
調査担当	清水好洋
調査機関	財栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳~平安
主な遺構	溝、土壇
主な遺物	須恵器、土師器、黒色土器 輸入陶磁器、土錘、木製品
文献	



調査風景



SD-1~4

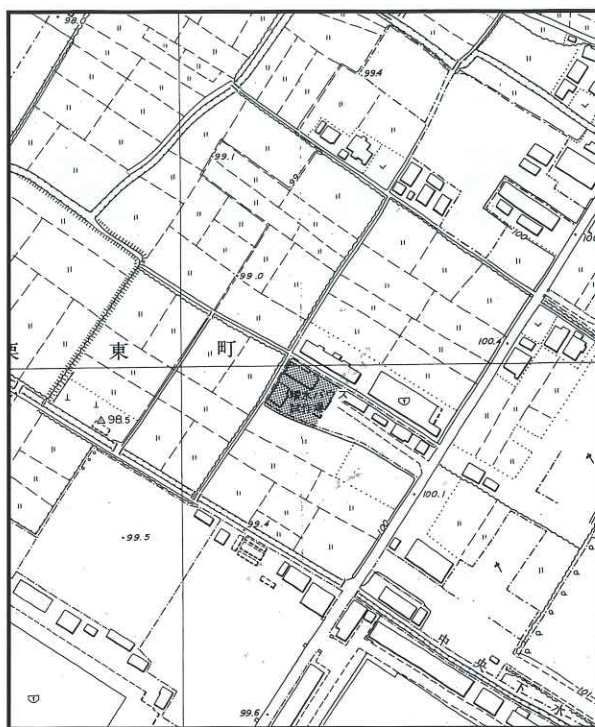


図1 調査地位置図

本調査区は前頁の調査区から約150mの地点にあたる。遺構検出面は黄褐色土で、南北方向に延びる大溝、溝、土坑が検出された。

大溝は最大で24m、狭い部分で10mの幅をもつ。深さはトレンチ南端部で約1.5m、北端では2.0mとやや深くなっている。大溝はトレンチ中央部で溝底が深くなって蛇行しているが、その付近で杭列が溝に直交して打ち込まれ、杭列の手前はやや幅広くなっており、水をせき止めるしがらみ状の遺構であったと考えられる。大溝には暗褐色土、黒褐色土、スクモ層、レキ層が堆積している。

大溝の遺物は下層で古墳時代前期の遺物が、上層では鎌倉時代に降る遺物が出土しており、溝の存続期間を窺わせる。特筆すべき遺物には、土師器甕（図3-6）の肩部に窓枠状に黒彩が施されたものがある。ほかに大足・叉鋤などの木製品も出土している。

このほか調査区からは大溝に並行する小規模な溝（SD-1~4）、大溝の右岸には土坑（SK-1~4）が検出されている。土坑から遺物は出土していない。

本調査区で検出された大溝の状況から、当地域が古墳時代以降生産地域であったことを窺わせる。

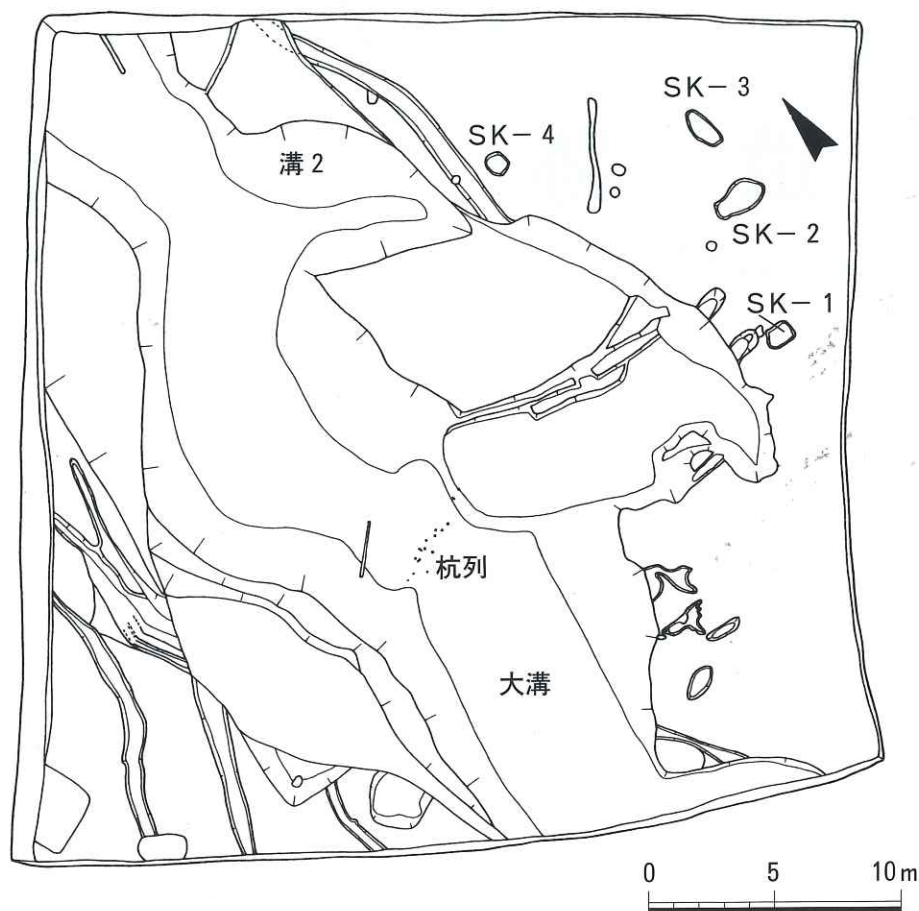


图 2 調查地遺構図

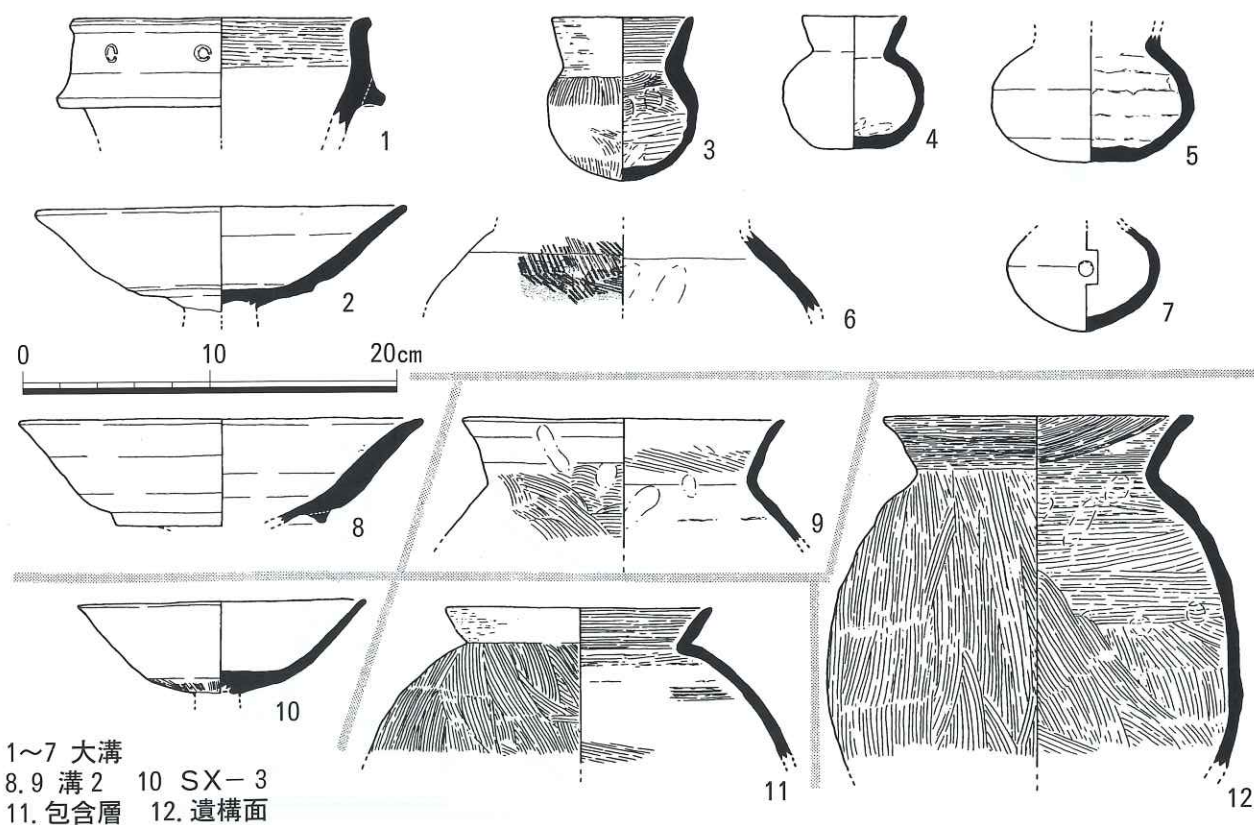


图 3 出土遺物実測図

跡 遺 綰

本調査区は縄遺跡でも北東の端にあり、守山市二町遺跡に隣接している。T-1では方形周溝墓（弥生時代後期）1基、土坑2基、井戸（中世）が、T-2では方形周溝墓（弥生時代後期）1基、掘立柱建物1棟が検出された。

所在地	栗東町繪字南星塚765
	北緯 35° 02′ 28″
	東經 135° 58′ 48″
コード	321-093
調査期間	1983.1
調査面積	997㎡
調査原因	個人住宅
調査担当	平井 寿一
調査機関	栗東町教育委員会
種別	墓、集落
主な時代	弥生時代、中世
主な遺構	方形周溝墓、土壇、掘立柱建物
主な遺物	弥生土器、白磁 須恵器、土師器
文献	

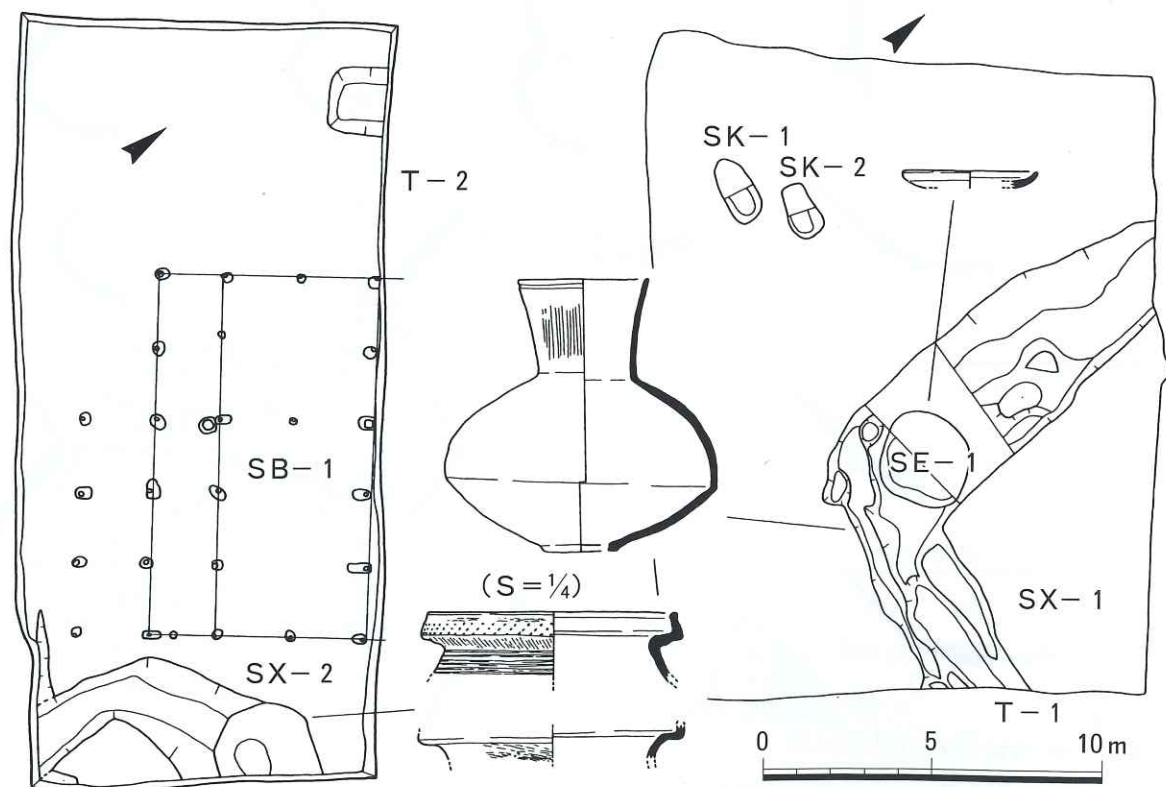


図2 調査地遺構図および出土遺物実測図

Heso

(82R093-02)

所在地	栗東町綾字円田772-4 北緯 35° 02' 26" 東経 135° 58' 49"
コード	321-093
調査期間	1983.3
調査面積	429m ²
調査原因	個人住宅
調査担当	清水 好 洋
調査機関	栗東町教育委員会
種 別	集落
主な時代	鎌倉時代
主な遺構	溝
主な遺物	陶器、灰釉陶器 須恵器、土師器、黑色土器
文 献	

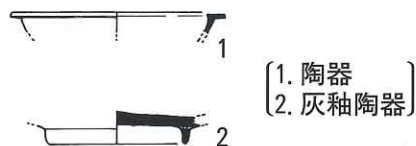


図2 包含層出土遺物 (S=1/4)

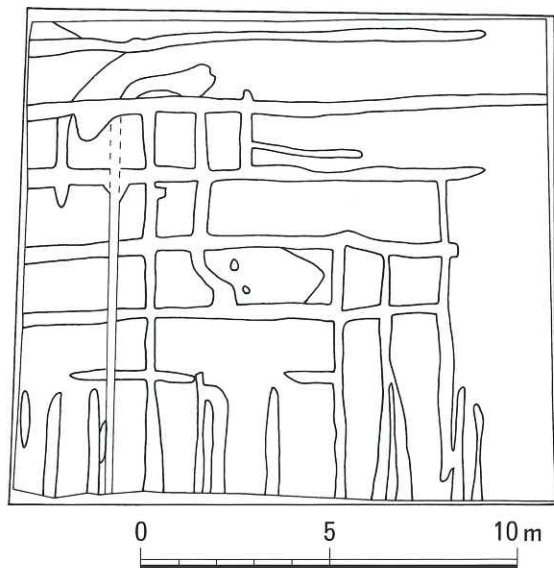


図3 調査地遺構図

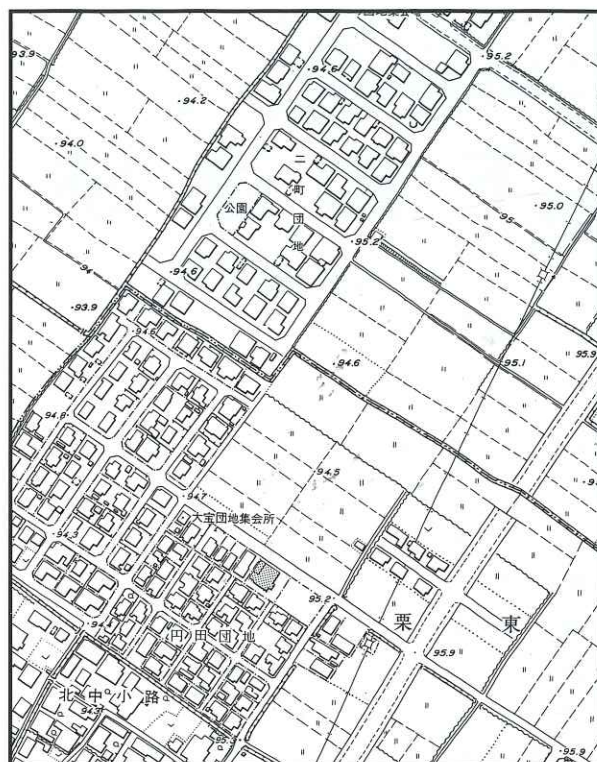


図1 調査地位置図

綾遺跡は中ノ井川右岸にある遺跡で、弥生時代から近世にいたる遺構・遺物が発見されている。本調査区は綾遺跡でも北東の端にあたり、(82R093-01) 調査区の西に隣接する。

本調査区では耕土から約0.3mで、暗茶灰色の遺構ベース面にいたる。遺構は条里方向に沿った小溝群で、明黒灰色土が堆積する。溝の幅は約0.6m、深さは0.05～0.1mであり、遺物はほとんど出土しない。これらは縦横に掘られており、耕作痕と考えられる

隣接調査区で検出された方形周溝墓は検出されなかった。

包含層からは須恵器・土師器・黑色土器・陶器・灰釉陶器が出土している。

Shimomagari

下 鈎 遺 跡

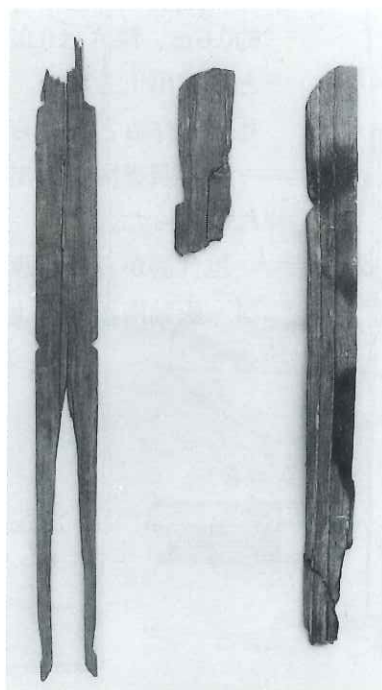
(82R095-01)

所 在 地	栗東町下鈎字宮の北浦1177番地 北緯 35° 51' 37" 東経 135° 58' 49"
コ ー ド	321-095
調 査 期 間	1982.6.4~1982.7.17
調 査 面 積	507m ²
調 査 原 因	マンション建設
調 査 担 当	平 井 寿 一
調 査 機 関	(財)栗東町文化体育振興事業団
種 別	集落
主 な 時 代	弥生時代、平安時代
主 な 遺 構	溝
主 な 遺 物	弥生土器、須恵器、土師器 黒色土器、白磁、墨書土器
文 献	

下鈎遺跡は葉山川の右岸に位置し、縄文時代～中世にいたる遺構・遺物が発見されている。

本調査区で検出された遺構には、旧河道、ピット、土坑がある。旧河道は幅12～20m、深さは約1m程度で砂礫層を複雑に堆積しながら埋没し、上層では溝状の遺構となっている。

旧河道では弥生時代中期の土器が多数出土しているほか、上層の溝からは、木製人形・墨書土器「大」などが出土している。



旧河道出土人形

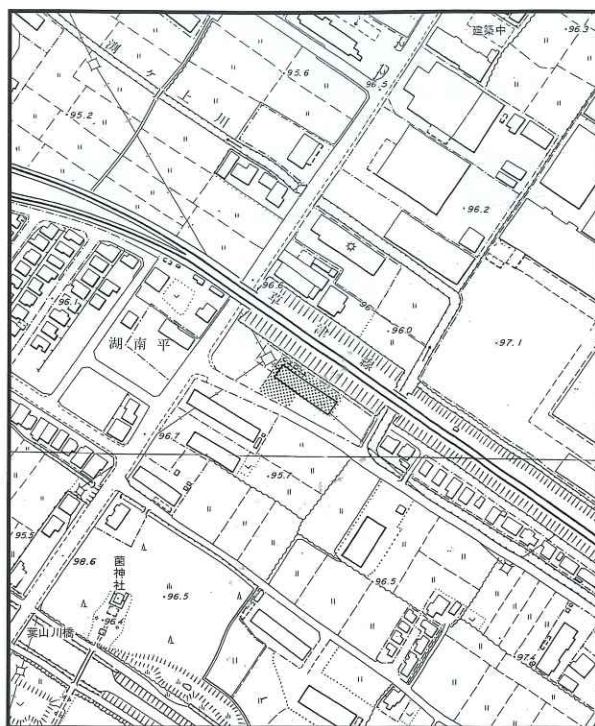


図1 調査地位置図

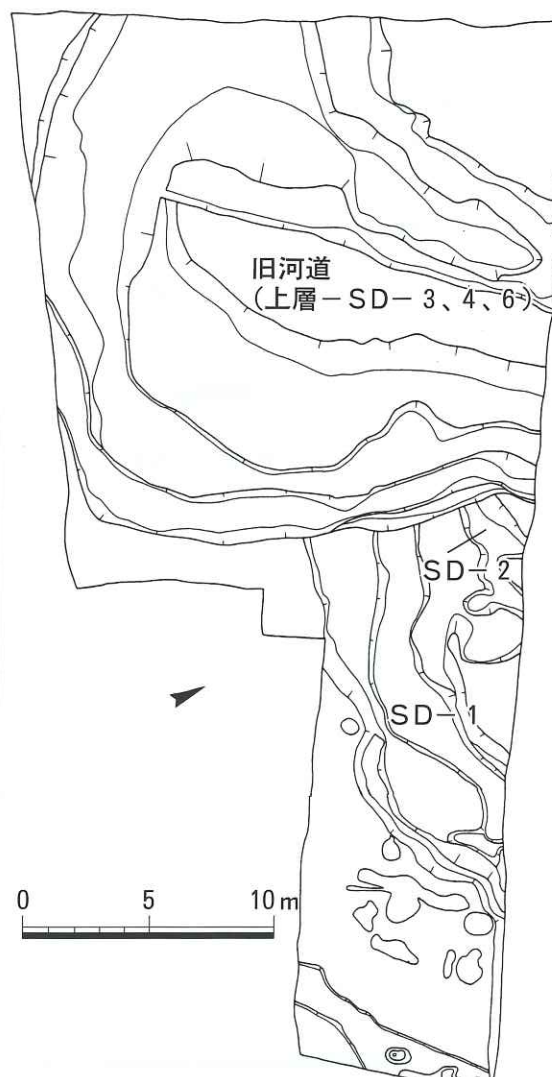


図2 調査地遺構図

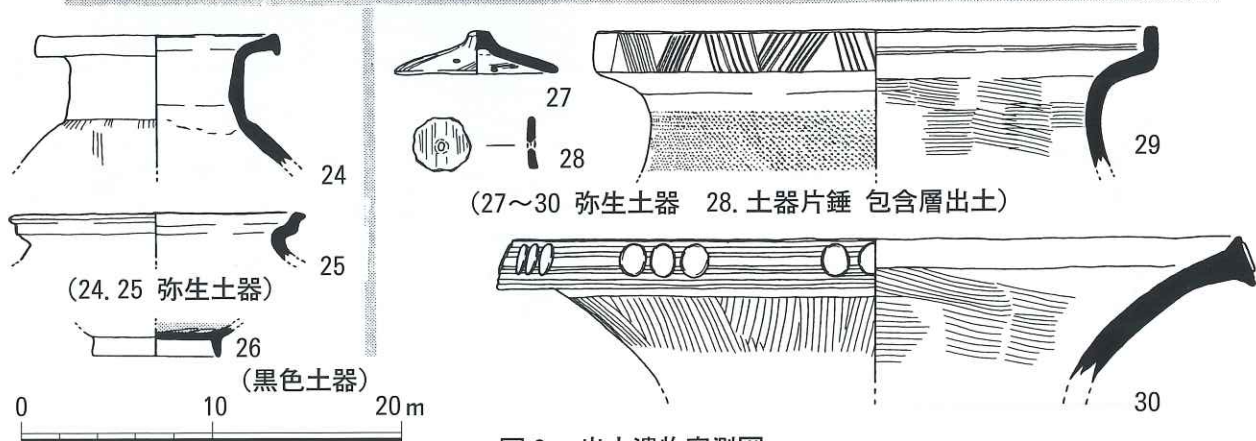
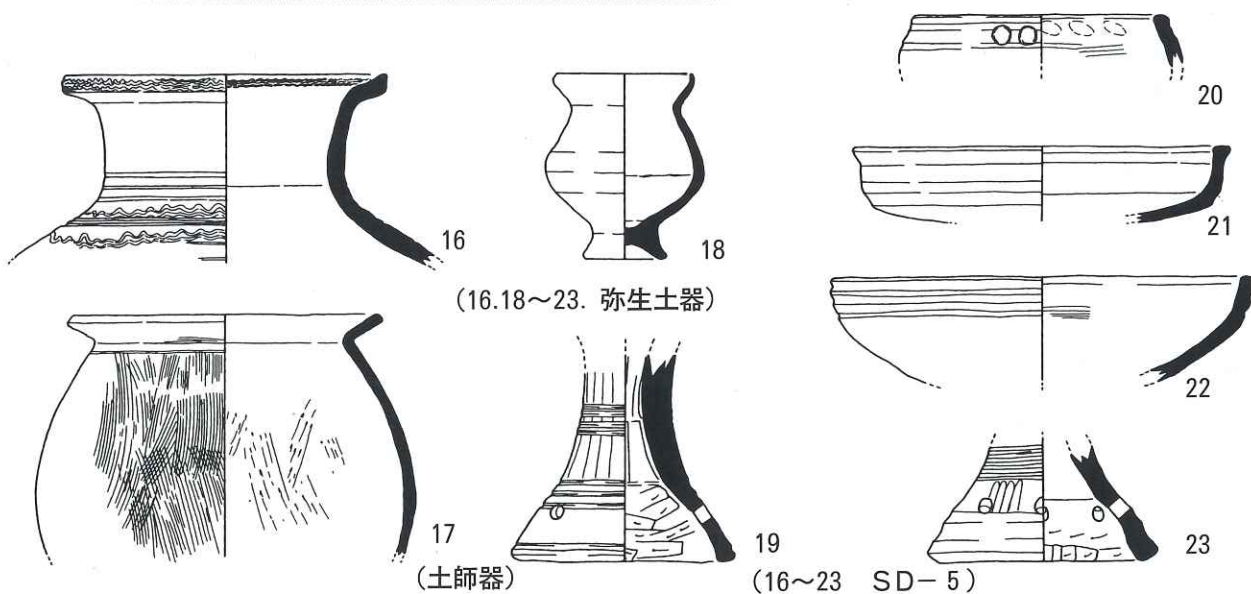
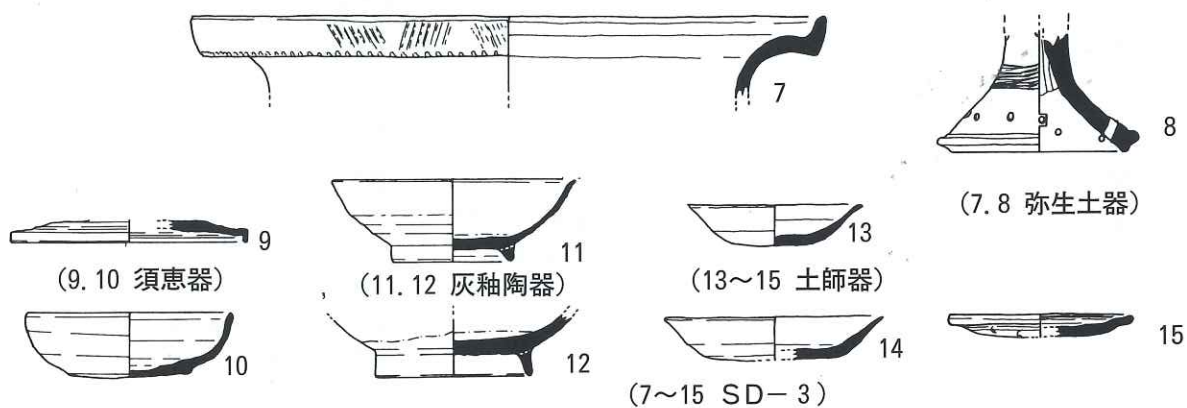
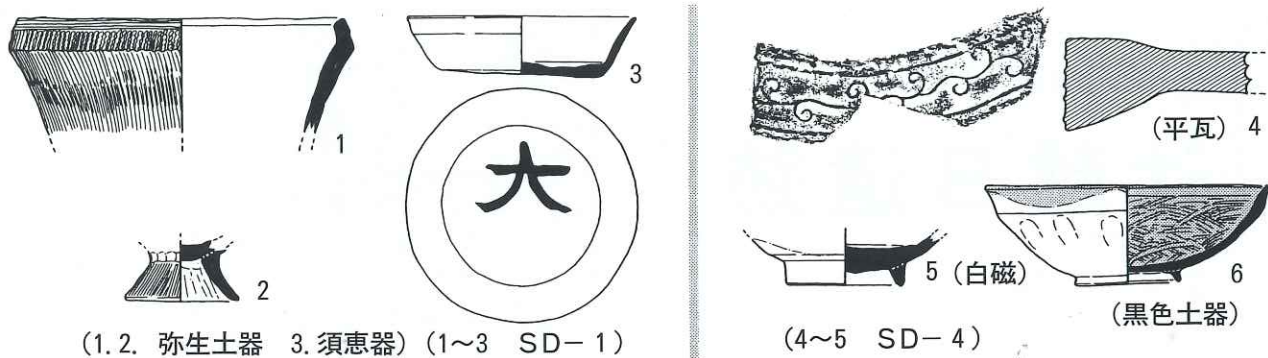


图3 出土遺物実測図

Tsujigoe B

辻越 B 遺跡

(82R096-01)

所在地	栗東町御園字釜8-1 他
	北緯 34° 59' 31"
	東経 136° 01' 47"
コード	321-096
調査期間	1982.11.8~1982.12.29
調査面積	
調査原因	ほ場整備事業
調査担当	清水好洋
調査機関	栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	平安時代~室町時代
主な遺構	掘立柱建物、溝、土壇
主な遺物	黒色土器、土師器、瓦質土器 陶器、硯
文献	

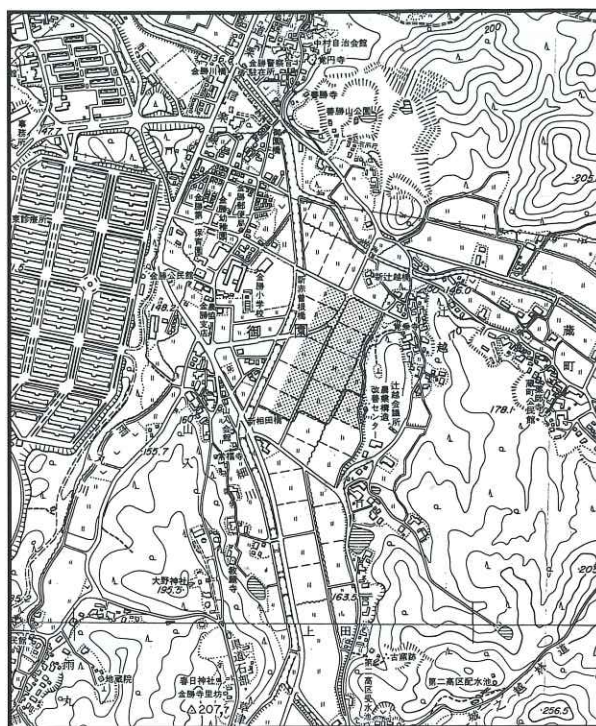


図1 調査地位置図 (S=1/20000)

辻越遺跡は金勝川と細川が合流する地点に小さく開けた谷底平野に所在する。周辺は金勝山周辺から連なる丘陵部となっており、調査地に近接する丘陵地では奈良時代の須恵器窯である辻越窯が存在する。

本調査ではT-5、8、9で遺構が検出された。

T-5では掘立柱建物・柵・土坑や、これらを取り囲むと考えられる溝が検出された。出土遺物の中で特異なものとして、石製硯、瓦質ミニチュア硯があげられる。いずれも溝からの出土である。これらの遺構・遺物は概ね14~15世紀のものであると考えられる。

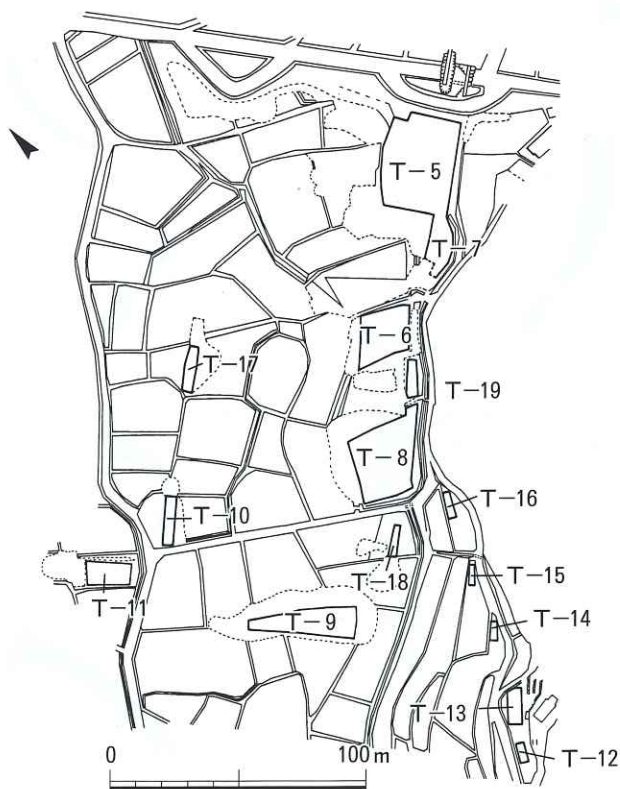


図2 トレンチ配置図



T-5 全景



图3 T-5 遺構図

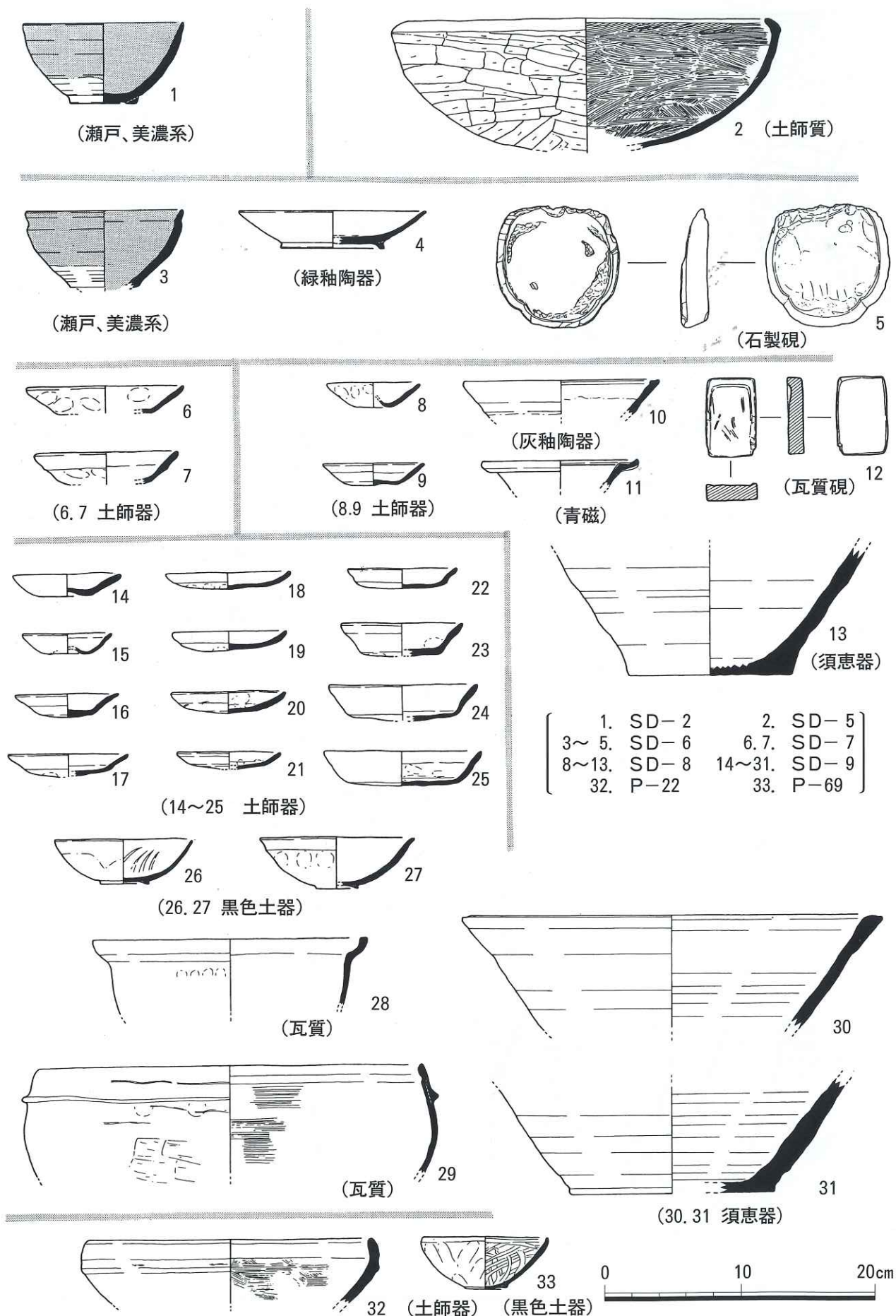


図4 T-5 出土遺物実測図

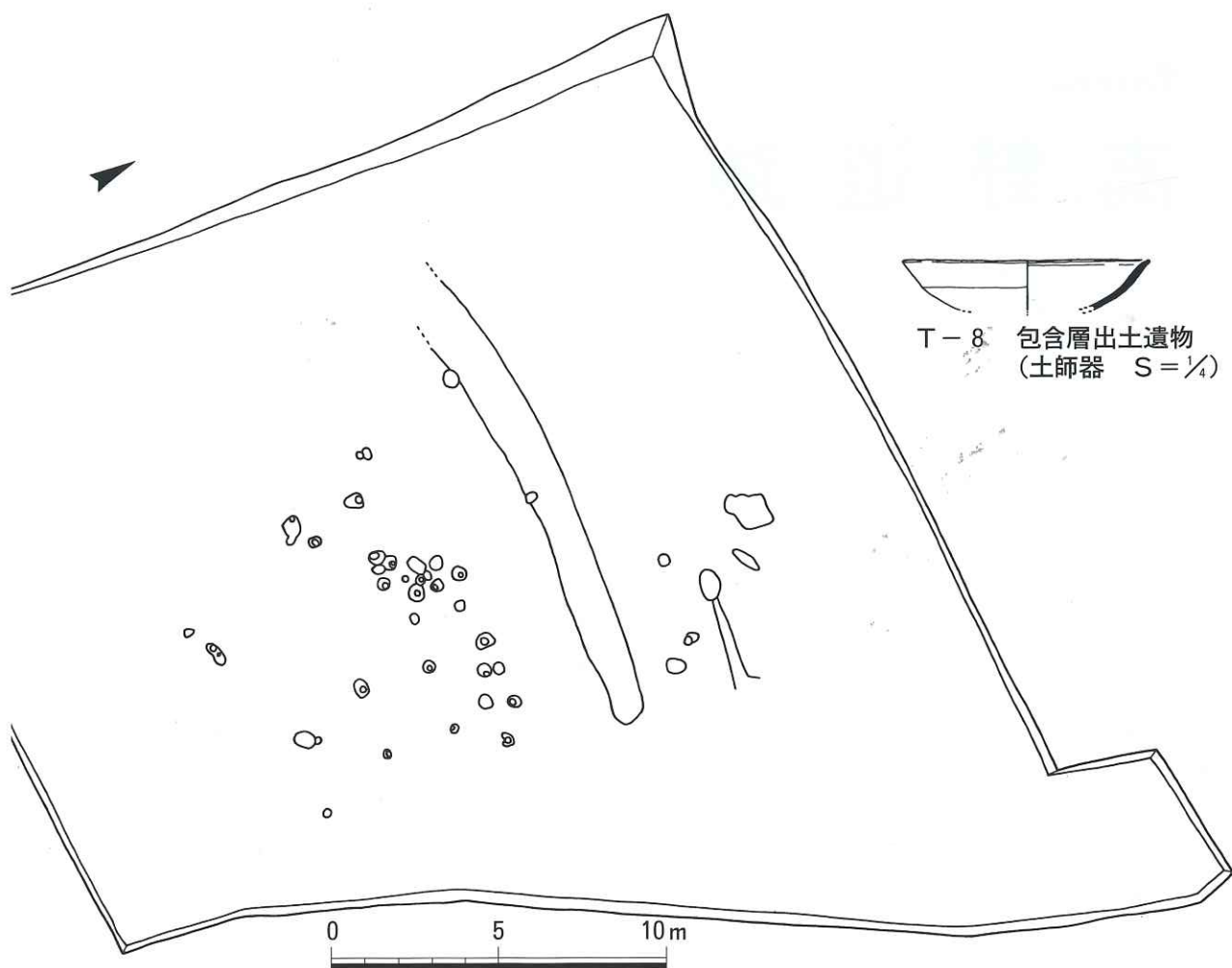


図5 T-8 遺構図および出土遺物実測図

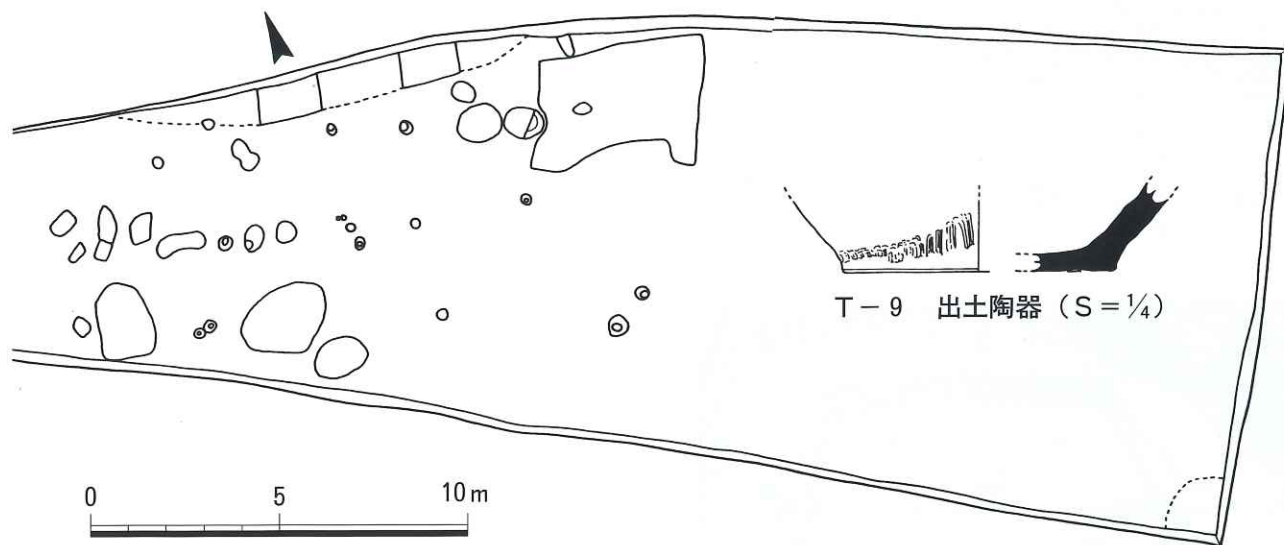


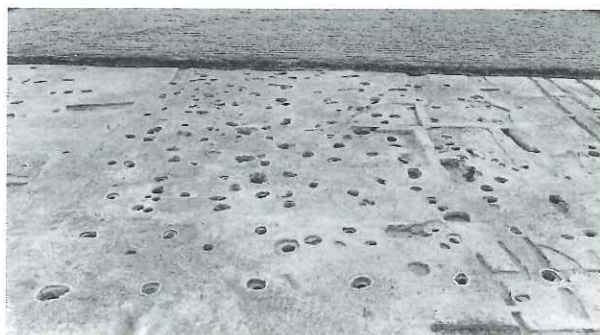
図6 T-9 遺構図および出土遺物実測図

Takano

高野遺跡

(82R092-01)

所在地	栗東町高野字五反田286 他 北緯 35° 01' 49" 東経 136° 00' 52"
コード	321-092
調査期間	1982.7.21~1982.12.11
調査面積	3,000㎡
調査原因	宅地造成
調査担当	平井 寿一
調査機関	(財)栗東町文化体育振興事業団
種別	集落
主な時代	古墳時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居、掘立柱建物、溝
主な遺物	土師器、須恵器、黒色土器 緑釉陶器、灰釉陶器、皇朝十二銭
文献	⑥



掘立柱建物



SH-9

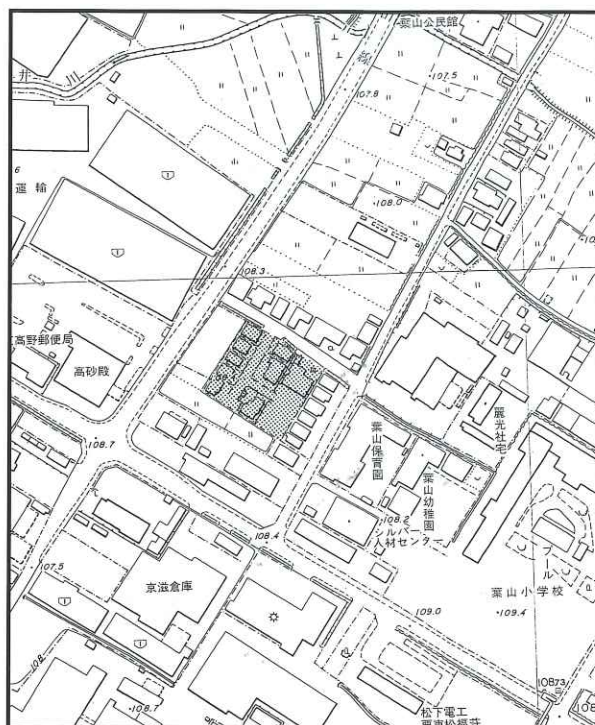


図1 調査地位置図

高野遺跡は野洲川左岸自然堤防上に所在する遺跡で、縄文時代以降の遺構・遺物が出土する複合遺跡である。

本調査区は遺跡の北端部にあたり、古墳時代の集落遺跡として知られる辻遺跡と近接した地点である。調査では平安時代及び古墳時代の遺構が認められた。

平安時代の遺構には、掘立柱建物9棟、溝、土坑がある。掘立柱建物の中でも規模が大きいものには7間以上×6間の建物があり、5時期の建て替えが確認できる。これらの建物の周辺には区画溝(SD-47)、土坑、地鎮と考えられるピット等が発見された。こうした溝やピット、土坑からは土師器がまとまって出土しているほか、緑釉陶器の出土量が多く、器種もバラエティに富んでいるのが特徴的である。

古墳時代の遺構には竪穴住居9棟がある。このうち最大のものには1辺8mを測るもの(SH-11)があり、拡張された痕跡が認められる。竪穴住居はほとんどが床面中央付近に炉をもつものである。遺物は土師器が中心であるが、ほかにSH-9からは小型仿製鏡が出土しており、注目される。

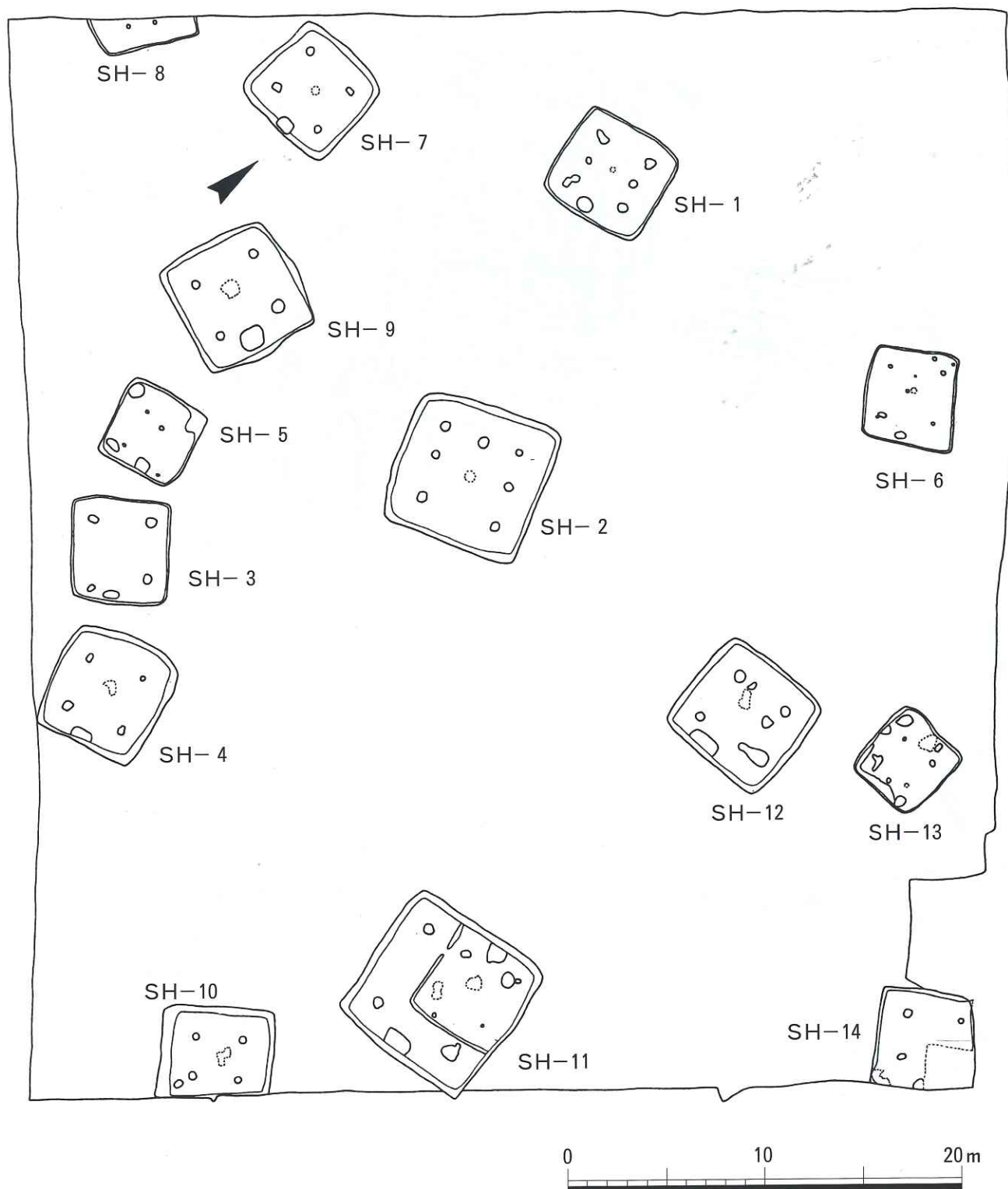


図2 第2遺構面遺構図(古墳時代)



図3 第1遺構面遺構図(平安時代)

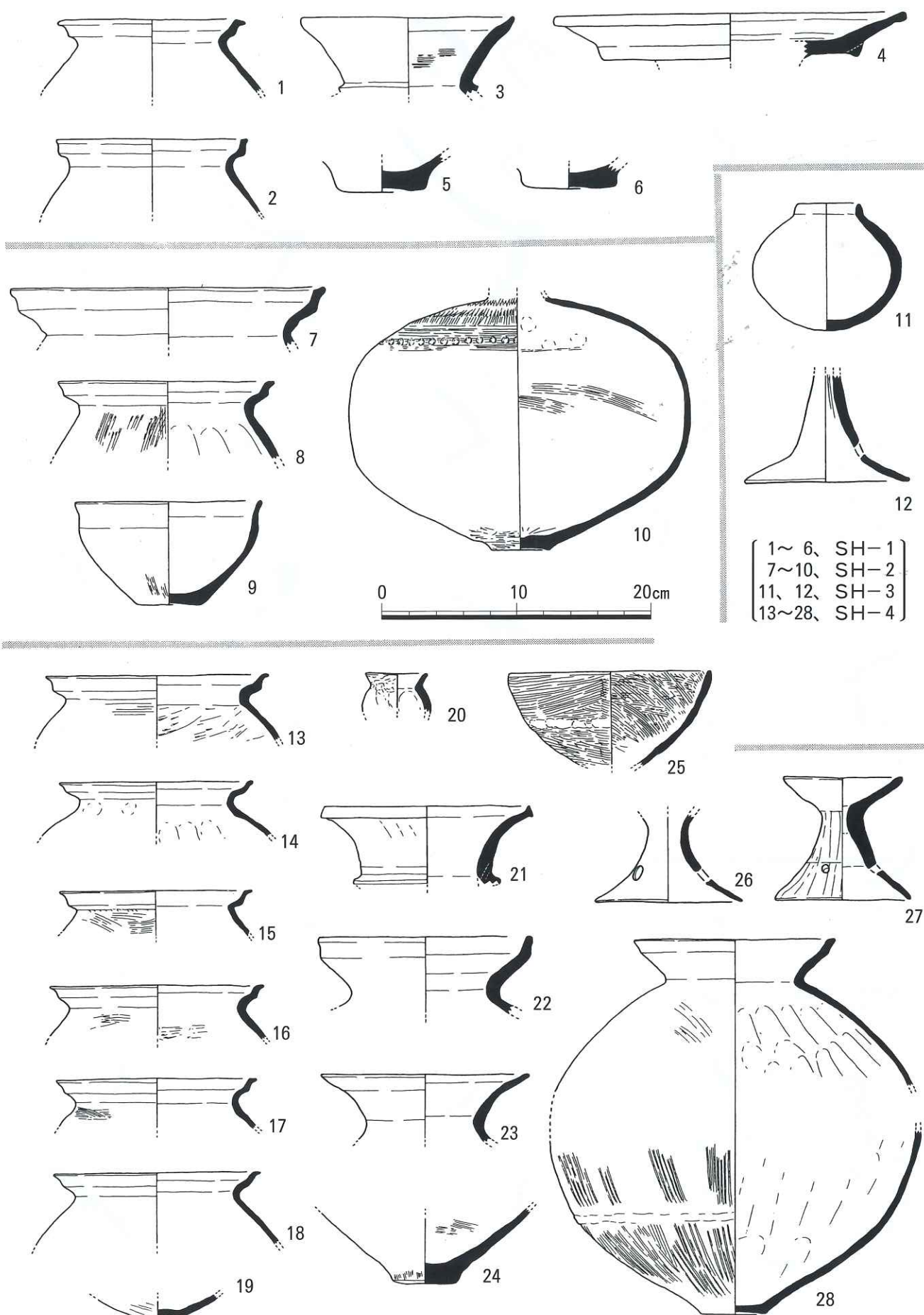


图4 出土土師器実測図 (SH-1~4)

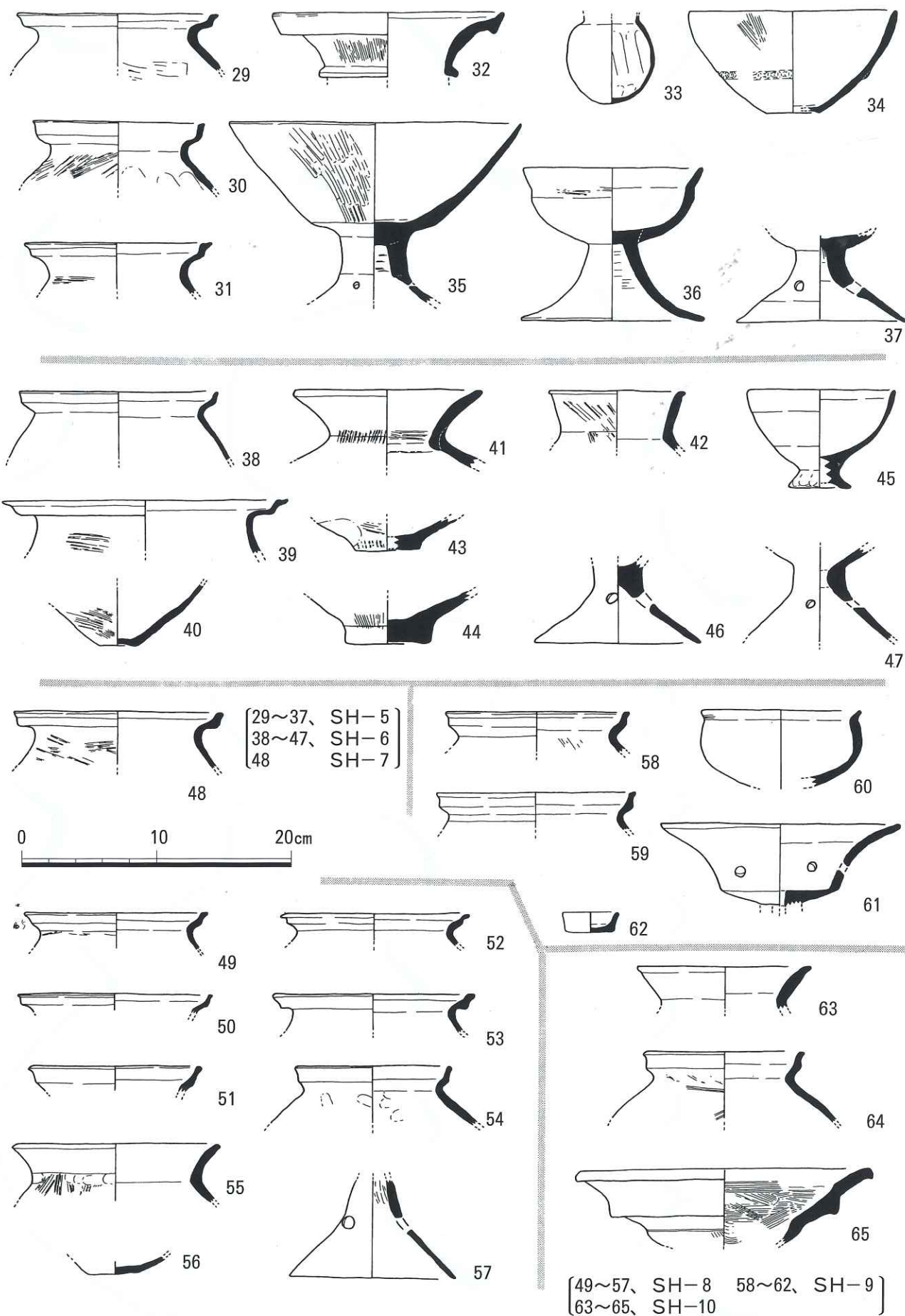
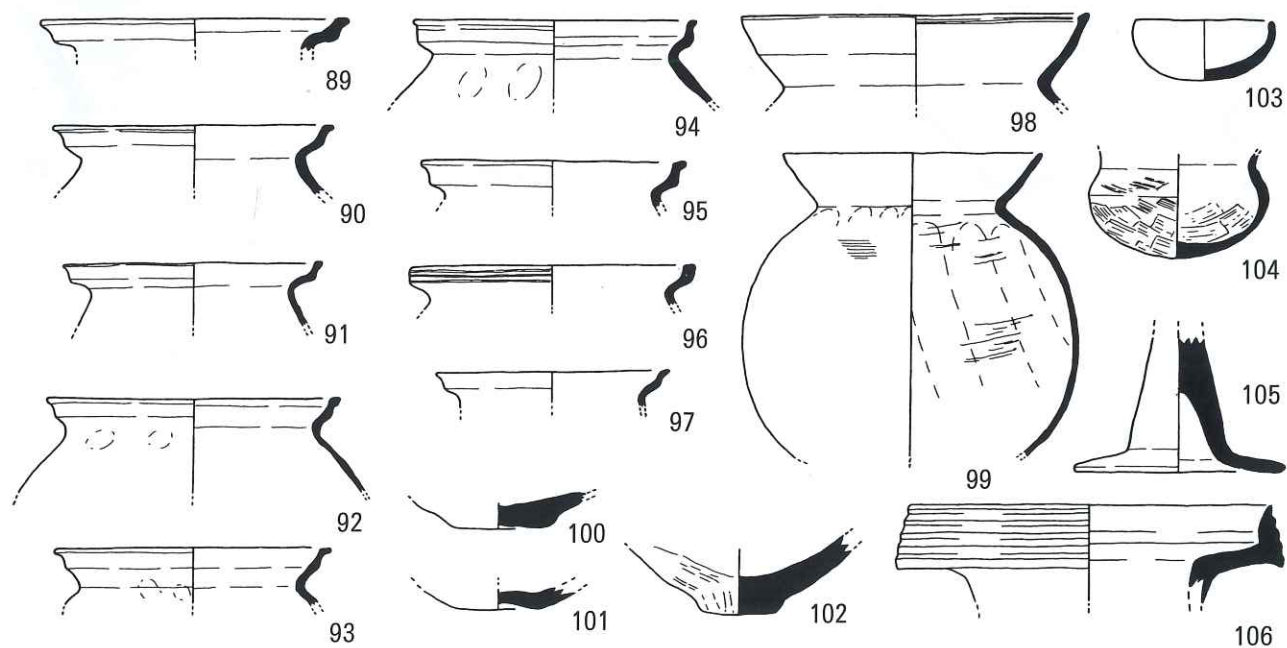
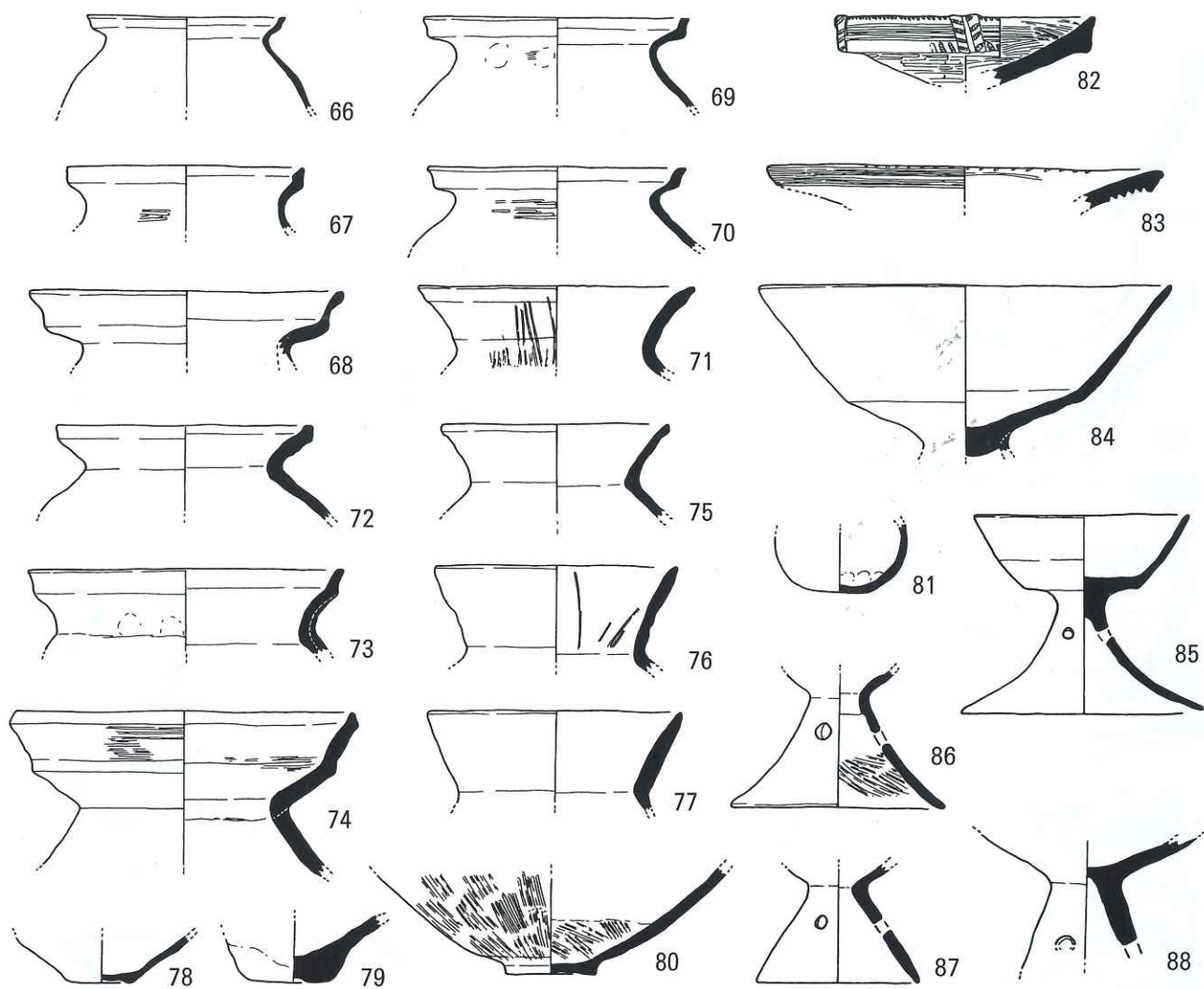
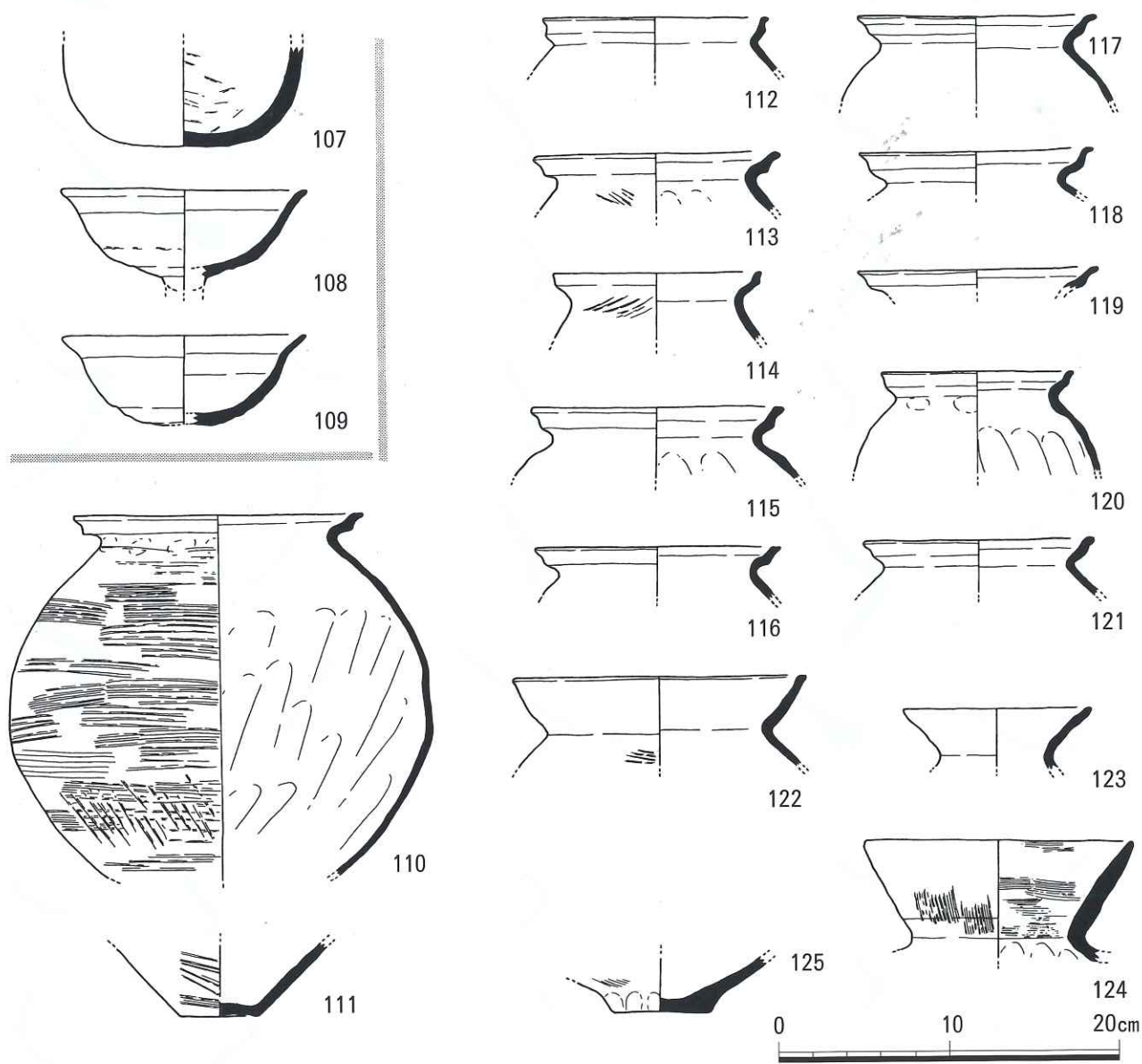


图5 出土土師器実測図 (SH-5~10)



(66~88、SH-11 89~106、SH-12)

图6 出土土師器実測図 (SH-11、12)



(107~109、SH-13 110~125、SH-14)

図7 出土土師器実測図 (SH-13、14)

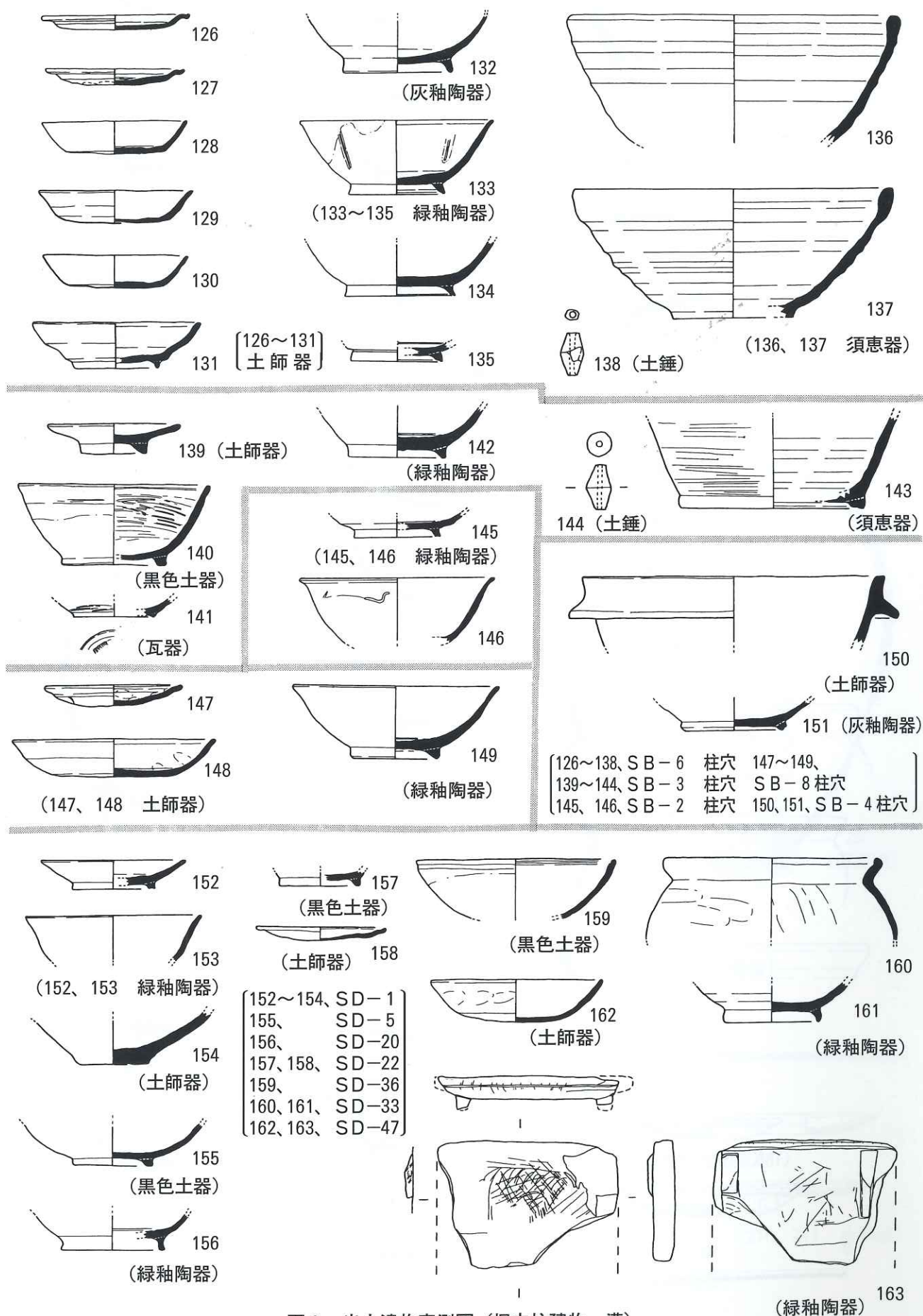


図8 出土遺物実測図 (掘立柱建物、溝)

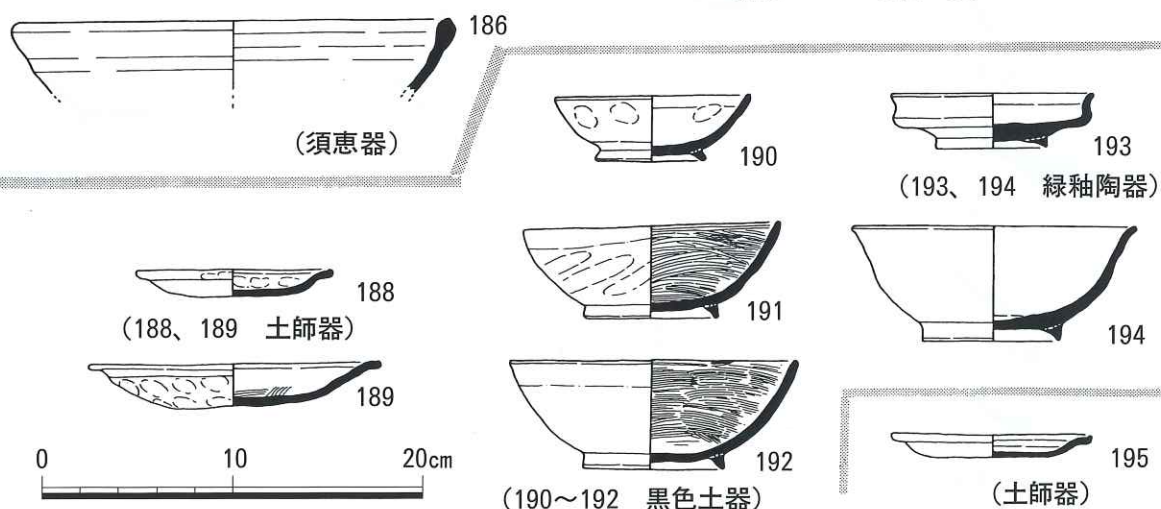
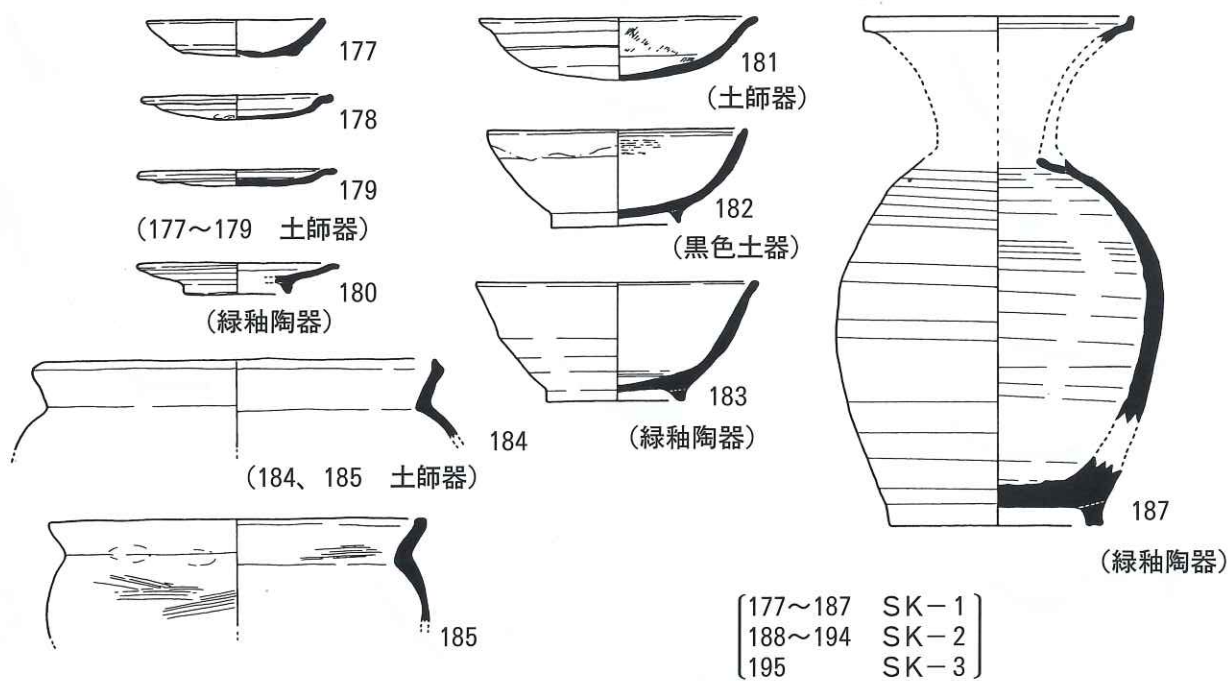
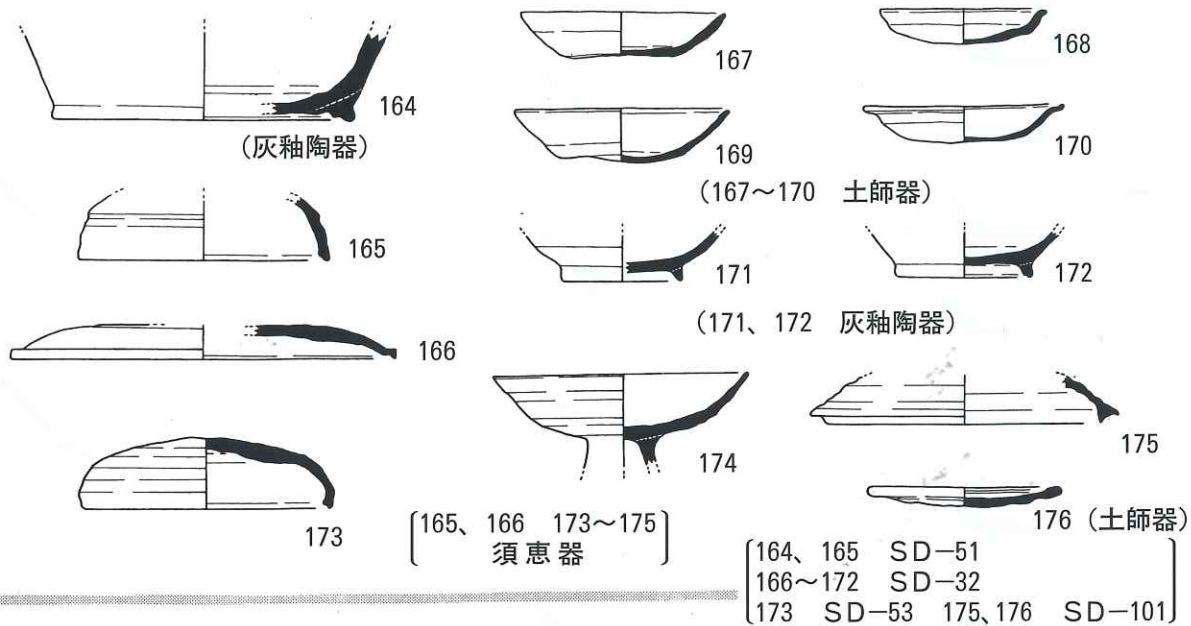
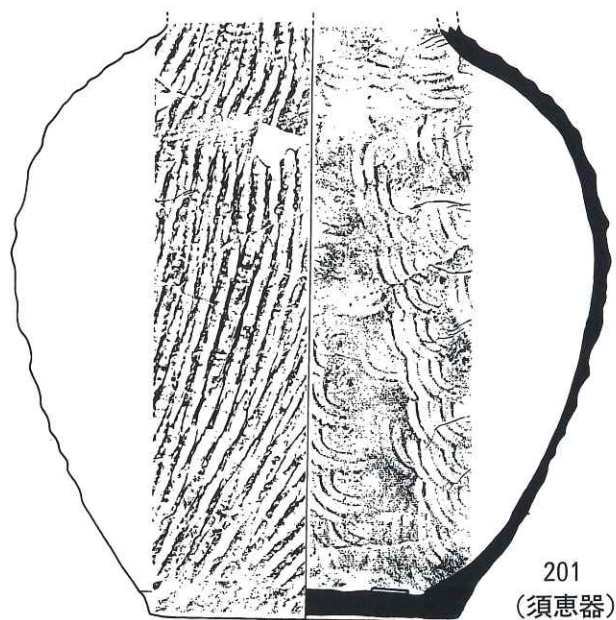
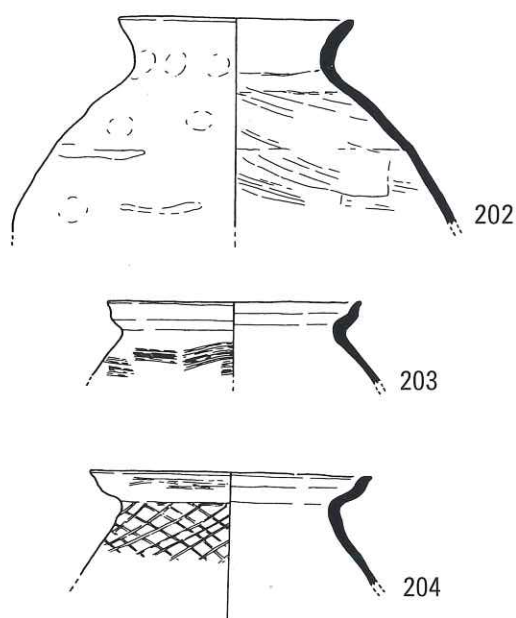
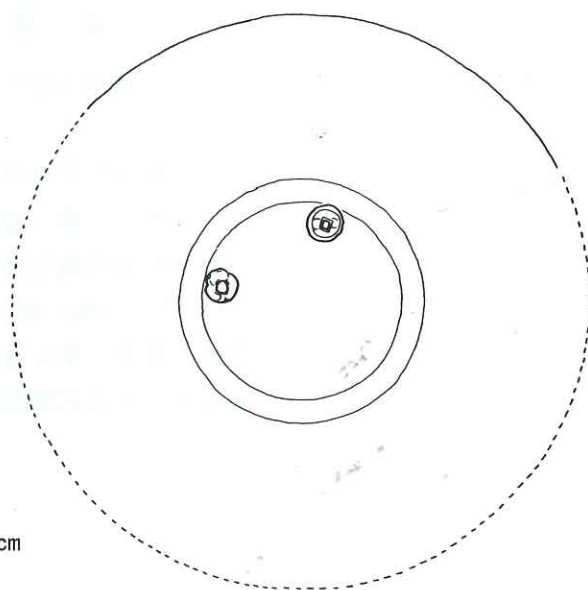
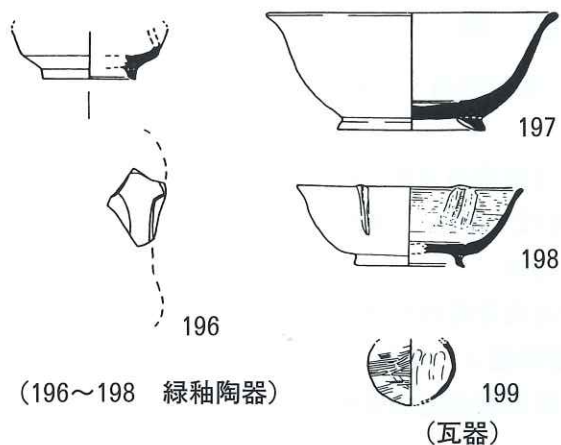
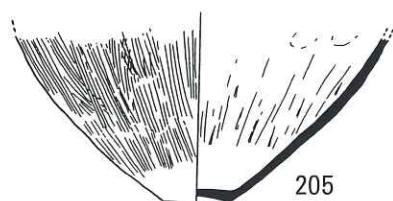


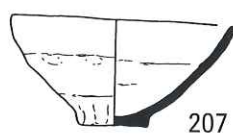
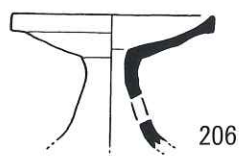
図9 出土遺物実測図 (溝、土壇)



196、P-349	200、P-37
197、P-295	201、P-14
198、P-345	202~211 包含層
199、P-92	



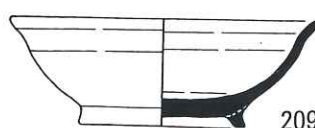
(202~207 土師器)



(須恵器)



(210、211 土師器)



(灰釉陶器)

図10 出土遺物実測図 (ピット、包含層)

～ 文 献 目 録 ～

- ① 大橋信弥 大崎隆志『手原遺跡発掘調査報告書－栗東町商工会館建設に伴う調査－』栗東町教育委員会 栗東町埋蔵文化財調査団 1982
- ② 田中利一「庶民の目から見た埋蔵文化財その1」『栗東の文化』vol.17 1988
- ③ 栗東町史編さん委員会『栗東の歴史』第1巻 古代・中世 1988
- ④ 栗東町教育委員会『町内遺跡分布調査報告書』 1989
- ⑤ 西田 弘「手原廃寺」『近江の古代寺院』近江の古代寺院刊行会 1989
- ⑥ 栗東町史編さん委員会『栗東の歴史』第4巻 資料編Ⅰ 1994
- ⑦ 松村 浩 畑本陽子「栗東町出土の古代軒瓦」『栗東歴史民俗博物館紀要』1996

発行日 1999年3月31日

1980～1982年度
栗東町埋蔵文化財
発掘調査資料集

編集・発行 (財)栗東町文化体育振興事業団
埋蔵文化財調査課
〒520-3011
滋賀県栗太郡栗東町大字下戸山47番地
栗東町出土文化財センター内
TEL. 077-553-3359
FAX. 077-553-3514

印刷・製本 株式会社スマイ印刷工業
〒520-3014
滋賀県栗太郡栗東町大字川辺568-2
TEL. 077-552-1045(代)
FAX. 077-552-0890